

ハード編

FMV-BIBLO

MF/33

パソコンの各部は
こうなっている

基本的な機能を使おう

電源と節電機能を賢く使おう

オプション機器を活用しよう!

BIOSセットアップ

技術情報

索引



こんなことがやりたい

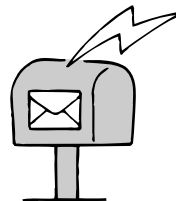
コードレスにしたい！



喫茶店や会議室などコンセントが使えない場所では、ACアダプタを取り外して、バッテリーでパソコンが使えます。

➡ P.67

携帯電話でインターネットにアクセスしたい！



携帯電話でメールを送ったり、インターネットのホームページを見るときは、携帯電話を接続します。

➡ P.105

使い慣れたマウスで快適作業！



フラットポイントに慣れないときは、別売のマウスを接続して作業しましょう。

➡ P.98

印刷したい！



企画書、年賀状、家計簿...パソコンで作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

➡ P.89

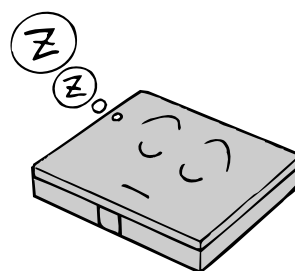
もっと快適に作業したい！



たくさんのアプリケーションを開いたり、ゲームをしているとき「パソコンの処理が遅いなあ」と感じたことはありませんか？メモリを増設すると、より快適に作業ができます。

➡ P.93

休憩するときは、一時停止で節電！



液晶ディスプレイを閉じるか、SUS/RESスイッチを押すだけで、パソコンの作業を一時停止して、節電できます。

➡ P.74

電卓をたたくのは得意なの！ 家計簿もすばやく入力したい！



キーボードでは数字の位置がなかなか覚えられなくて...というときは、別売のテンキーボードを使って数字を入力できます。

👉P.98

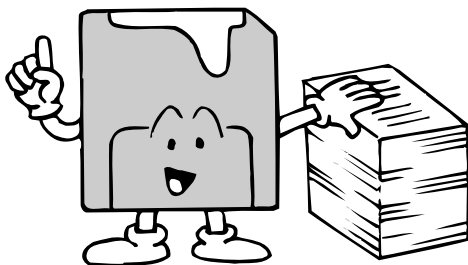
大画面でプレゼンテーション！！



CRTディスプレイや液晶プロジェクタにBIBLOの画面を映すことができます。

👉P.114

たくさんの容量のデータを保存したい！



スーパーディスクやMO（光磁気ディスク）を使って、大容量のデータをコピーしたり、バックアップとして保存できます。

👉P.127、P.129

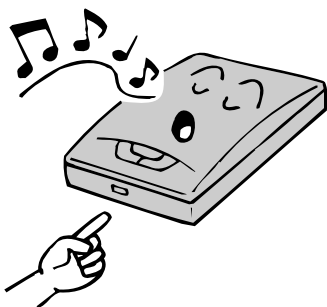
BIBLOで映画も見たい！



別売のDVD-ROMドライブを取り付けると、BIBLOで映画も楽しめます。

👉P.125

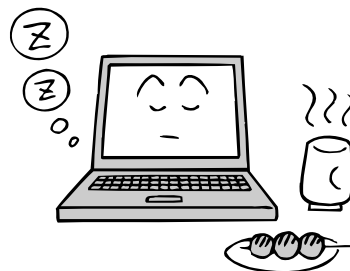
BIBLOで音楽が聞きたい！



BIBLOを起動していないときでも、CD再生ボタンを押すと気軽に音楽CDを楽しめます。

👉P.50

節電設定で省エネしよう！



BIBLOを使っていないときも電源を入れたままにいませんか？自動的に電力をセーブして、電力の無駄使いを防ぎましょう。



👉P.171

本書の表記について




安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。










本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。



また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次のような記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容(左図の場合は感電注意)が示されています。
	⓪で示した記号は、してはいけない行為(禁止行為)であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容(左図の場合は一般的な禁止事項)が示されています。
	で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容(左図の場合は一般的な強制事項)が示されています。

その他の記号について

 重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 アドバイス	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
 コラム	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROM を表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
 用語	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

画面例および入力例について

- ・表記されている画面は一例です。お使いのモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- ・お客様に入力していただく文字列(コマンドライン)などは、入力例の文字上に  をかけて表しています。
- ・特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- ・入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。
 dir c:
 この場合は、「dir」と入力したあと、 を1回押し、続けて「c:」と入力してください。
- ・画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows®98 operating system	Windows98
Microsoft® WindowsNT® Workstation operating system Version4.0	WindowsNT4.0
Microsoft® Internet Explorer	Internet Explorer
Intellisync® for Notebooks	Intellisync
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan

機種名の表記について

次のように略して表記します。

機種名	本書の表記
FMV-BIBLO MF/33	本パソコン

Contents

目次

こんなことがやりたい
本書の表記について

FMV
BIBLO
Contents

第 1 章 パソコンの各部はこうなっている

1. 各部の名称と働き	2
本体前面	2
本体左側面	5
本体右側面	6
本体背面	8
本体下面	9
コネクタボックス前面	10
コネクタボックス背面	10
状態表示 LCD	12
キーボード	14
FDD ユニット	17
マルチベイヤダプタ	18
2. 本パソコンの取り扱い上の注意	21
取り扱い上の注意	21
廃棄について	22

第 2 章 基本的な機能を使おう

1. コネクタボックスを使う	24
コネクタボックスを取り付ける	24
コネクタボックスを取り外す	25
2. マルチベイヤダプタを使う	27
気をつけてください~マルチベイヤダプタを使うとき	27
マルチベイヤダプタを取り付ける	28
マルチベイヤダプタを取り外す	29
マルチベイヤダプタに取り付けられるユニット	31
ユニットを交換する	32
3. フロッピーディスクを使う	35
FDD ユニットを取り付ける	35
FDD ユニットを取り外す	38
使えるフロッピーディスクは?	41
気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき	42
フロッピーディスクをセットする / 取り出す	42
フロッピーディスクのデータを守るには	44
4. CD-ROM を使う	45
使える CD は?	45
気をつけてください~ CD-ROM を使うとき	45
CD-ROM をセットする / 取り出す	46
音楽 CD を聞く	50

5. 音量を調節する	52
音量ボリュームで調節する	52
音量つまみで調節する	52
6. 画面の解像度や発色数を変える	54
液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数	54
液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える	54
7. 液晶ディスプレイの明るさを変更する	57
明るさを設定する	57
設定した明るさを変更する	57
8. お手入れのしかた	58
パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ	58
フロッピーディスクドライブのお手入れ	58

第3章 電源と節電機能を賢く使おう

1. 電源を入れる / 電源を切る	62
電源を入れてパソコンを使おう	62
今日はおしまい。電源を切るには?	63
2. AC アダプタで使う	65
AC アダプタを取り付ける	65
AC アダプタを取り外す	66
3. バッテリーで使う	67
充電する	67
充電時間	68
稼働時間	68
残量を確認する	69
気をつけてください~バッテリーを使うとき	72
内蔵バッテリーパックを交換する	72
4. 節電する	74
サスペンド機能と Save To Disk 機能	74
サスペンド機能を使う	75
Save To Disk 機能を使う	78

コラム 節電機能について

5. 節電の設定を変更する	81
ご購入時の節電の設定	81
「電源の管理」で設定を変更する	81
「PMSet98」で設定を変更する	82

第4章 オプション機器を活用しよう！

1. オプション機器について	86
オプション機器の紹介	86
オプション機器の接続にあたって	87
2. プリンタを接続する	89
必要なものを用意する	89
プリンタを接続する	90
3. メモリを増やす	93
必要なものを用意する	93
メモリを取り付ける / 取り外す	93
4. マウス / テンキーボードを接続する	98
5. PC カードをセットする	99
コラム PC カードの種類	99
気をつけてください～ PC カードを使うとき	100
必要なものを用意する	100
PC カードをセットする	101
PC カードを取り出す	103
6. 携帯電話や PHS を接続する	105
PDC コネクタに接続する	105
PC カードを使って接続する	107
PDC コネクタに携帯電話を接続して通信する	109
7. CRT ディスプレイを接続する	114
必要なものを用意する	114
CRT ディスプレイを接続する	115
ディスプレイの表示を切り替える	117
CRT ディスプレイの解像度と発色数について	122
リフレッシュレートを変更する	123
8. 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける	125
必要なものを用意する	125
内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける	126
9. 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける	127
必要なものを用意する	127
内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける	127
10. その他のオプション機器を使う	129
ハードディスクを使う	129
MO (光磁気ディスク) ドライブを使う	130
バッテリーチャージャを使う	130

第 5 章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは	132
2. BIOS セットアップの操作のしかた	133
BIOS セットアップを起動する	133
設定を変更する	134
変更内容を取り消す	136
BIOS セットアップを終了する	137
3. ご購入時の設定に戻す	138
4. BIOS セットアップのメニュー詳細	139
メインメニュー	139
詳細メニュー	140
セキュリティメニュー	143
省電力メニュー	145
起動メニュー	147
情報メニュー	147
終了メニュー	148
5. BIOS のパスワード機能を使う	149
パスワード機能について	149
パスワード機能を設定する	150
パスワードを入力する	152
パスワードを変更 / 削除する	153
6. BIOS が表示するメッセージ一覧	155
メッセージ一覧	155
メッセージが表示されたときは	160

第 6 章 技術情報

1. 仕様一覧	162
本体	162
コネクタボックス	164
マルチベイアダプタ	164
モデム	165
リソース一覧	166
コネクタのピン配列と信号名	167
CRT ディスプレイの走査周波数	169
2. Save To Disk 領域	171
Save To Disk 領域について	171
Save To Disk 領域の容量	171
Save To Disk 領域を変更する	172

3. 赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意	174
制限事項	174
赤外線通信をするときの注意	174
転送速度について	175
Windows98 の赤外線機能を使用しているとき	175
Intellisync の設定を確認する	176
4. モデムについて	177
内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意	177
電話回線の接続口の形状	178
電話回線に電話機を取り付けているとき	179
認証番号の表示	179
5. ドライバのインストール	180
インストールのときに気をつけること	180
ディスプレイドライバをインストールする	181
サウンドドライバをインストールする	186
Logitech MouseWare をインストールする	191
CD ボタンハンドラの削除 / インストール	193
6. その他の注意事項	195
ACPI について	195
索引	203

第 1 章

パソコンの各部はこうなっている

本書では、パソコン本体の各部の名称と働きや、取り扱い上の注意について説明しています。

- 1. 各部の名称と働き 2
- 2. 本パソコンの取り扱い上の注意 21



1

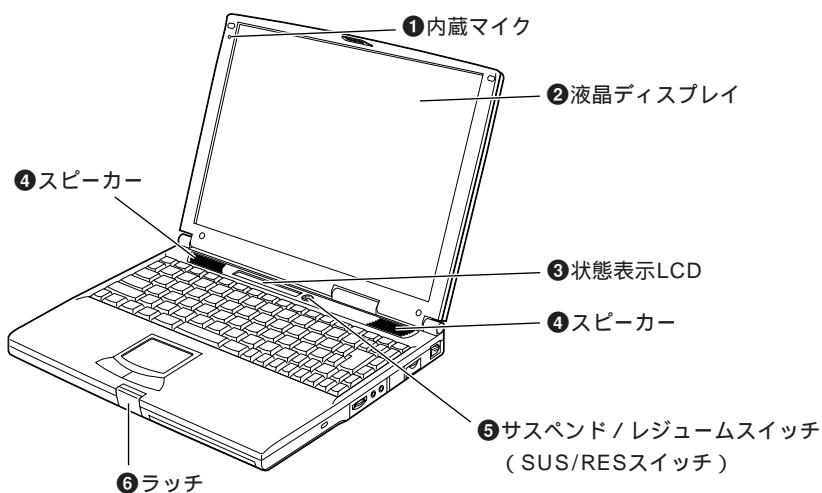
各部の名称と働き

パソコン本体各部の名称と働きを、以下の部分ごとに説明します。

- ・ 本体前面 ←P.2
- ・ 本体右側面 ←P.6
- ・ 本体下面 ←P.9
- ・ コネクタボックス背面 ←P.10
- ・ キーボード ←P.14
- ・ マルチベイヤダプタ ←P.18
- ・ 本体左側面 ←P.5
- ・ 本体背面 ←P.8
- ・ コネクタボックス前面 ←P.10
- ・ 状態表示 LCD ←P.12
- ・ FDD ユニット ←P.17

本体前面

前面 1



- ① 内蔵マイク**
音声を録音するときなどに使います。
- ② 液晶ディスプレイ**
パソコンの画面を表示します。
- ③ 状態表示 LCD**
エルシーディ
パソコンの状態を表示します。
「状態表示 LCD」(←P.12)
- ④ スピーカー**
音声を出力します(ステレオ)。

⑤ サスペンド/レジュームスイッチ

パソコンをサスペンド(一時停止)する、またはレジュームする(サスペンドする前の状態に戻す)ためのスイッチです。

4秒以上押すと、強制的に電源が切れます。通常は4秒以上押さないでください。

本書ではSUS/RESスイッチと表記します。

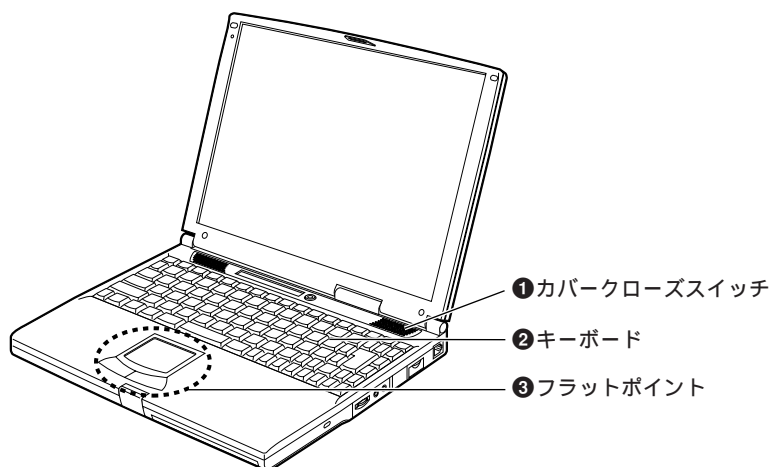
「節電する」(☞P.74)

⑥ ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。

液晶ディスプレイを開くときは、ラッチを押してロックを外します。

前面 2




- 1 カバークローズスイッチ**
液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンド（一時停止）し、開けたときにレジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）ためのスイッチです。
「液晶ディスプレイを閉じる」(☞P.76)
- 2 キーボード**
文字を入力したり、パソコンに命令を与えます。
「キーボード」(☞P.14)
- 3 フラットポイント**
操作面を上下左右になぞり、マウスポインタを操作します。
手前のボタンは、マウスの左ボタン、右ボタンに相当します。また、操作面を1本の指でたたくと左ボタン、3本の指でたたくと右ボタンを押したときと同じ機能になります。

アドバイス

マウスの設定を変えるには

「コントロールパネル」の「マウス」で変更できます。マウスポインタの速度を変えたり、左右ボタンの役割を入れ替えることができます。

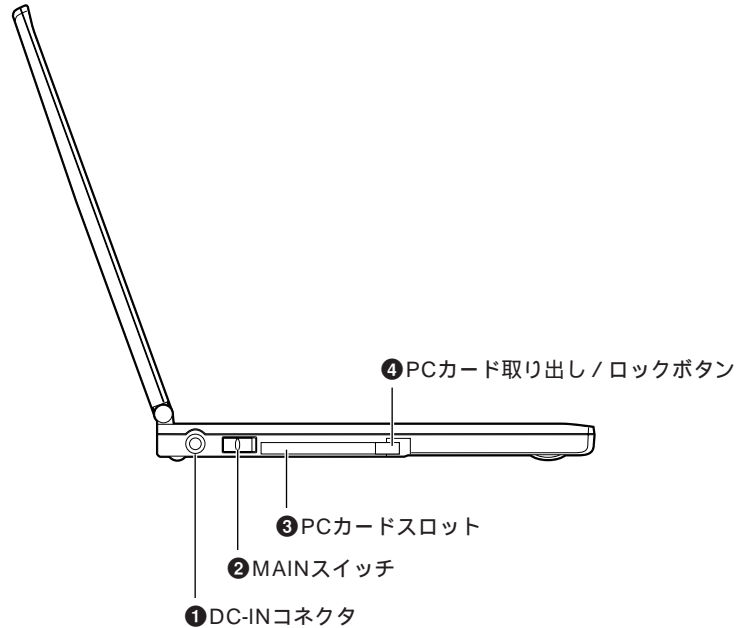
詳しくは、デスクトップにある『パソコン便利帳』の「Q&A」の「マウス」をご覧ください。

パソコン便利帳については、『F M V 総合案内』をご覧ください。

本体左側面

1

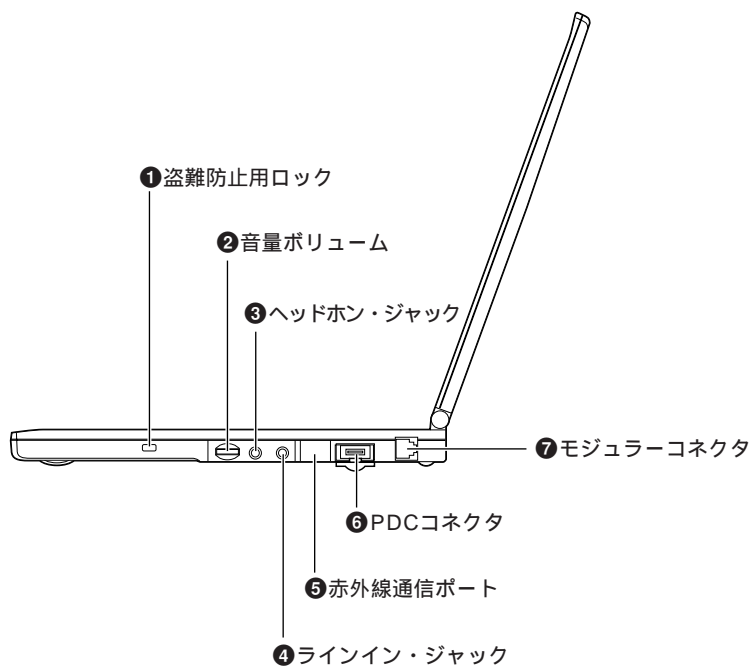
パソコンの各部分はこうなっている(各部分の名称と働き)



- ① DC-IN コネクタ**
ディーシーイン
添付の AC アダプタ経由でコンセントに接続するためのコネクタです。
「AC アダプタを取り付ける」(☞P.65)
- ② MAIN スイッチ**
メイン
パソコン本体の電源を入れたり、切ったりするためのスイッチです。
奥(| 側)にスライドすると電源が入り、手前(側)にスライドすると電源が切れます。手前(側)にスライドする前に必ず「Windowsの終了」を行ってください。
「電源を入れる / 電源を切る」(☞P.62)
- ③ PC カードスロット**
ピーシー
別売の PC カードをセットするためのスロットです。
「PC カードをセットする」(☞P.99)
- ④ PC カード取り出し / ロックボタン**
ピーシー
PC カードを取り出すときに押します。PC カードをセットしているときは、PC カードが抜けないようにこのボタンを倒してロックします。
「PC カードをセットする」(☞P.99)

5

本体右側面



① 盗難防止用ロック

盗難防止用ケーブルを接続することができます。

Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応しています。

商品名 : マイクロサーバー (セキュリティワイヤー)

商品番号 : 0522010

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ:03-3342-5375)

② 音量ボリューム

音量を調節します。

手前に回すと小さく、奥に回すと大きくなります。

「音量を調節する」(←P.52)


③ ヘッドホン・ジャック


市販のヘッドホンを接続するための端子です。

ここに取り付けられるものは、外径3.5mmのミニプラグをもつヘッドホンやアンプ内蔵外部スピーカーです。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。



注意

聴力障害  ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害  ヘッドホンをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。ヘッドホンの破損防止のため、パソコン本体の音量を最小にしておいてから、ヘッドホンを接続してください。

④ ラインイン・ジャック

AV 機器の出力端子と接続するための端子です。

⑤ 赤外線通信ポート

赤外線通信の送受光部です。

赤外線通信ポートは、添付のアプリケーション「Intellisync」でお使いになります。

「赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意」(←P.174)

⑥ PDC コネクタ

ビデオシー

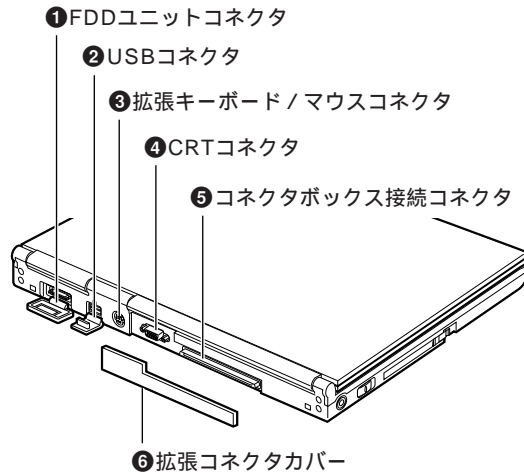
携帯電話と接続するためのコネクタです。WindowsNT4.0ではお使いになれません。

「PDC コネクタに接続する」(←P.105)

⑦ モジュラーコネクタ

インターネットやパソコン通信をするとき、添付のモジュラーケーブルを使って電話回線と接続するためのコネクタです。

本体背面



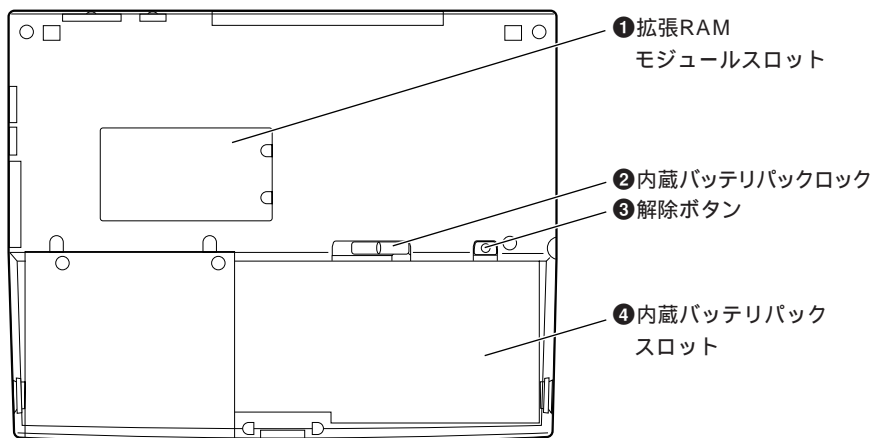
- ① FDD ユニットコネクタ**
FDDケーブルを使ってFDDユニットをパソコン本体と接続するためのコネクタです。
「FDD ユニットを取り付ける」(←P.35)
- ② USB コネクタ**
ユーエスピー
USB規格対応の機器を接続するためのコネクタです。
- ③ 拡張キーボード/マウスコネクタ**
別売のテンキーボードやマウスを接続するためのコネクタです。
「マウス/テンキーボードを接続する」(←P.98)
- ④ CRT コネクタ**
シーアールディー
別売のCRTディスプレイを接続するためのコネクタです。
「CRTディスプレイを接続する」(←P.114)
- ⑤ コネクタボックス接続コネクタ**
添付のコネクタボックスを接続するコネクタです。
「コネクタボックスを取り付ける」(←P.24)
- ⑥ 拡張コネクタカバー**
コネクタを保護しています。
CRTディスプレイやコネクタボックスを接続していないときは、拡張コネクタカバーを取り付けておいてください。

用語

機器の接続に関する規格です。USB規格に対応した機器には、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、スピーカーなどがあります。

本体下面

1

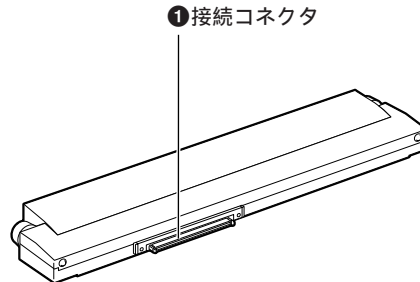


- ① 拡張RAM^{ラム} モジュールスロット**
別売のメモリ（拡張RAM モジュール）を取り付けるためのスロットです。
「メモリを増やす」(←P.93)
- ② 内蔵バッテリーパックロック**
内蔵バッテリーパックを取り外すときにスライドします。
- ③ 解除ボタン**
内蔵バッテリーパックスロットのロックを解除するときに押すボタンです。
- ④ 内蔵バッテリーパックスロット**
内蔵バッテリーパックが装着されているスロットです。

パソコンの各部はこうなっている（各部の名称と働き）

9

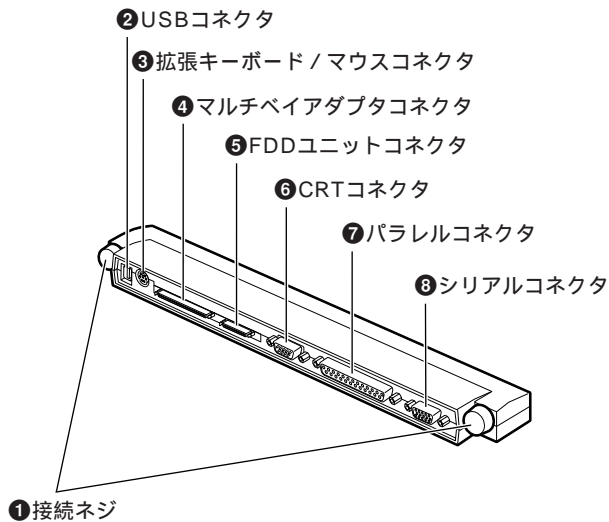
コネクタボックス前面



① 接続コネクタ

パソコン本体にコネクタボックスを取り付けるためのコネクタです。
「コネクタボックスを取り付ける」(←P.24)

コネクタボックス背面



① 接続ネジ

コネクタボックスがパソコン本体にしっかり接続するように、ネジを回してロックします。

「コネクタボックスを使う」(←P.24)

② USB コネクタ

USB 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

用語

USB



マウス、キーボード、プリンタ、モデム、スピーカーなどの機器の接続に関する規格です。

- ③ 拡張キーボード / マウスコネクタ
別売のキーボードやマウスを接続するためのコネクタです。
「マウス / テンキーボードを接続する」(☞P.98)
- ④ マルチベイヤダプタコネクタ
マルチベイヤダプタを接続するためのコネクタです。
「マルチベイヤダプタを取り付ける」(☞P.28)
- ⑤ FDD ユニットコネクタ
FDD ケーブルを使って FDD ユニットを接続するためのコネクタです。
「FDD ユニットを取り付ける」(☞P.35)
- ⑥ CRT コネクタ
別売の CRT ディスプレイを接続するためのコネクタです。
「CRT ディスプレイを接続する」(☞P.114)
- ⑦ パラレルコネクタ
別売のプリンタなどを接続するためのコネクタです。
「プリンタを接続する」(☞P.89)
- ⑧ シリアルコネクタ
RS-232C 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

状態表示 LCD

アドバイス

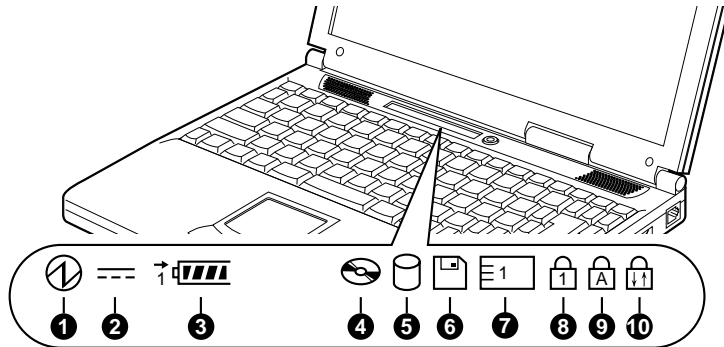
電源を切っているとき

状態表示 LCD の全表示が消えます。ただし、充電中は  と  が表示され、充電が完了すると消えます。

エルシーディー

電源を入れると状態表示 LCD にマークが表示されます。

これらのマークは、バッテリー残量など、本パソコンのさまざまな状態を表しています。



① ^{サスレス}SUS/RES 表示 ()

本パソコンで作業ができる状態のときに表示されます。


サスペンド（一時停止）状態のときは、点滅します。

「サスペンド機能を使う」(←P.75)

② ^{エーシー}AC アダプタ表示 ()


AC アダプタから電力が供給されているときに表示されます。


③ バッテリーパック装着表示 ()

・  は、本パソコンにあらかじめ内蔵されている、内蔵バッテリーパックを示しています。電源を入れる则表示されます。

・ バッテリー充電表示 ()

バッテリーの充電中に表示されます。

バッテリーが熱くなっていたり、冷えていたりするときは、バッテリーの保護機能が働き、適温になるまでバッテリーの充電を開始しないことがあります。この場合は  が点滅します。

・ バッテリー残量表示 ()

バッテリーの残量が表示されます。


「残量を確認する」(←P.69)



④ CD-ROM ドライブアクセス表示 ()

CD-ROM (CD-ROM ドライブユニット取り付け時) や、DVD-ROM (別売の内蔵 DVD-ROM ドライブユニット取り付け時) にアクセスしているときに表示されます。

アドバイス

(CD-ROM ドライブアクセス表示) の点滅を止めるには

CD-ROM をセットしていないときでも、状態表示 LCD に  が表示されることがあります。これは CD-ROM ドライブに CD-ROM が入っているかどうかを Windows98 が定期的に調べているためです。次の操作を行うと点滅を止めることができます。ただし自動で起動する CD-ROM をセットしても、自動起動の機能は働かなくなります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
デバイスの一覧が表示されます。
- 4 「CD-ROM」の左の  をクリックします。
「TEAC CD-224E」が表示されます。
- 5 「TEAC CD-224E」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
「TEAC CD-224E のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 6 「設定」タブをクリックし、「挿入の自動通知」をクリックして、 を にします。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 「システムのプロパティ」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
- 9 表示されるメッセージに従って、再起動します。

自動起動の機能を使いたいときは、手順 6 で「挿入の自動通知」を にしてください。

5 ハードディスクアクセス表示 ()



内蔵のハードディスクにアクセスしているときに表示されます。

6 フロッピーディスクアクセス表示 ()

フロッピーディスク (FDD ユニット取り付け時) や、スーパーディスク (別売の内蔵スーパーディスクドライブユニット取り付け時) にアクセスしているときに表示されます。


重要

や が表示されているときの注意


状態表示 LCD に  や  が表示されているときは、MAIN スイッチを手前 (側) にスライドしたり、サスペンドしないでください。ハードディスク、フロッピーディスクまたはスーパーディスクのデータが壊れるおそれがあります。

7 PC カードアクセス表示 ()

PC カードにアクセスしているときに表示されます。

- ⑧ **Num Lock 表示** ()
ニューメリカル ロック
 テンキーモードになっているときに表示されます。
 テンキーモードの設定と解除を切り替えます。
 「テンキーモードについて」(←P.17)

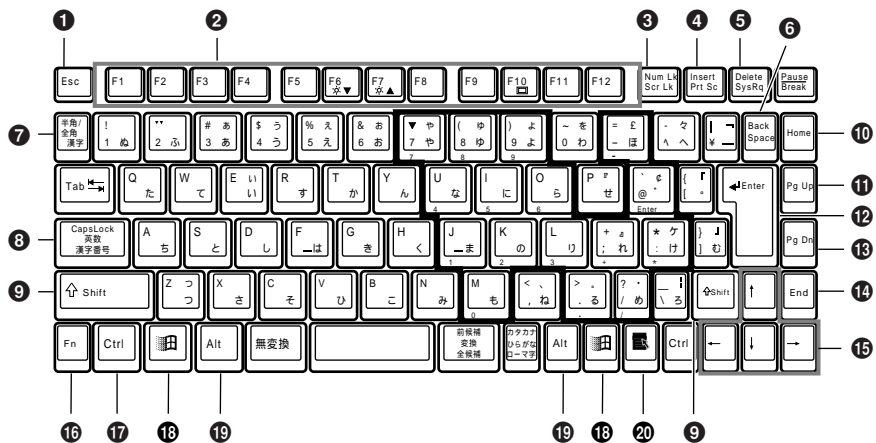
- ⑨ **Caps Lock 表示** ()
キャプス ロック
 英大文字固定モード(英字を大文字で入力する状態)になっているときに表示されます。**[Shift]** を押しながら **[CapsLock]** を押して、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

- ⑩ **Scroll Lock 表示** ()
スクロール ロック
[Fn] を押しながら **[Scr Lk]** を押して、画面がスクロールしないように設定すると表示されます。もう一度押すと表示が消え、画面がスクロールするようになります。アプリケーションにより機能が異なることがあります。

キーボード

キーボードは、パソコンに対しての指示やデータを入力するために使います。各キーの機能は、使用するアプリケーションによって異なる場合があります。ここでは一般的なキーの機能を説明します。

主なキーの名称とはたらき



- ① **Esc キー**
エスケープ
 現在の作業を取り消して、1 つ前に行った作業に戻るときなどに使います。
- ② **ファンクションキー**
 アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられます。

- ③ ニューメリカルロック Num Lk (Num Lock) キー
[Num Lk]を押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。
「テンキーモードについて」(P.17)
- ④ インサート Insert キー
文字を入力するときに、既存の文字列に上書きするか、挿入するかを切り替えるときに使います。
- ④ プリントスクリーン Prt Sc (Print Screen) キー
表示されている画面を画像データにするときに使います。[Fn]を押しながら [Prt Sc]を押します。
[Alt]と[Fn]を押しながら [Prt Sc]を押すと、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。
キーを押したあとにペイントソフト(ペイントなど)を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」等を選ぶことで編集、保存、印刷ができます。
- ⑤ デリート Delete キー
カーソルの右側にある1文字を削除するときに使います。また、選択されているファイルやアイコンを削除します。
[Ctrl]と[Alt]を押しながら [Delete]を押すと、応答しなくなったアプリケーションを終了したり、本パソコンを強制的に再起動できます。
- ⑥ バック スペース Back Space キー
カーソルの左側にある1文字を削除するときに使います。
- ⑦ 半角 / 全角キー
文字を入力するときに、半角と全角を切り替えます。
- ⑧ キャプス ロック Caps Lock 英数キー
[Shift]を押しながら [CapsLock 英数]を押すと、英大文字固定モードになります。もう1度押すと解除されます。
- ⑨ シフト Shift キー
他のキーと組み合わせて使います。[Shift]を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。
- ⑩ ホーム Home キー
カーソルを行の最初に移動します。
[Ctrl]を押しながら [Home]を押すと、カーソルが文書の最初に移動します。
- ⑪ ページ アップ Pg Up (Page Up) キー
前のページに切り替えるときに使います。

エンター
⑫ Enter キー

入力した文字を確定するときに使います。
ワープロソフトなどでこのキーを押すと改行が入力されるため、リターン(改行)キーともいいます。

ページ ダウン
⑬ Pg Dn (Page Down) キー

次のページに切り替えるときに使います。

エンド
⑭ End キー

カーソルを行の最後に移動します。
[Ctrl]を押しながら[End]を押すと、カーソルが文書の最後に移動します。

⑮ カーソルキー

カーソルを上下左右に移動するときに使います。

エフエス
⑯ Fn キー

本パソコン独自の機能で、他のキーと組み合わせて使います。たとえば次のような使いかたがあります。

- ・ [Fn]を押しながら[F3]を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。
- ・ 640 × 480ドットの解像度のときに[Fn]を押しながら[F5]を押すと、全画面表示と通常表示が切り替わります。
- ・ CRTディスプレイを接続したときに[Fn]を押しながら[F10]を押すと、液晶ディスプレイとCRTディスプレイで表示先を切り替えます。
- ・ [Fn]を押しながら[F6]を押すごとに、3段階まで液晶ディスプレイを暗くすることができます。
- ・ [Fn]を押しながら[F7]を押すごとに、3段階まで液晶ディスプレイを明るくすることができます。

「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(←P.57)

コントロール
⑰ Ctrl キー

他のキーと組み合わせて使います。

ウィンドウズ
⑱ Windows キー

「スタート」メニューを表示するときに使います。


オルト
⑲ Alt キー

他のキーと組み合わせて使います。

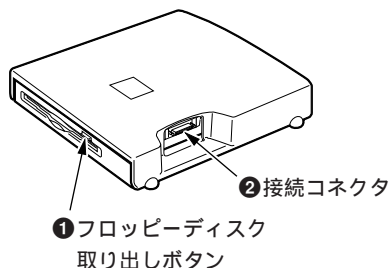
アプリケーション
⑳ Application キー

選択した項目のポップアップメニューを表示するときに使います。
右クリックの代わりになります。

テンキーモードについて

文字キーの一部をテンキー(数字の入力を容易にするキー配列)として使えるように切り替えた状態を「テンキーモード」といいます。**[Num Lk]**を押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LCDにが表示されます。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。ただし、別売のテンキーボードを接続しているときは、パソコン本体のテンキーの部分は無効となります。

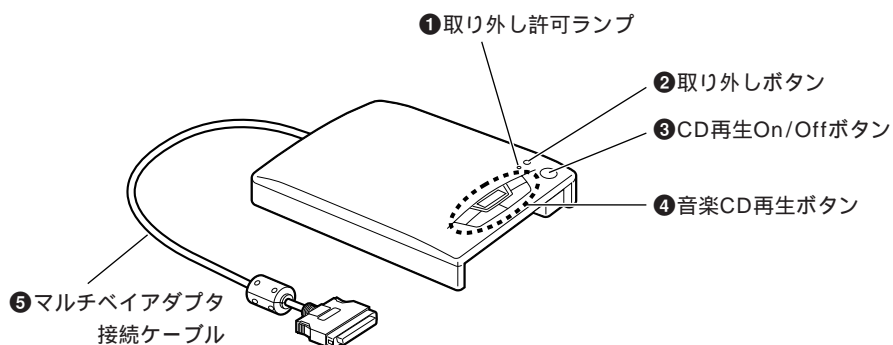
FDD ユニット



- 1 フロッピーディスク取り出しボタン**
フロッピーディスクを取り出すときに押します。
「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(➡P.42)
- 2 接続コネクタ**
FDD ケーブルを接続します。

マルチベイヤダプタ

表面



① 取り外し許可ランプ

取り外しボタンを押して、マルチベイヤダプタからユニットを取り出せる状態になった場合や、マルチベイヤダプタを接続しているコネクタボックスを取り外せる状態になった場合に点灯するランプです。

② 取り外しボタン

Windows98が動作しているときに、マルチベイヤダプタからユニットを取り出す場合や、マルチベイヤダプタを接続しているコネクタボックスを取り外す場合に押すボタンです。

「パソコン本体の電源が入っているときに交換する」(←P.32)

③ CD再生On/Offボタン

パソコン本体の電源が切れているときやサスペンドしている状態で、音楽CDを再生するときに押します。

パソコン本体の電源が入っているときは、押す必要はありません。

「音楽CDを聞く」(←P.50)

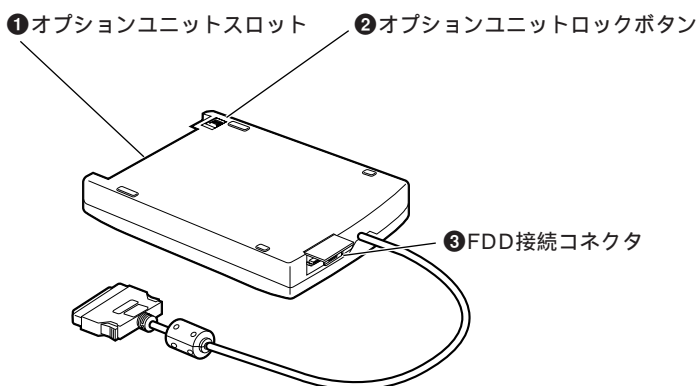
④ 音楽CD再生ボタン

音楽CDを聞くときに使うボタンです。音楽CDを聞くとき以外は押さないでください。

「音楽CD再生ボタン」(←P.20)

⑤ マルチベイヤダプタ接続ケーブル

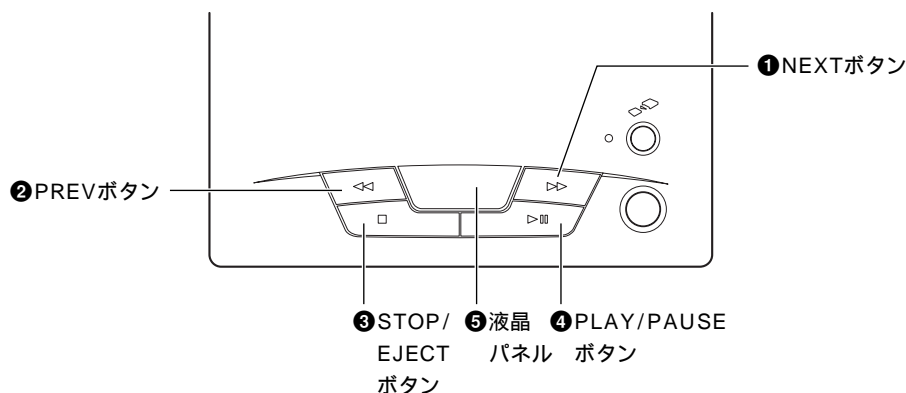
マルチベイヤダプタをコネクタボックスに接続します。



- ① オプションユニットスロット
各ユニットを取り付けます。
「マルチベイヤダブタに取り付けられるユニット」(☞P.31)
- ② オプションユニットロックボタン
マルチベイヤダブタに取り付けているユニットを取り外す場合にスライドさせます。
「ユニットを交換する」(☞P.32)
- ③ FDD 接続コネクタ
マルチベイヤダブタにFDDユニットを取り付けたときに、FDDケーブルを接続します。
「FDD ユニットをマルチベイヤダブタで接続する」(☞P.36)

音楽 CD 再生ボタン

マルチベイヤダプタの音楽 CD 再生ボタンを使うと、音楽 CD を再生することができます。



- ① NEXT ボタン
次の曲に進みます。
- ② PREV ボタン
1 回押すと今の曲の初めに戻ります。2 回以上押すと前の曲に戻ります。
- ③ STOP/EJECT ボタン
再生中に押すと、再生を停止します。本パソコンの電源が切れている状態で、音楽 CD 停止中や、CD がセットされていないときに押すと、トレーが少し飛び出します。
- ④ PLAY/PAUSE ボタン
停止中に押すと、音楽 CD を再生します。
再生中に押すと一時停止し、もう一度押すと続きから再生します。
- ⑤ 液晶パネル
マルチベイヤダプタの状態が表示されます。Windows98 起動中は表示されません。

液晶パネルの表示	マルチベイヤダプタの状態
- -	CD 読み取り中、または CD がセットされていない状態。
数字	現在の曲番号。停止しているときは先頭の曲番号が表示されます。
SP	マルチベイヤダプタが省電力モードになっている状態。何かボタンを押すと元の状態に戻ります。

アドバイス

音楽 CD 再生ボタンの注意

音楽 CD を聞くとき以外は押さないでください。



2

本パソコンの取り扱い上の注意

ここでは以下のことを説明します。

- ・ 取り扱い上の注意 ←P.21
- ・ 廃棄について ←P.22

1

パソコンの各部はこうなっている(本パソコンの取り扱い上の注意)

取り扱い上の注意

本パソコンの取り扱いについて

- ・ 衝撃や振動を与えないでください。
- ・ 分解しないでください。
- ・ 長時間使用すると、本パソコン表面の温度が上昇して、温かく感じる場合があります。これは、本パソコン内部の温度が一定以上になると、装置全体から放熱するので、キーボードなどの表面も温くなるためです。故障ではありません。
- ・ 使用条件によっては、本パソコンの底面が高温になる場合があります。ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。

次の場所での使用および保管は避けてください

- ・ 極端に温度変化が激しい場所
- ・ 直射日光のあたる場所や発熱器具に近い場所
- ・ 衝撃や振動の加わる場所
- ・ 湿気やほこりの多い場所
- ・ 磁石や強い磁界を発生する装置に近い場所

持ち運ぶとき

- ・ 電源を入れたままの状態を持ち運ばないでください。
- ・ 本パソコン背面の拡張コネクタカバー(←P.8)を取り外したままの状態を持ち運ばないでください。

電源を切るとき

電源を切るときは、いきなりMAINスイッチを手前(側)にスライドさせないでください。必ず「Windowsの終了」を行ってから、スライドしてください。
「今日はおしまい。電源を切るには?」(←P.63)

フラットポイントについて

フラットポイント(←P.4)は表面の結露、湿気等により誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合は、マウスポイントが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

内蔵マイクをお使いのとき

- ・カラオケソフトなど一部のソフトウェアをお使いのとき、ハウリング(キーンと音がなること)が起きる場合があります。このようなときは、市販のヘッドホンやスピーカーをお使いください。
- ・液晶ディスプレイを閉じると、ハウリングが起きる場合があります。内蔵マイクをお使いになるときは、液晶ディスプレイを閉じないでください。
- ・スピーカーとマイクを同時にお使いのときは、音量によってはハウリングが起きる場合があります。音量を調節してください。
「音量を調節する」(←P.52)

液晶ディスプレイの特性について

次の状態は故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・TFT液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、144万個以上の画素(ドット)より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・液晶ディスプレイはその特性上、温度変化で明るさや色合いに多少むらが発生することがあります。

廃棄について

- ・液晶ディスプレイ内のバックライト(蛍光管)の中には、水銀が含まれています。本パソコンの廃棄については、地方自治体の条例、または規則に従ってください。
- ・バッテリーを廃棄するときは、バッテリーがショートしないよう、バッテリー端子をテープ等で絶縁してください。また、廃棄については地方自治体の条例、または規則に従ってください。

第 2 章

基本的な機能を使おう

本章では、本パソコンに添付の機器の基本的な操作方法について説明しています。

1. コネクタボックスを使う	24
2. マルチベイアダプタを使う	27
3. フロッピーディスクを使う	35
4. CD-ROM を使う	45
5. 音量を調節する	52
6. 画面の解像度や発色数を変える	54
7. 液晶ディスプレイの明るさを変更する	57
8. お手入れのしかた	58

1

コネクタボックスを使う

コネクタボックスをパソコン本体に取り付けると、マルチベイヤダブタやプリンタなどのオプション機器を接続することができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・コネクタボックスを取り付ける ←P.24
- ・コネクタボックスを取り外す ←P.25

重要

コネクタボックスにオプション機器を取り付ける / 取り外すときの注意

コネクタボックスに、マルチベイヤダブタ以外のオプション機器を取り付ける場合、および取り外す場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。

コネクタボックスを取り付ける

コネクタボックスは、パソコン本体の電源が入っているときでも、切れているときでも取り付けられます。ただし、次の場合はパソコン本体の電源を切ってから取り付けてください。

- ・FDDユニットをコネクタボックスに接続しているとき
- ・FDDユニットを取り付けたマルチベイヤダブタをコネクタボックスに接続しているとき
- ・WindowsNT4.0 や MS-DOS モードでお使いのとき

また、パソコン本体背面にオプション機器を取り付けているときは、パソコン本体の電源を切り、オプション機器を取り外してください。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)



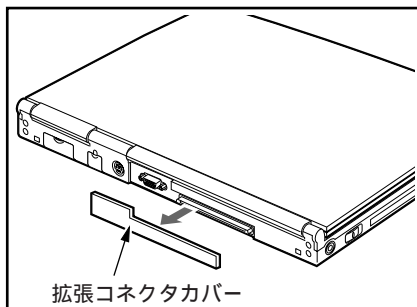
注意



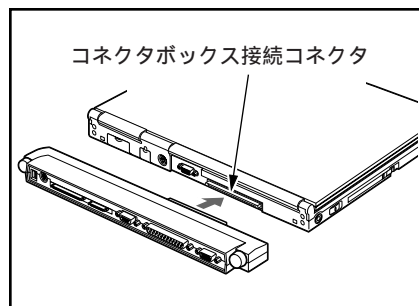
けが パソコン本体にコネクタボックスを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。
けがの原因となることがあります。

1 パソコン本体背面の拡張コネクタカバーを取り外します。

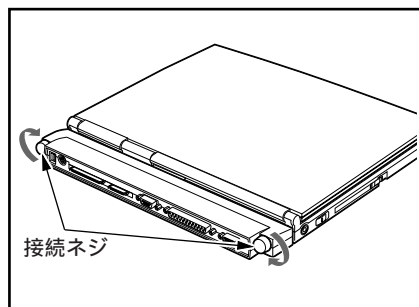
拡張コネクタカバーは、なくさないように保管してください。



- 2** パソコン本体背面のコネクタボックス接続コネクタに、コネクタボックスを取り付けます。コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。



- 3** 接続ネジを回してロックします。左右の接続ネジを押してパソコン本体に差し込んでから、接続ネジを回してしっかり固定してください。



コネクタボックスを取り外す

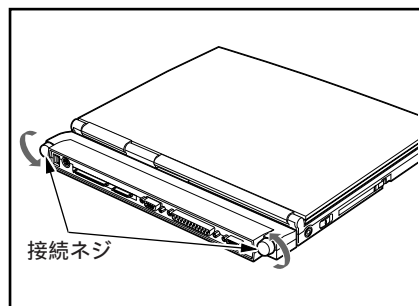
コネクタボックスは、パソコン本体の電源が入っているときでも、切れているときでも取り外せます。ただし、次の場合はパソコン本体の電源を切ってから取り外してください。

- ・ FDD ユニットの接続ボックスに接続しているとき
- ・ FDD ユニットの接続ボックスに接続しているとき
- ・ Windows NT 4.0 や MS-DOS モードでお使いのとき
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)

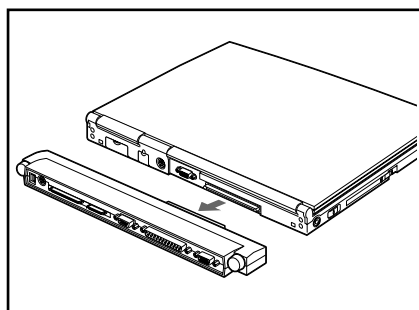
- 1** コネクタボックスにマルチベイヤアダプタを接続している場合は、マルチベイヤアダプタの取り外しボタンを押し、取り外し許可ランプが点灯していることを確認します。
「マルチベイヤアダプタを取り外す」の手順 1 ~ 4 (←P.29)

- 2** コネクタボックスにオプション機器を接続している場合は、オプション機器の電源を切ります。

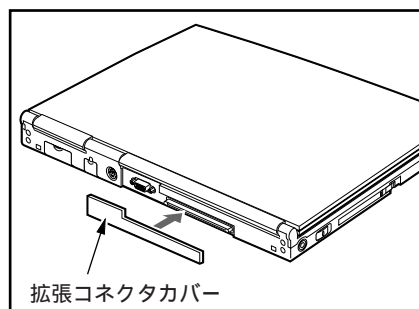
- 3** コネクタボックスの接続ネジをゆるめてロックを外します。ロックが外れると、接続ネジが飛び出します。

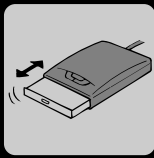


- 4** コネクタボックスを取り外します。



- 5** パソコン本体背面に拡張コネクタカバーを取り付けます。





2

マルチベイアダプタを使う

本パソコンご購入時に、CD-ROMドライブユニットが取り付けられているものをマルチベイアダプタといいます。また、マルチベイアダプタには、FDDユニットや別売のオプション機器のユニットを取り付けられます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・気をつけてください~マルチベイアダプタを使うとき ←P.27
- ・マルチベイアダプタを取り付ける ←P.28
- ・マルチベイアダプタを取り外す ←P.29
- ・マルチベイアダプタに取り付けられるユニット ←P.31
- ・ユニットを交換する ←P.32

気をつけてください~マルチベイアダプタを使うとき

- ・マルチベイアダプタを長時間使用すると、マルチベイアダプタの上面が熱くなることがありますが、故障ではありません。
- ・CD-ROMドライブユニット、内蔵DVD-ROMドライブユニット(別売)、内蔵スーパーディスクドライブユニット(別売)は、ディスクが高速に回転する非常にデリケートな装置です。ディスクにアクセスしている状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。ユニットの破損や、データが壊れるおそれがあります。
- ・FDDユニット、内蔵スーパーディスクドライブユニット(別売)の取り扱いによっては、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。重要なデータは必ずバックアップをとってください。
- ・ユニットを交換する目的以外では、マルチベイアダプタからユニットを取り外さないでください。
- ・次のような場所でのご使用、保管は避けてください。
 - 極端に温度変化が激しい場所
 - 衝撃や振動の加わる場所
 - 湿気やほこりの多い場所
 - 磁石や強い磁界を発生する装置の近く
- ・ユニット内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。何か異物が入ったときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
- ・汚れは、やわらかい布でからぶきするか、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジンやシンナーなどの揮発性の溶剤のご使用は避けてください。
- ・分解しないでください。
- ・マルチベイアダプタの音楽CD再生ボタン(←P.20)では、音楽CDのみ再生できます。VIDEO-CDや、DVDの再生はできません。
- ・マルチベイアダプタの音楽CD再生ボタン(←P.20)は、CD-ROMドライブユニット、あるいは内蔵DVD-ROMドライブユニットがセットされているときに使用できます。

マルチベアアダプタを取り付ける

マルチベアアダプタは、コネクタボックスを使ってパソコン本体に取り付けます。マルチベアアダプタは、パソコン本体の電源が入っているときでも、切れているときでも取り付けられます。ただし、次の場合はパソコン本体の電源を切ってから取り付けてください。

- ・ FDD ユニットを取り付けたマルチベアアダプタを取り付けるとき
 - ・ WindowsNT4.0 や MS-DOS モードでお使いのとき
- 「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)



け が コネクタボックスにマルチベアアダプタを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。
けがの原因となることがあります。

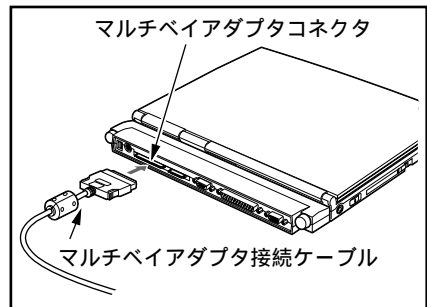
故 障 ケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびマルチベアアダプタが故障する原因となることがあります。

1 コネクタボックスを取り付けます。

「コネクタボックスを取り付ける」(←P.24)

2 マルチベアアダプタ接続ケーブルを、コネクタボックスのマルチベアアダプタコネクタに接続します。

コネクタの上下の向きを確認し、奥までしっかり差し込んでください。



マルチベイアダプタを取り外す

重要

取り外すときの注意

- ・マルチベイアダプタを取り外す前に、必ずドライブユニット内のCD-ROM やフロッピーディスクなどを取り出しておいてください。そのまま取り外すと、ディスクが壊れる場合があります。
- ・パソコン本体およびマルチベイアダプタを長時間使用すると、マルチベイアダプタの上面が熱くなる場合がありますが、故障ではありません。取り外すときはご注意ください。
- ・本体の電源が切れている状態で、マルチベイアダプタの液晶パネルに何か表示されているときは、「CD再生 On/Off ボタン」(←P.18) を押して、液晶パネルの表示が消えたことを確認してから取り外してください。
- ・本体がサスペンドしている時は取り外せません。
- ・マルチベイアダプタにFDDユニットを取り付けている時は、本体の電源を切ってから取り外してください。

パソコン本体の電源が入っているときは

- ・必ずマルチベイアダプタの「取り出しボタン」を押して、取り外し許可ランプ(←P.18) が点灯しているのを確認してから、マルチベイアダプタを取り外してください。
- ・取り外しボタン(←P.18) を押す前に、それまで行っていた作業を終了させてください。

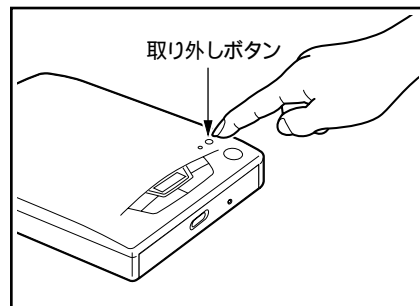
パソコン本体の電源が切れているときに取り外す場合は、手順5から行ってください。

1 それまで行っていた作業を終了します。

必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 状態表示LCDにやが表示されていないことを確認します。

3 マルチベイアダプタの取り外しボタンを押します。



アドバイス

別の操作方法

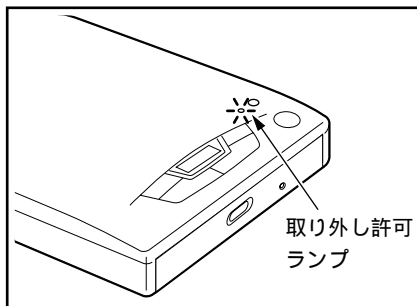
手順2のときにWindows98の「スタート」ボタンをクリックし、「取り出し」をクリックしても取り外し許可ランプが点灯します。

アドバイス

取り外し許可ランプが点灯しないとき

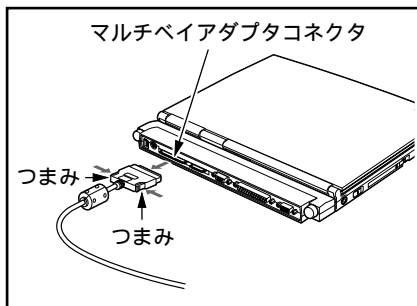
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)をご覧ください、パソコン本体の電源を切ったあと、手順3から操作してください。

- 4** 取り外し許可ランプが点灯していることを確認します。



- 5** コネクタボックスのマルチベイヤアダプタコネクタからマルチベイヤアダプタ接続ケーブルを取り外します。

マルチベイヤアダプタ接続ケーブルのコネクタのつまみを押しながら、取り外してください。



マルチベイアダプタに取り付けられるユニット

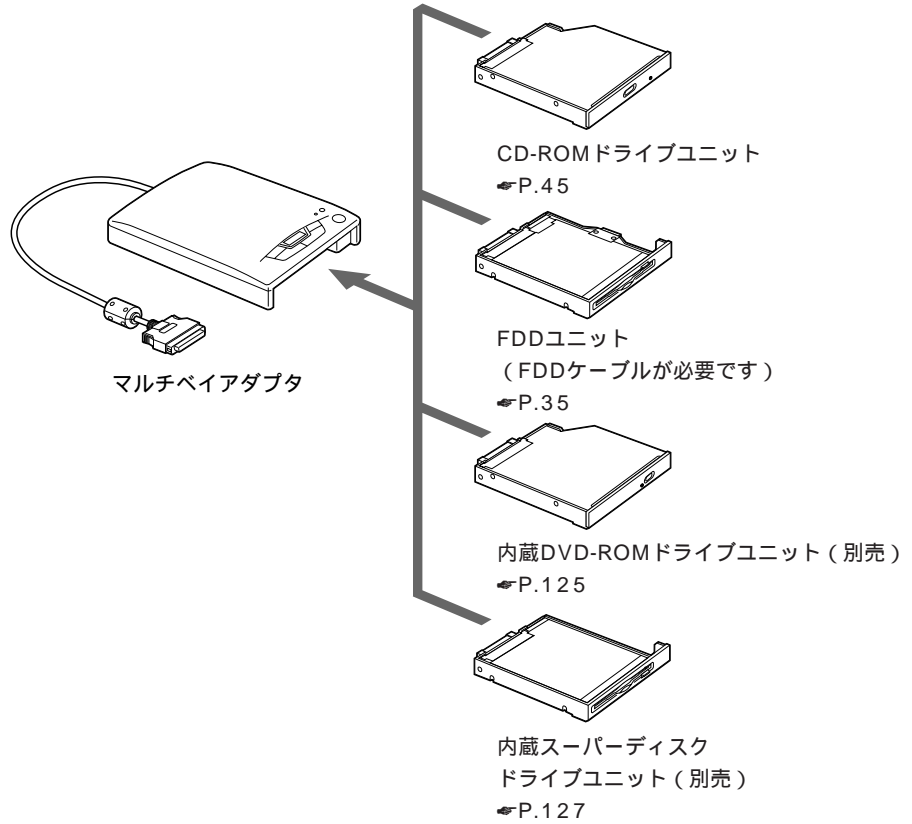


アドバイス

FDDユニットを使うとき

- ・マルチベイアダプタにFDDユニットを取り付けて使う場合は、FDDケーブルが必要です。
- ・FDDユニットは、FDDケーブルを使ってパソコン本体やコネクタボックスに直接接続できるので、他のユニットと同時に使えます。
「FDDユニットを取り付ける」(←P.35)
- ・FDDユニットは、本パソコンで1台のみ使えます。

本パソコンご購入時は、マルチベイアダプタにCD-ROMドライブユニットが取り付けられています。



2

基本的な機能を使う(マルチベイアダプタを使う)

ユニットを交換する

ユニットは、マルチベイヤダブタがパソコン本体に取り付けられているときも交換できます。また、パソコン本体に電源が入っているときでも、切れているときでも交換できます。ただし、次の場合は、電源が切れているときに交換してください。

- ・マルチベイヤダブタにFDDユニットを取り付けるときおよび取り外すとき
 - ・WindowsNT4.0やMS-DOSモードでお使いのとき
- ただし、WindowsNT4.0では、専用アプリケーション「Portables Suite」をインストールすると、パソコン本体の電源が入っているときでも交換できます。

パソコン本体の電源が入っているときに交換する



故障 ユニットを取り外すときは、必ず取り外し許可ランプが点灯していることを確認してください。
点灯していない状態で取り外すと、故障の原因となることがあります。

重要

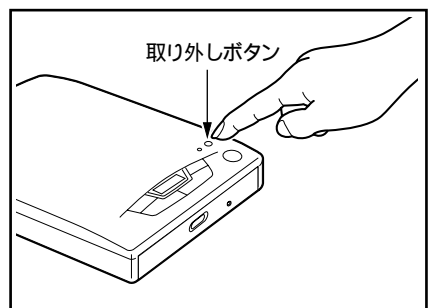
交換するときの注意

- ・ユニットを取り外す前に、必ずフロッピーディスクやCD-ROMなどを取り出しておい
てください。ディスクを入れたままユニットを取り外すとデータが壊れることがあります。
- ・必ずマルチベイヤダブタの「取り外しボタン」(←P.18)を押して、取り外し許可ラ
ンプ(←P.18)が点灯しているのを確認してから、ユニットを取り外してください。
- ・パソコン本体がサスペンドしているときは、SUS/RESスイッチを押してレジュー
ムしてから「取り外しボタン」を押してください。
- ・「取り外しボタン」を押す前に、それまで行っていた作業を終了させてください。

1 それまで行っていた作業を終了します。

必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 マルチベイヤダブタの取り外し ボタンを押します。



アドバイス

別の操作方法

手順2のときにWindows98の「スタート」ボタンをクリックし、「取り出し」をクリックしても取り外し許可ランプが点灯します。

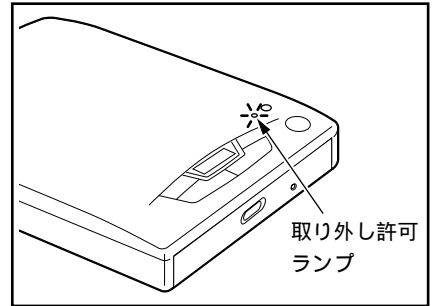
アドバイス

取り外し許可ランプが点灯しないとき

Windows98を終了し、電源を切ってからユニットを交換してください。

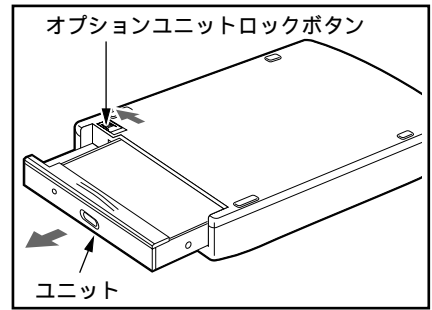
「パソコン本体の電源が切れているときに交換する」(←P.34)

- 3** 取り外し許可ランプが点灯していることを確認します。

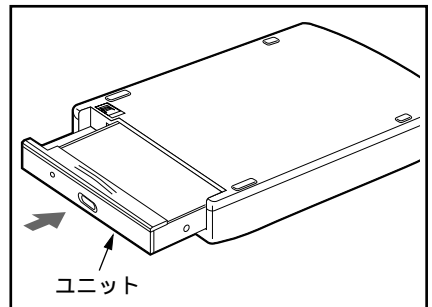


- 4** マルチベイアダプタを裏返します。

- 5** オプションユニットロックボタンをスライドし、取り付けられているユニットを取り外します。



- 6** 取り付けたいユニットを、しっかりと差し込みます。



パソコン本体の電源が切れているときに交換する

マルチベイヤダブタがパソコン本体に取り付けられていても、取り付けられていなくても、ユニットを取り外すことができます。

マルチベイヤダブタがパソコン本体に取り付けられていないときは、手順3から始めてください。

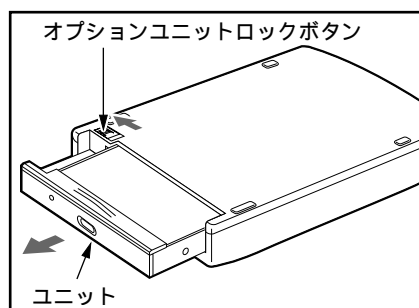
重要

交換するときの注意

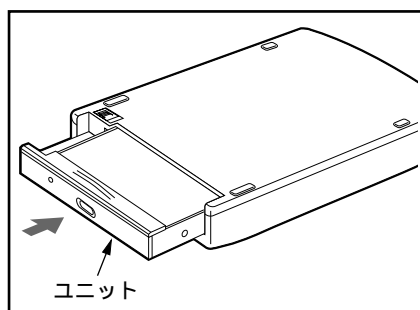
- ・ ユニットをマルチベイヤダブタから取り外すときは、必ず電源を切る前にフロッピーディスクやCD-ROM などを取り出しておいてください。
ディスクを入れたままユニットを取り外すと、データが壊れることがあります。
- ・ マルチベイヤダブタの液晶パネルに何か表示されているときは、「CD再生On/Offボタン」(←P.18)を押して、液晶パネルの表示が消えたことを確認してから取り外してください。

1 マルチベイヤダブタを裏返します。

2 オプションユニットロックボタンをスライドし、取り付けられているユニットを取り外します。



3 取り付けたいユニットを、しっかりと差し込みます。



アドバイス

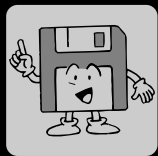
FDDユニットを取り外したとき

FDDユニットにコネクタカバーを取り付けてください。(←P.40)

アドバイス

FDDユニットを取り付けるとき

- ・ FDDユニットにコネクタカバーが取り付けられているときは、取り外してください。取り外したカバーは、なくさないように保管してください。
- ・ FDDユニットを使うには、マルチベイヤダブタにFDDケーブルを接続します。
「FDDユニットをマルチベイヤダブタで接続する」(←P.36)



3

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクはプログラムやデータを保存するためのものです。FDDユニットは、本体背面およびコネクタボックスに接続して使う方法と、マルチベイアダプタに取り付けて使う方法があります。

FDDユニットとCD-ROMドライブユニットを同時に使う場合は、FDDユニットをコネクタボックスに接続して使います。

ここでは以下のことを説明します。

- ・ FDDユニットを取り付ける ←P.35
- ・ FDDユニットを取り外す ←P.38
- ・ 使えるフロッピーディスクは？ ←P.41
- ・ 気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき ←P.42
- ・ フロッピーディスクをセットする / 取り出す ←P.42
- ・ フロッピーディスクのデータを守るには ←P.44

FDDユニットを取り付ける

FDDユニットは、FDDケーブルを使って接続します。



警告



感電 FDDユニットを接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電や故障の原因となります。



注意



故障 ケーブルは本書をよくお読みになり、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよびFDDユニットが故障する原因となることがあります。



重要

FDDユニット取り扱い上の注意

- ・ FDDユニットは、本パソコンで1台のみ使えます。
- ・ FDDユニットは、ACアダプタやCRTディスプレイなど、磁界を発生する機器から離して使用してください。
- ・ FDDユニットを取り扱う前に、マルチベイアダプタの取り扱い上の注意をご覧ください。
「気をつけてください～マルチベイアダプタを使うとき」(←P.27)

FDDユニットを接続する

1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)

2

基本的な機能を使おう(フロッピーディスクを使う)

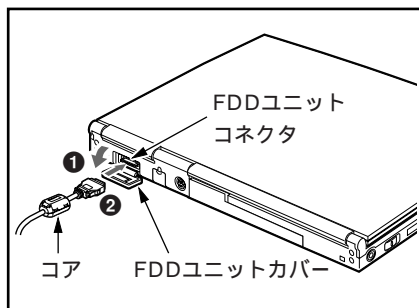
2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 AC アダプタを取り外します。
「AC アダプタを取り外す」(←P.66)

4 FDD ケーブルのコネクタ(コアの付いている方)を、FDD ユニットコネクタに接続します。

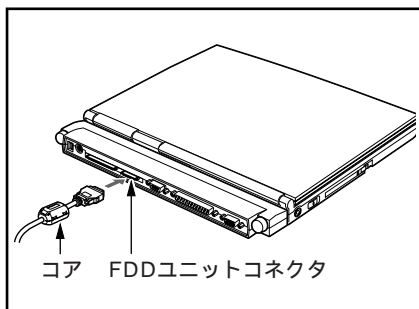
パソコン本体に取り付ける場合

- ① パソコン本体背面のFDDユニットカバーを開きます。
- ② FDDケーブルコネクタの上下の向きを確認し、奥までしっかり差し込みます。



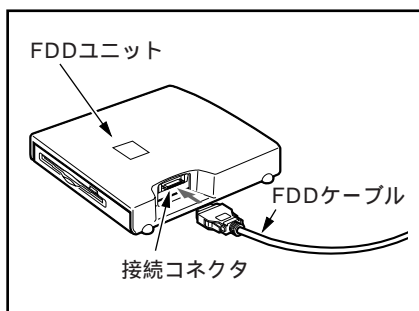
コネクタボックスに取り付ける場合

FDD ケーブルコネクタの上下の向きを確認し、奥までしっかり差し込みます。



5 FDD ケーブルのもう一方のコネクタ(コアの付いていない方)をFDD ユニットの接続コネクタに接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。コネクタの上下の向きを確認し、奥までしっかり差し込んでください。



FDD ユニートをマルチベイアダプタで接続する

FDD ユニートは、マルチベイアダプタに取り付けることもできます。

1 パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)

アドバイス

コネクタカバーを付けてください

FDD ユニートをパソコン本体およびコネクタボックスに直接接続するときは、FDD ユニートの背面のコネクタは使用しません。FDD ユニートにコネクタカバーを取り付けてください。

2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 ACアダプタを取り外します。
「ACアダプタを取り外す」(←P.66)

4 パソコン本体にコネクタボックスを取り付けます。
「コネクタボックスを取り付ける」(←P.24)

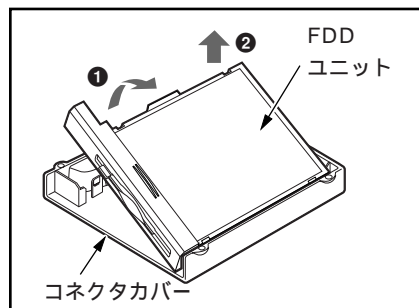
5 FDDユニットの接続コネクタにFDDケーブルが接続されている場合は取り外します。
つまみを押しながら取り外してください。

6 FDDユニットを裏返します。

7 FDDユニットのコネクタカバーを取り外します。

- ① 矢印の方向にFDDユニットを持ち上げます。
- ② FDDユニットを持ち上げて外します。

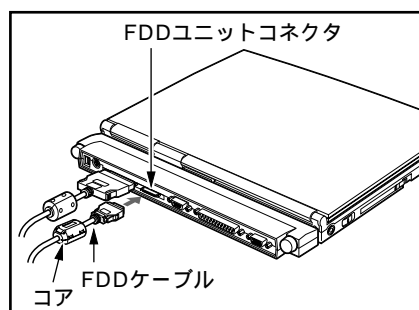
取り外したコネクタカバーは、なくさないように保管してください。



8 FDDユニットを、マルチベアアダプタに取り付けます。
「パソコン本体の電源が切れているときに交換する」(←P.34)

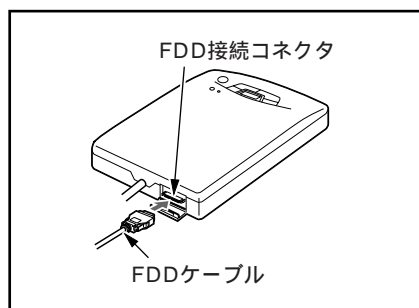
9 FDDケーブルのコネクタ（コアの付いている方）を、コネクタボックスのFDDユニットコネクタに接続します。

コネクタの上下の向きを確認し奥までしっかり差し込んでください。



10 FDD ケーブルのもう一方のコネクタ（コアの付いていない方）を、マルチベイヤアダプタ背面のFDD 接続コネクタに接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。コネクタの上下の向きを確認し、奥までしっかり差し込んでください。



11 マルチベイヤアダプタを、コネクタボックスに接続します。
「マルチベイヤアダプタを取り付ける」(←P.28)

FDD ユニットを取り外す



警告



感電 FDDユニットを取り外す場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。



注意



故障 ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびFDDユニットが故障する原因となることがあります。

FDD ユニットを取り外す



重要

フロッピーディスクを取り出してください

電源を切る前に、FDDユニットからフロッピーディスクを、必ず取り出しておいてください。セットしたまま取り外すと、フロッピーディスクのデータが壊れる場合があります。

1 パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)

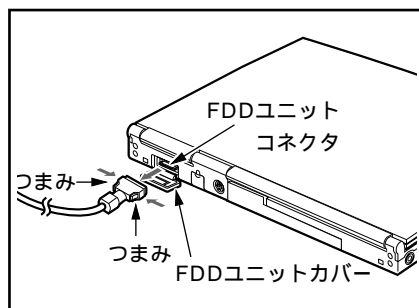
2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 AC アダプタを取り外します。
「AC アダプタを取り外す」(←P.66)

4 FDD ユニットコネクタから、FDD ケーブルを取り外します。

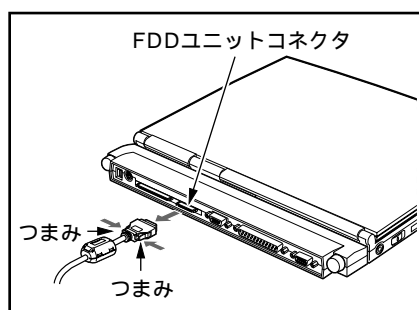
パソコン本体に取り付けている場合

- ① FDDケーブルのコネクタのつまみを押しながら、取り外します。
- ② 本体背面のFDDユニットカバーを閉じます。



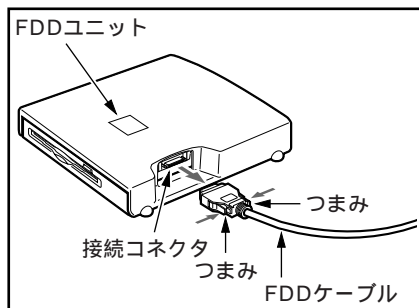
コネクタボックスに取り付けている場合

FDDケーブルのコネクタのつまみを押しながら、取り外します。



5 FDD ユニットの接続コネクタからFDDケーブルを取り外します。

FDDケーブルのコネクタのつまみを押しながら、取り外してください。



マルチベイアダプタで接続したFDDユニットを取り外す



重要

フロッピーディスクを取り出してください

電源を切る前に、FDDユニットからフロッピーディスクを必ず取り出しておいてください。セットしたまま取り外すと、フロッピーディスクのデータが壊れる場合があります。

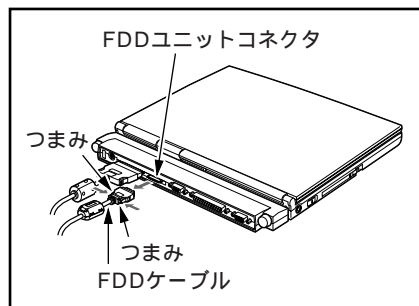
1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)

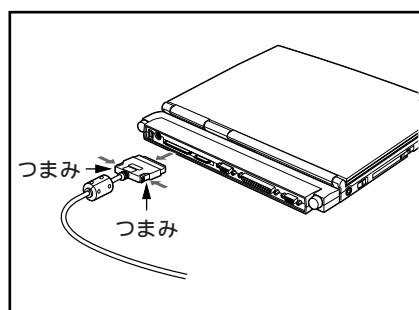
2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

- 3** ACアダプタを取り外します。
「ACアダプタを取り外す」(←P.66)

- 4** コネクタボックスのFDDユニットコネクタからFDDケーブルを取り外します。
FDDケーブルのコネクタのつまみを押しながら、取り外します。



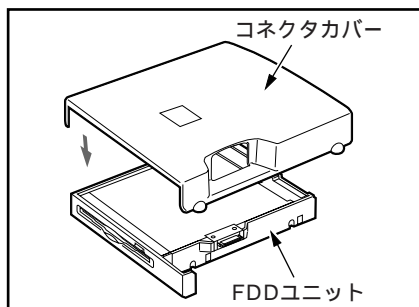
- 5** コネクタボックスからマルチベイヤダプタを取り外します。
マルチベイヤダプタケーブルのコネクタのつまみを押しながら、取り外します。



- 6** マルチベイヤダプタ背面のFDD接続コネクタから、FDDケーブルを取り外します。
FDDケーブルのコネクタのつまみを押しながら、取り外します。

- 7** マルチベイヤダプタからFDDユニットを取り出します。
「パソコン本体の電源が切れているときに交換する」(←P.34)

- 8** FDDユニットにコネクタカバーを取り付けます。



使えるフロッピーディスクは？

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、1.44MB、1.2MB、720KBの記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。

本パソコンでは、次の2種類のフロッピーディスクがお使いになれます。

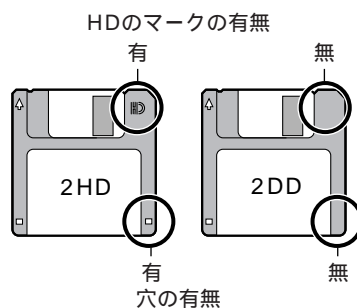
・エイチディー2HDフロッピーディスク

記憶容量は、フォーマットにより異なります。1.44MBまたは1.2MBです。

・ディーディー2DDフロッピーディスク

記憶容量は、2HD(1.44MB)の半分の720KBです。

2種類のフロッピーディスクの外見上の違いは、下図のとおりです。



用語

メガバイト
MB

B(バイト)とは、パソコンで扱うデータの大きさの単位のことです。単位は、MB(メガバイト)の他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1MBは約100万バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

アドバイス

フロッピーディスクをフォーマットするときの注意

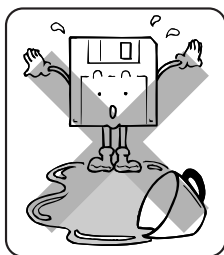
- ・フォーマット方法について 『わかるパソコン入門』
- ・本パソコンでは、1.2MBのフロッピーディスクのデータの読み出しや書き込みはできませんが、1.2MBにフォーマットすることはできません。
- ・フォーマットした機種やソフトウェアが違っていると、データを読み出せないことがあります。
- ・他社製のパソコンでフォーマットした場合は、お使いになれないことがあります。

フォーマット済みのフロッピーディスクをお買い求めになるとき

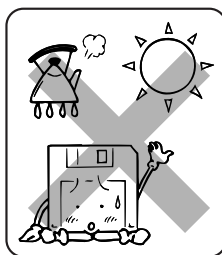
「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものをお買い求めください。

気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき

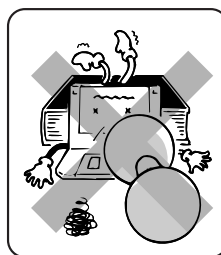
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。データが保存できなくなったり、読み出せなくなることがあります。



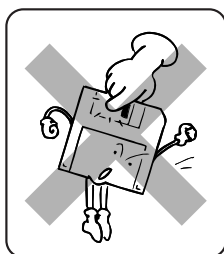
コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



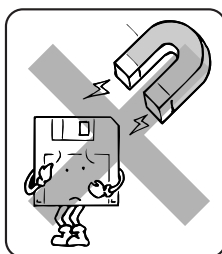
湿度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



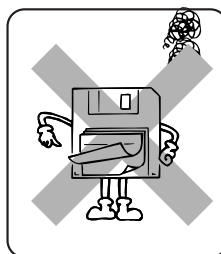
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッターを開いて、中のディスク面に、絶対に触れないでください。




磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。ドライブから取り出せなくなる原因になります。

フロッピーディスクをセットする / 取り出す



 けが フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、FDDユニットの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

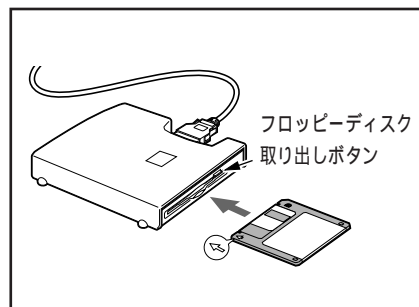
- 1 FDD ユニットを取り付けます。**
「FDD ユニットを取り付ける」(←P.35)

2 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」（←P.62）

3 フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに差し込みます。

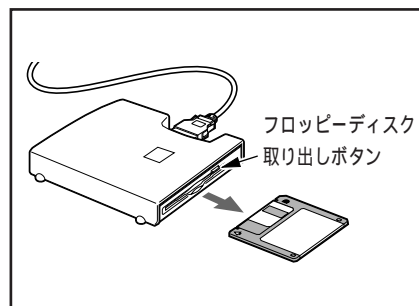
矢印のある面を上向きにして、フロッピーディスク取り出しボタンが「カシャ」と飛び出るまで押し込んでください。



取り出す


1 状態表示LCDにが表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが少し飛び出します。



重要

フロッピーディスクを取り出すときの注意

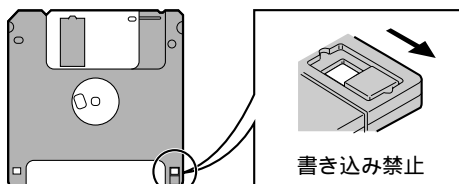
状態表示LCDにが表示されているときは、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスクを取り出すと、フロッピーディスク内のデータが壊れるおそれがあります。

フロッピーディスクのデータを守るには

ここでは保存してあるデータを守るために、フロッピーディスクを書き込み禁止にする方法と、書き込み禁止を解除する方法を説明します。

保存してあるデータの変更や削除をしたくないとき

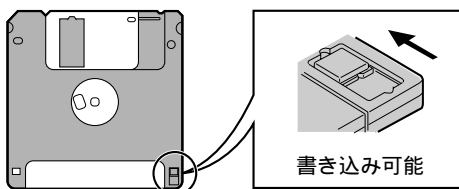
フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が開いた状態にします。書き込み禁止になります。データを読み込むことはできます。



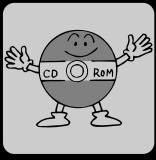
書き込み禁止タブ

データを書き込みたいとき

フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。書き込み可能になります。



書き込み禁止タブ



4

基本的な機能を使おう

CD-ROM を使う

CD-ROM は、パソコンで扱えるデータやプログラムを保存した CD (コンパクトディスク) です。データは読み出しのみが可能で、書き込みはできません。ここでは以下のことを説明します。

- ・ 使える CD は? ←P.45
- ・ 気をつけてください~ CD-ROM を使うとき ←P.45
- ・ CD-ROM をセットする / 取り出す ←P.46
- ・ 音楽 CD を聞く ←P.50

使える CD は?

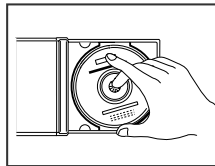
本パソコンでは、以下のマークがついた CD-ROM や音楽 CD (12cm、8cm) がご利用になれます。



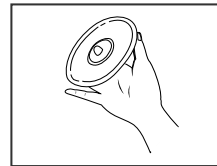
気をつけてください~ CD-ROM を使うとき

アドバイス CD-ROM が結露したとき

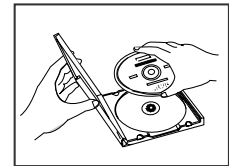
表面に水滴がついて、CD-ROM ドライブがデータを読み出せないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かってキズを付けないように水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。



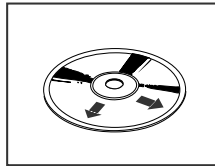
ケースから CD-ROM を取り出すときは、ケースの中央を押しなが取り出してください。



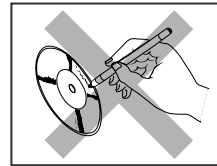
データ面 (裏面) に触れないように、CD-ROM のふちを持つようにしてください。



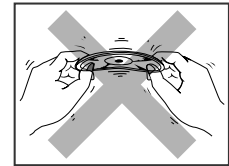
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



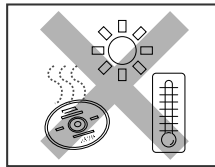
データ面が汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてください。



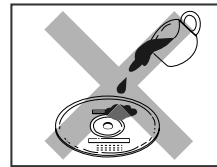
ラベルやシールを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



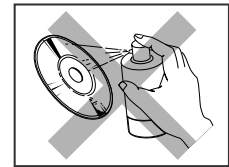
曲げたり、重いものをのせたりしないでください。



高温や低温になる場所を避けて保管してください。



水などの液体をかけないでください。




ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどを使わないでください。

CD-ROM をセットする / 取り出す

CD-ROM のセットや取り出しは、マルチベイヤダブタをパソコンに接続しているときに行えます。



 **けが** CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする



AC アダプタを取り付けてください

CD-ROM に頻繁にアクセスする場合は、AC アダプタを取り付けてください。
「AC アダプタを取り付ける」(←P.65)

CD-ROM をセットするときの注意

CD-ROM ドライブのトレー中央の突起に CD-ROM の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。

きちんとはめ込まないと、CD-ROM などの媒体が CD-ROM ドライブ内部で外れて、トレーやドライブ内部、および媒体を破損する原因となることがあります。

セットすると自動で始まる CD-ROM を使用しているときは、サスペンドしないでください

セットすると自動で始まる CD-ROM を使用しているときにサスペンド(一時停止)すると、レジューム時(サスペンドする前の状態に戻したとき)に CD-ROM が二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CD-ROM のアプリケーションを一度すべて終了し、CD-ROM をセットし直してください。

1 CD-ROM ドライブユニットを取り付けます。


「マルチベイヤダブタを取り付ける」(←P.28)


「ユニットを交換する」(←P.32)


アドバイス

EJECT ボタンを押してもトレーが飛び出さないとき

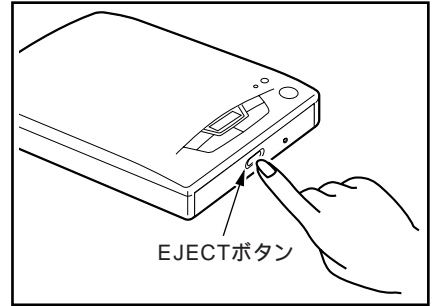
- ・ パソコン本体の電源が切れているときは、マルチベアアダプタの「CD再生 On / Off ボタン」(←P.18)を押してください。
- ・ マルチベアアダプタの液晶パネル(←P.20)に「SP」と表示されているときは、「STOP / EJECT ボタン」(←P.20)を押してから EJECT ボタンを押してください。

状態表示 LCD に  が点滅しているとき

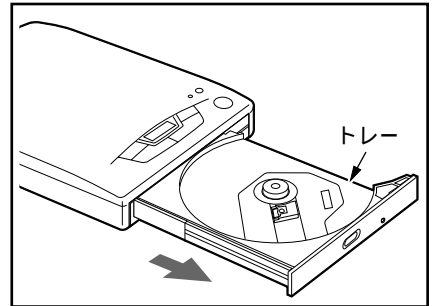
Windows98 が、CD-ROM がセットされているかどうかを定期的に調べているため、 が点滅する場合があります。点滅中に EJECT ボタンを押してもかまいません。点滅は止めることもできます。

「 (CD-ROMドライブアクセス表示) の点滅を止めるには」(←P.13)

- 2** EJECT ボタンを押します。
トレーが少し飛び出します。

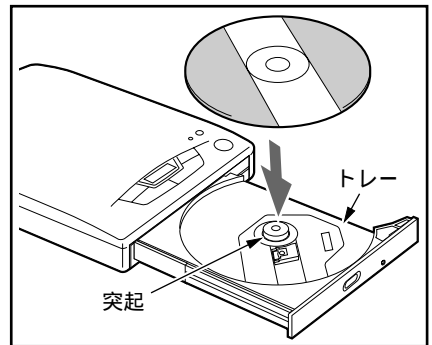


- 3** トレーを静かに引き出します。

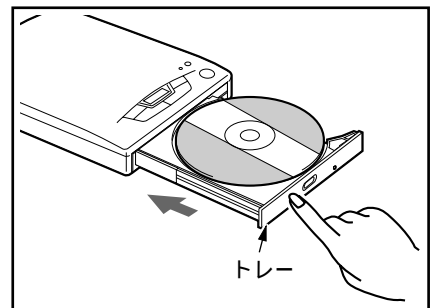


- 4** トレーの下部を指で支えながら、CD-ROM をセットします。

CD-ROM のレーベル面を上にして、トレー中央の突起に CD-ROM の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとめ込んでください。きちんとはめ込まないと、CD-ROM が取り出せなくなることがあります。



- 5** トレーを静かに押し込みます。
CD-ROM をセットしてから、本パソコンで使えるようになるまで、約 10 秒かかります。



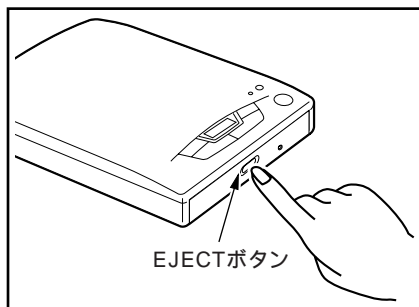
2

基本的な機能を使う(CD-ROM を使う)

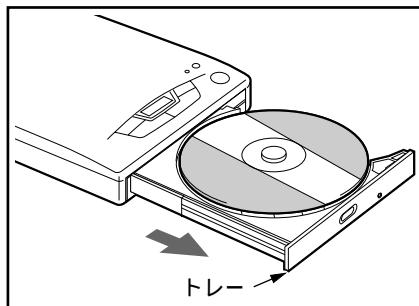
取り出す

1 CD-ROM を利用しているアプリケーションがあれば終了します。

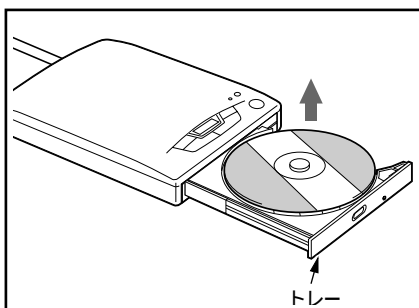
2 EJECT ボタンを押します。
トレイが少し飛び出します。



3 トレーを静かに引き出します。





4 CD-ROM を取り出します。
トレイ中央の突起を押さえながら、
CD-ROM のふちを持ち上げてく
ださい。




5 トレーを静かに押し込みます。

アドバイス



状態表示 LCD に  が点滅しているとき

Windows98 が、CD-ROM がセットされているかどうかを定期的に調べているため、 が点滅する場合があります。点滅中に EJECT ボタンを押してもかまいません。

点滅は止めることもできます。「 CD-ROMドライブアクセス表示」の点滅を止めるには」(←P.13)

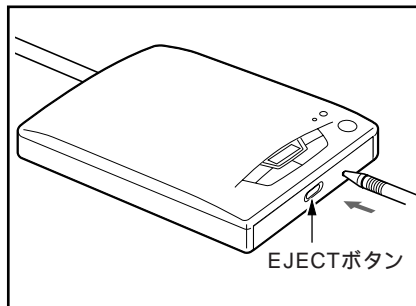
 **アドバイス**

CD-ROM が取り出せなくなったとき

- 1 デスクトップの  (マイコンピュータ) をクリックします。
- 2 「マイコンピュータ」ウィンドウの  (E:) にマウスポインタを合わせます。
- 3 右ボタンをクリックします。
- 4 「取り出し」をクリックします。
トレーが少し飛び出します。
- 5 トレーを静かに引き出し、CD-ROM を取り出します。

上記の方法で取り出せないときは、次の方法で取り出します。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)
- 2 EJECT ボタンの右側にある穴に、ボールペンの先などをまっすぐに差し込みます。
トレーが少し飛び出します。



- 3 トレーを静かに引き出し、CD-ROM を取り出します。

音楽 CD を聞く

マルチベイヤダブタに CD-ROM ドライブユニットを取り付けると、音楽用の CD を再生できます。音楽用の CD は、パソコン本体の電源が入っているときでも、切れているときでも聞くことができます。

パソコン本体の電源が入っているとき

- 1** パソコン本体にマルチベイヤダブタを取り付けます。
「マルチベイヤダブタを取り付ける」(☞P.28)
- 2** マルチベイヤダブタに CD-ROM ドライブユニットを取り付けます。
「ユニットを交換する」(☞P.32)
- 3** 音楽用の CD をセットします。
「セットする」(☞P.46)
「CD プレーヤー」が起動し、自動的に音楽がはじまります。
「CD プレーヤー」の使い方は、「CD プレーヤー」のヘルプをご覧ください。

「CD プレーヤー」はマルチベイヤダブタの音楽 CD 再生ボタンを使って操作することもできます。

「音楽 CD 再生ボタン」(☞P.20)

パソコン本体の電源が切れているときやサスペンドしているとき

重要

AC アダプタを取り付けてください

音楽 CD を再生するときは、必ずパソコン本体に AC アダプタを取り付けてください。

音楽 CD 再生中は液晶ディスプレイを開いてください

音楽 CD 再生中は、パソコン本体のオーディオ回路にも電源が入っています。放熱のために液晶ディスプレイを開いてください。

液晶パネルに「SP」と表示されているとき

音楽 CD の再生を停止したまましばらくすると、マルチベイヤダブタが省電力モードになり、液晶パネルに「SP」と表示されます。省電力モードのときに音楽 CD を取り出す場合は、「STOP/EJECT ボタン」を押してから、EJECT ボタンを押してください。

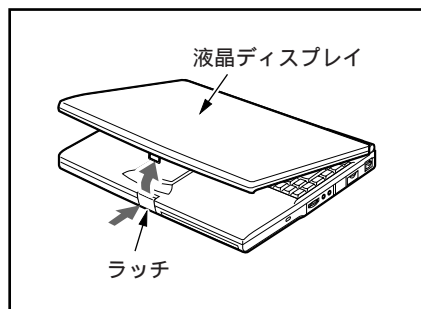
音量についての注意

パソコン本体の電源が切れているときやサスペンドしているときは、Windows98 の音量つまみ (☞P.52) の設定が無効になり、音量が大きくなります。音量ボリュームをしばらくしてから再生を始め、好みの音量に調節してください。

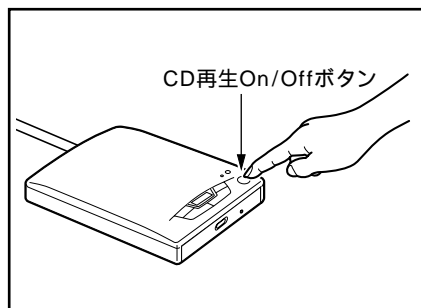
「音量ボリュームで調節する」(☞P.52)

- 1** マルチベイアダプタにCD-ROMドライブユニットを取り付けます。
「ユニットを交換する」(☞P.32)
- 2** パソコン本体にマルチベイアダプタを取り付けます。
「マルチベイアダプタを取り付ける」(☞P.28)
- 3** パソコン本体にACアダプタを取り付けます。
「ACアダプタを取り付ける」(☞P.65)

- 4** 液晶ディスプレイを開きます。
前面のラッチを押してロックを外し、液晶ディスプレイに手を添えて持ち上げます。

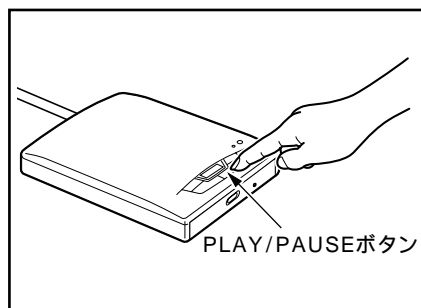


- 5** マルチベイアダプタの「CD再生On/Offボタン」を押します。
液晶パネルに「- -」と表示されます。



- 6** 音楽用のCDをセットします。
「セットする」(☞P.46)

- 7** 「PLAY/PAUSEボタン」を押して、音楽を再生します。



💡 アドバイス

音楽CD再生ボタンの働きについては

「音楽CD再生ボタン」
(☞P.20)

デジタル音楽CDを再生するには

デジタル音楽CDは、パソコン本体の電源が入っているときに再生できます。



5

音量を調節する

アドバイス

ハウリング（キーンと音になること）が起きたとき

マイクをお使いのときに、音量ボリュームを上げすぎると、スピーカーとマイクの間でハウリングが起きる場合があります。音量を小さくするか、ヘッドホンを使用してください。

また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」（消音）にしてください。

☞『トラブル解決Q&A』の「スピーカーから変な音が出る」

音量を調節するには、パソコン本体の「音量ボリューム」で調節する方法と、画面に「音量つまみ」を表示させて調節する方法とがあります。

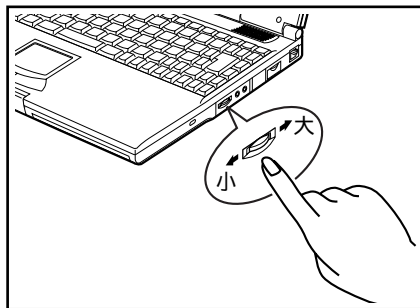
それぞれの音量調節は相互に関係しています。音量ボリュームでは、音量つまみで設定した音量を最大音量とし、その範囲で音を大きくしたり、小さくしたりできます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・音量ボリュームで調節する ☞P.52
- ・音量つまみで調節する ☞P.52

音量ボリュームで調節する

- 1 本体右側面の音量ボリュームを回して適当な音量に調節します。



アドバイス

スピーカーの確認

音量ボリューム、または音量つまみで音量を調節しても音が出ない場合は、スピーカーの状態を確認してください。[Fn]を押しながら[F3]を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。ビーと音がした場合はスピーカーがON、音がしない場合はスピーカーがOFFになります。

🔊(音量)を表示したいとき

CD-ROM などをお使いの最中に、タスクバーが表示されない場合は、[Fn]を押してください。タスクバーが表示されます。

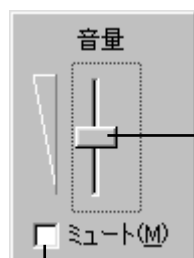
音量つまみで調節する

音量ボリュームで調節しても、音が大きすぎたり、小さすぎたりするときは、音量つまみで調節します。

- 1 タスクバーの🔊(音量)をクリックします。



- 2 音量つまみをドラッグして、適当な音量に設定します。



音量つまみ

下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート


クリックして☑️にすると音が出ません。この場合、音量つまみや音量ボリュームで調節しても音は出ません。もう1度クリックして☐にすると音が出ます。

3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。

さまざまな音量を設定したいとき

音のバランスや入力時の音量などを設定したい場合は、「ボリュームコントロール」ウィンドウでそれぞれの音量を調節します。

- ・「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示するには、次の2つの方法があります。
 - タスクバーの (音量) をダブルクリックします。
 - 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」, 「アクセサリ」, 「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。
- ・「ボリュームコントロール」ウィンドウでは、以下の音量設定ができます。
 - ボリュームコントロール : パソコン全体の音量
 - WAVE : Wave ファイルの音量
 - SW Synth : MIDI の音量
 - CD オーディオ : 音楽 CD の音量
 - ライン入力 : AV 機器の音量
- ・「ボリュームコントロール」ウィンドウの「オプション」, 「プロパティ」をクリックし、「表示するコントロール」で、以下の項目をクリックしてを付けると「ボリュームコントロール」ウィンドウに表示されるようになります。
 - マイク : 内蔵マイクの音量
 - Phone : モデムの音量

6

画面の解像度や発色数を変える

ここでは以下のことを説明します。

- ・液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数 ←P.54
- ・液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える ←P.54

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。

解像度	発色数
640 × 480 ドット 1	256色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) 2
800 × 600 ドット	256色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) 2
1024 × 768 ドット 3	256色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) 2
1280 × 1024 ドット 3	256色

- 1 640 × 480 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。
- 2 デザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、1600万色で表示されます。
- 3 仮想スクリーンモードでの表示となります。
仮想スクリーンモードでは、1024 × 768 ドットおよび1280 × 1024 ドットの領域のうち800 × 600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える

 重要

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows98 の標準画面に切り替わります。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

 アドバイス

ご購入時の解像度と発色数

解像度：800 × 600 ドット
発色数：High Color
(16 ビット)

High Color、True Color の発色数

High Color(16 ビット)は6万5千色、True Color(24 ビット)は1600万色です。

別売のCRTディスプレイを接続したとき

別売のCRTディスプレイを接続した場合に表示できる解像度と発色数については、「CRTディスプレイの解像度と発色数について」(←P.122)をご覧ください。




解像度や発色数を変更するとき

- ・設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。
- ・アプリケーションによっては、発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリケーションの動作環境を確認し、発色数を変更してください。
- ・解像度を変更するときには、一時的に表示画面が乱れることがあります。動作に問題はありません。

 **アドバイス**

解像度を 1024 x 768 ドット以上に設定する場合

解像度を 1024 x 768 ドット以上に設定したことがある場合、2 回目以降は手順 16 へ進んでください。ただし、ディスプレイドライバをインストールし直したあとは、手順 5 へ進んでください。

- 2**  (画面) をクリックします。
- 3** 「設定」タブをクリックします。
- 4** 解像度を 800 x 600 ドット以下に設定する場合
手順 16 (←P.56)
解像度を 1024 x 768 ドット以上に設定する場合
← 手順 5
発色数を変更する場合
手順 16 (←P.56)
- 5** 「詳細」をクリックします。
- 6** 「モニタ」タブをクリックします。
- 7** 「変更」をクリックします。
- 8** 「次へ」をクリックします。
- 9** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を……」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
- 10** 「すべてのハードウェアを表示」をクリックして  にします。
- 11** 製造元とモデルを以下のように選びます。
製造元：「(標準モニタの種類)」
モデル：「Super VGA 1280 x 1024」
- 12** 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 13** 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
- 14** 「完了」をクリックします。

アドバイス

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき

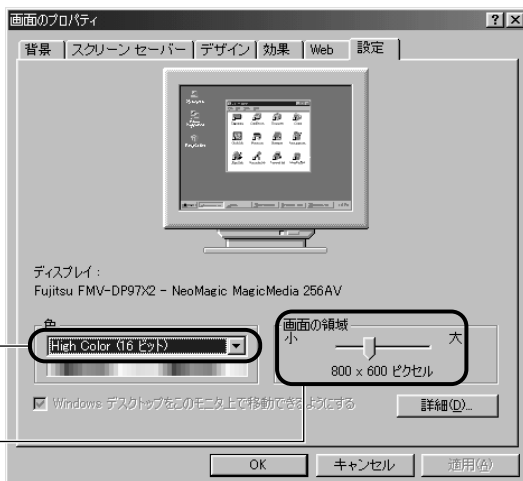
- 1 「OK」をクリックします。
「この設定を保存しますか?」というウィンドウが表示されます。
- 2 「はい」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 3 手順 16 へ進みます。

15 「閉じる」をクリックします。

16 発色数や解像度を変更します。

発色数の変更
▼をクリックして発色数を選びます。

解像度の変更
▼をドラッグします。



17 「OK」をクリックします。

ウィンドウが表示されます。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。

18 「OK」または「はい」をクリックします。

ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。

画面の設定が変更されます。

アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたとき

「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」をクリックして [O] にし、「OK」をクリックしてください。

「再起動しないで新しい色の設定を適用する」を [O] にすると、正しい色で表示されないことがあります。その場合は、再起動してください。



7

基本的な機能を使おう

液晶ディスプレイの明るさを変更する

液晶ディスプレイの明るさは、BIOS セットアップか PMSet98 で設定できます。パソコンを使っている途中で明るさを変更したいときは、キーボードで変更します。明るさは、明るい順から高輝度、中輝度、低輝度の 3 段階まで調節できます。ここでは以下のことを説明します。

- ・明るさを設定する
- ・設定した明るさを変更する

明るさを設定する

液晶ディスプレイの明るさは、BIOS セットアップか PMSet98 で設定できます。

BIOS セットアップでの設定

省電力メニューの「詳細設定」の「液晶ディスプレイバックライト」(☞P.146)で設定できます。

「標準」に設定したとき

AC アダプタを接続すると、高輝度になります。AC アダプタを接続していないときは、中輝度になります。

「低電力」に設定したとき

AC アダプタが接続されていてもされていなくても、低輝度になります。

PMSet98 での設定

「電源依存」タブの「LCD バックライト」(☞P.84)で設定できます。

「明」に設定したとき

「AC 電源に接続」では、高輝度になります。「バッテリーを使用中」では、中輝度になります。

「暗」に設定したとき

「AC 電源に接続」、「バッテリーを使用中」のどちらも、低輝度になります。

設定した明るさを変更する

本パソコンを使用中に **[Fn]** を押しながら **[F6]** または **[F7]** を押すと、上記の設定に関係なく、明るさを 3 段階で調節できます。

「主なキーの名称とはたらき」の **16** (☞P.16)

パソコンを再起動したり、サスペンドからレジュームしたり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行ったときは、PMSet98 で設定した明るさに戻ります。



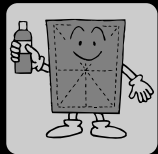
アドバイス

キーボードで明るさを変更するときの注意

再起動したり、サスペンドからレジュームしたり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。しばらくしてから、変更してください。

2

基本的な機能を使おう (液晶ディスプレイの明るさを変更する)



8

お手入れのしかた

パソコンを快適にお使いいただくため、パソコンのお手入れのしかたを説明します。お手入れのしかたは、ディスプレイ、フロッピーディスクドライブなど、各部によって違います。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

ここでは以下のことを説明します。

- ・パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ
- ・フロッピーディスクドライブのお手入れ

パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ

 重要

お手入れ前の確認

感電やけがの原因になることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- ・パソコン本体の電源を切ってください。
- ・ACアダプタを取り付けている場合は、取り外してください。
- ・プリンタなど、取り付けている機器の電源を切り、パソコンから取り外してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りのときには、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは別売のクリーニングフロッピーを購入して、3カ月に1回はヘッド（データを読み書きする部分）のクリーニングを行ってください。長い期間使用していると、ヘッドは汚れてきます。ヘッドが汚れると、記憶したデータを正常に読み書きできなくなります。



注意



け が フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)



重要

内蔵スーパーディスクドライブユニット（別売）では使えません

内蔵スーパーディスクドライブユニットのクリーニングには、必ずスーパーディスクドライブ専用品をお使いください。フロッピーディスクドライブ用のクリーニングフロッピーをお使いになると、ヘッドを破損させ、故障の原因となります。

☞『内蔵スーパーディスクドライブユニット（FMV-NSD12）取扱説明書』

お手入れのしかた

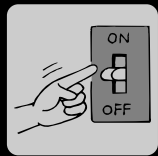
- 1 FDD ユニットを取り付けます。
「FDD ユニットを取り付ける」(☞P.35)
- 2 パソコン本体の電源を入れます。
「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.62)
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 4 「C:¥WINDOWS >」のあとに c:¥fjuty¥clndsk 0 と入力し、
[Enter] を押します。
「clndsk」と「0」の間は、 を 1 回押してください。「0」は、数字のゼロです。
- 5 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブに差し込み、
[Enter] を押します。
「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングが始まります。クリーニングが終了すると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 6 「C:¥WINDOWS >」のあとに exit と入力し、[Enter] を押します。
Windows 98 の画面に戻ります。
- 7 状態表示 LCD に が表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押して、クリーニングフロッピーを取り出します。

第 3 章

電源と節電機能を賢く使おう

本章では、電源の入れかたと切りかた、ACアダプタやバッテリーでの使いかた、節電のしかたについて説明しています。

1. 電源を入れる / 電源を切る	62
2. AC アダプタで使う	65
3. バッテリーで使う	67
4. 節電する	74
5. 節電の設定を変更する	81



1

電源を入れる / 電源を切る

ここでは、以下のことを説明します。

- ・電源を入れてパソコンを使おう ←P.62
- ・今日はおしまい。電源を切るには？ ←P.63

電源を入れてパソコンを使おう

アドバイス

Windows98 が起動しないとき

電源を入れてもWindows98 が起動しないときは、次の点を確認してください。

- ・ ACアダプタを取り付けているとき
ACアダプタが正しく取り付けられているかを確認してください。
「ACアダプタを取り付ける」(←P.65)
- ・ バッテリーで使うとき
バッテリーの残量が十分にあるかを確認してください。
「残量を確認する」(←P.69)
- ・ 画面にメッセージが表示されているとき
「BIOS が表示するメッセージ一覧」(←P.155)

以上の点を確認してもWindows98 が起動しない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。FM インフォメーションサービスにご相談ください。

☞『トラブル解決Q&A』の「第3章 サポート情報」

重要

電源を入れるときの注意

- ・ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされているときは、取り出しておいてください。
「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(←P.42)
- ・ 電源を切ったあと、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、10秒ほど待ってから電源を入れてください。
- ・ 電源が入っている状態で、持ち運んだり、衝撃を与えたりしないでください。
- ・ 長時間お使いになるときや通信をするときなど、大量の電力を消費する作業を行うときは、必ず AC アダプタを取り付けてください。

バッテリーで使うときの注意

以下の場合、バッテリーが充電されていないことがあります。バッテリー残量を確認し、必要に応じてバッテリーを充電してください。

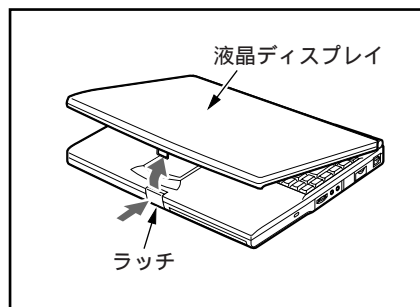
- ・ 本パソコンご購入のとき
- ・ 約1ヵ月以上充電していないとき
「充電する」(←P.67)
- ・ 「残量を確認する」(←P.69)

1 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」(←P.65)

2 液晶ディスプレイを開きます。

前面のラッチを押してロックを外し、パソコン本体に手を添えて液晶ディスプレイを持ち上げます。



アドバイス

すでに MAIN スイッチが奥(| 側)になっているときは

状態表示 LCD を確認してください。

・ 状態表示 LCD に ① が表示されていない場合
前回電源を切ったときに、MAIN スイッチを手前(側)にスライドさせていなかったことが考えられます。

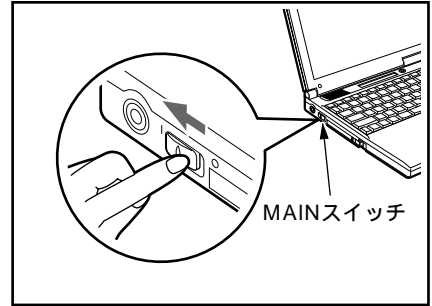
MAIN スイッチを手前にスライドさせてから、手順 3 の操作を行います。
また、MAIN スイッチが奥(| 側)になっている状態で SUS/RES スイッチを押しても電源が入りません。

・ 上記以外の場合
「本パソコンの動作状態がわからないとき」(←P.80) をご覧になり、画面を表示してください。

3 MAIN スイッチを奥(| 側)へスライドさせます。

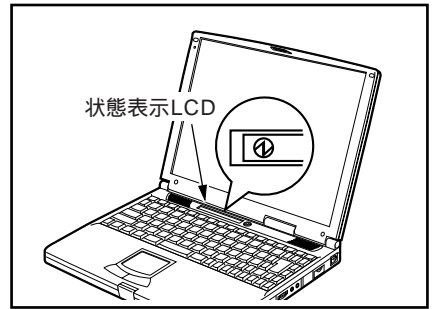
MAIN スイッチの両側に、 と | が刻印されています。

側)にスライドすると電源が切れ、| 側)にスライドすると電源が入ります。



状態表示 LCD に ① が表示されます。

しばらくすると、Windows 98 が起動します。

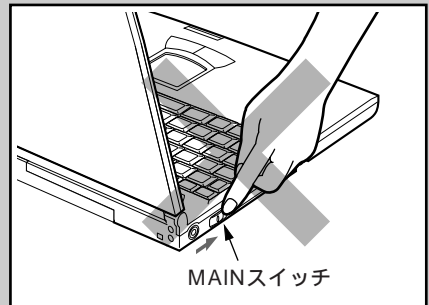


今日はおしまい。電源を切るには？

重要

電源を切るときの注意

- ・ 状態表示 LCD に ① (SUS/RES 表示) が点灯または点滅しているときは、MAIN スイッチを手前(側)にスライドしないでください。
- ・ 必ず、以下の手順で Windows の終了処理を行ってください。
Windows の終了処理を行うと、自動的に電源が切れます。



- ・ 電源を切る前に、フロッピーディスクや CD-ROM を取り出してください。

「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(←P.42)

「CD-ROM をセットする / 取り出す」(←P.46)

1 それまで行っていた作業を終了します。

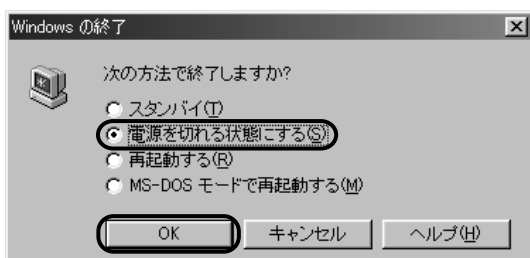
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。

3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。



4 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。

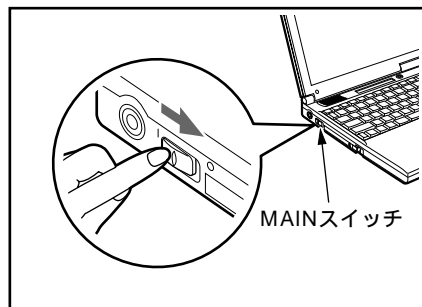


しばらくすると、状態表示 LCD の ① が消え、電源が自動的に切れます。

5 MAIN スイッチを手前（側）にスライドさせます。

MAIN スイッチの両側に、 と | が刻印されています。

側にスライドすると電源が切れ、 | 側にスライドすると電源が入ります。



6 AC アダプタを取り外します。
「AC アダプタを取り外す」(← P.66)

アドバイス

フロッピーディスクがセットされているとき

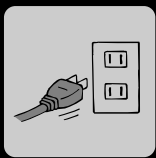
フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされていると、「フロッピーディスクが入っています。Windows の終了を中止します。」というメッセージが表示されます。

その場合は、「閉じる」をクリックし、フロッピーディスクを取り出して、手順 3 から操作し直してください。

アドバイス

続けてバッテリーを充電するとき

電源を切ったあとに AC アダプタを取り外す必要はありません。



2

AC アダプタで使う

本パソコンを長時間使うとき、またはバッテリーを充電するときは、AC アダプタを取り付け、コンセントに接続します。パソコン本体を持ち運ぶときや、長期間本パソコンを使わないときは、AC アダプタを取り外します。

ここでは、以下のことを説明します。

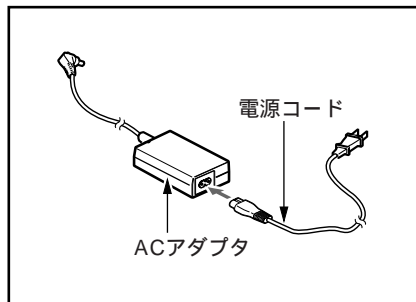
- ・ AC アダプタを取り付ける ←P.65
- ・ AC アダプタを取り外す ←P.66

AC アダプタを取り付ける

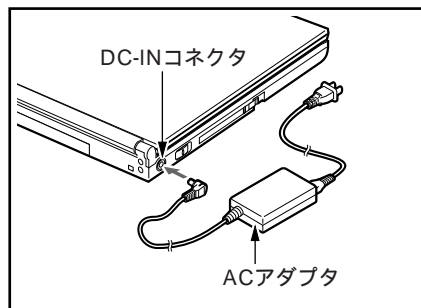


近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

1 電源コードを接続します。



2 AC アダプタを、パソコン本体左側面の DC-IN コネクタに接続します。



3 AC アダプタをコンセントに接続します。

AC アダプタを取り外す

重要

バッテリーは充電されていますか

本パソコンを使っている途中でACアダプタを取り外すときは、バッテリーが充電されているか確認してください。

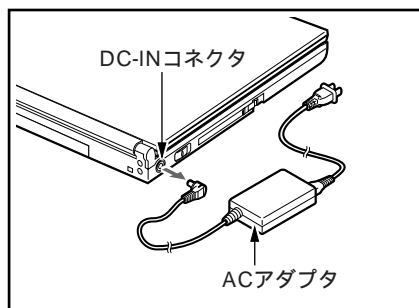
「残量を確認する」(←P.69)

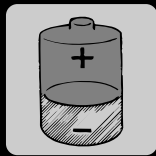
次の場合は必ず AC アダプタを取り外してください

- ・ オプション機器の取り付けや取り外しを行うとき
- ・ 本パソコンを長期間使わないとき

1 AC アダプタをコンセントから抜きます。

2 AC アダプタを、パソコン本体左側面の DC-IN コネクタから取り外します。





3

バッテリーで使う

外出先など、コンセントがない場合には、バッテリーで使うことができます。ここでは以下のことを説明します。

- ・充電する ←P.67
- ・充電時間 ←P.68
- ・稼働時間 ←P.68
- ・残量を確認する ←P.69
- ・気をつけてください～バッテリーを使うとき ←P.72
- ・内蔵バッテリーパックを交換する ←P.72

 **重要**
充電してください

本パソコンご購入時、または1ヵ月以上充電していないときは、充電してからお使いください。

次の場合は必ず AC アダプタを取り付けてください




- ・ハードディスク、CD-ROM、DVD-ROM、スーパーディスクに頻繁にアクセスするとき
- ・LANカードを使用するとき
- ・『トラブル解決Q&A』の「第4章 ふりだしにもどす」の作業を行うとき

パソコン通信やインターネットを利用するとき

パソコン通信やインターネットでは、大量の電力を消費します。バッテリーの残量にご注意ください。長時間使用するときは、ACアダプタを取り付けてください。



充電する

 **重要**
バッテリーを充電するときの注意



- ・満充電になるまで充電をやめないでください。
バッテリーを満充電にするときは、バッテリー充電表示(状態表示LCDの)が消えるまで、ACアダプタを外さないでください。満充電になると→が消えます。
バッテリー残量表示がになっていても、左端が点滅()していたり、→が表示されているあいだは、満充電ではありません。
- ・バッテリーが約90%以上残っているときは、充電を開始しないことがあります。
「残量を確認する」(←P.69)
- ・充電は、周囲の温度が5～35の範囲で行ってください。周囲の温度が高すぎたり低すぎたりする場合は、得られる電池容量が低くなります。また、周囲の温度が高いとき(35以上)は、バッテリーの劣化の原因にもなります。
- ・本パソコンを使った直後は、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働き、適温になるまで充電を開始しないことがあります。

1 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」(←P.65)

ACアダプタを取り付けると充電が始まり、バッテリー充電表示(状態表示LCDの「」の「」)が表示されます。

バッテリー充電表示は、充電が完了すると消えます。

バッテリー残量表示は、充電が完了すると点滅()から点灯()に変わります。

「残量を確認する」(←P.69)

「充電時間」(←P.68)

状態表示LCDに何も表示されなかったり、バッテリー充電表示が表示されないときは、充電が完了しています。

2 バッテリー充電表示(状態表示LCDの「」の「」)が消えたことを確認します。

3 ACアダプタを取り外します。

「ACアダプタを取り外す」(←P.66)

充電時間

充電時間は、電源の状態によって異なります。

新品で充電残量0%のバッテリーパックを満充電(100%充電されている状態)にする場合は、以下のとおりです。

電源の状態	状態表示LCD	パソコンの状態	充電に必要な時間
電源入	①が点灯	動作中	約10時間
	①が点滅	サスペンド	
電源切	①が消灯	終了	約4時間

サスペンドについて「サスペンド機能を使う」(←P.75)

稼働時間

新品のバッテリーを満充電にした場合、稼働時間の目安は、約3時間です。

使用条件： オプション機器を取り外している状態で、Windows98の「電源の管理」やBIOSセットアップで節電の設定を有効にしているとき(ご購入時は有効)

本パソコンをバッテリーで使える時間(稼働時間)は、バッテリーの状態や作業内容によって異なります。パソコン通信など、大量の電力を消費する作業を行うと、バッテリーの稼働時間は短くなります。

アドバイス

MAINスイッチを手前(側)にスライドしているとき

充電が完了してしばらくすると、状態表示LCDの表示が消えます。その場合は、本パソコンの電源を入れて、バッテリー充電表示を確認してください。

アドバイス

充電中もパソコンを使えます

バッテリーの充電中もパソコンを使うことができます。ただし、充電にかかる時間は、パソコンを使っていないときよりも長くなります。

作業の途中で画面が真っ暗になったとき

フラットポイント(←P.4)に触れてください。フラットポイントに触れても元の状態に戻らないときは、SUS/RESスイッチ(←P.3)を押してください。

本パソコンは、バッテリーで使うときに節電するように、あらかじめ設定されています。一定時間パソコンの操作をしないと、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。

重要**バッテリーの稼働時間について**

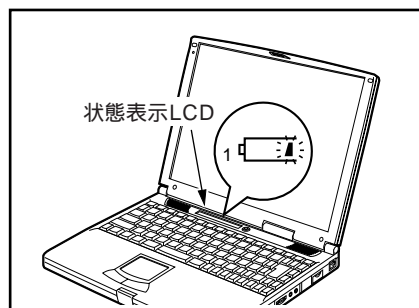
- ・周囲の温度が低いときは、周囲の温度が高いときに比べて充電と放電の能力が低くなるため、バッテリーの稼働時間が短くなります。
- ・バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリーの稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。「内蔵バッテリーパックを交換する」(←P.72)

残量を確認する

バッテリーの残量がなくなると、作業中のデータが保存できなくなることがあります。本パソコンをバッテリーで使っているときは、状態表示LCDでバッテリー残量を確認してください。

バッテリー残量表示

バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示LCDで確認できます。バッテリー残量表示は、充電をするタイミングの目安になります。

**アドバイス**

バッテリーパック装着表示の左の数字について


バッテリーパック装着表示(🔋)の「1」は、パソコン本体の内蔵バッテリーパックを示しています。

バッテリー充電表示(状態表示LCDの🔋)について

バッテリーが充電中であることを示しています。充電が完了すると矢印は消えます。

重要**バッテリー残量表示について**


状態表示LCDに表示されるバッテリー残量表示は、バッテリー(リチウムイオン電池)の特性上、使用環境(温度条件やバッテリーの充電回数など)により、実際のバッテリー残量と異なる表示をする場合があります。

 約 100 ~ 76%




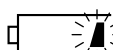
 約 75 ~ 51%




 約 50 ~ 26%




 約 25 ~ 13%
充電してください。
「充電する」(←P.67)

 約 12%以下
バッテリー残量表示が点滅し、警告音が鳴ります。しばらくするとバッテリーの残量がなくなります。
この状態になったときは、すぐにサスペンド(一時停止)してください。
「LOW バッテリー状態」(←P.71)

 バッテリー切れ状態(充電残量 0%)
すぐに充電してください。
「充電する」(←P.67)

バッテリーの異常表示

バッテリーが正しく充電されないときは、 (バッテリー残量表示)が点滅します。バッテリーを取り付け直してください。
取り付け直しても表示される場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーに交換してください。
「内蔵バッテリーパックを交換する」(←P.72)


アドバイス

次の場合は警告音が聞こえません

- ・スピーカーをOFFにしているとき
Fn を押しながら F3 を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。ピーと音がした場合はスピーカーがON、音がしない場合はスピーカーがOFFになります。
- ・音量ボリュームを小さくしているとき

ロウ

LOW バッテリー状態

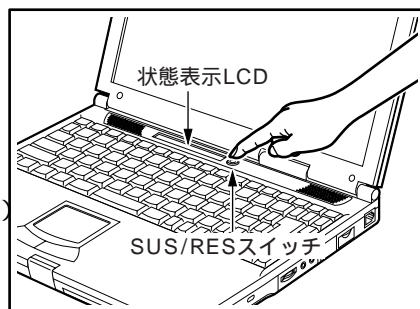
バッテリーの残量が約12%以下の状態を「LOW バッテリー状態」といいます。この状態になると、状態表示LCDのバッテリー残量表示が点滅()し、警告音が鳴ります。

このままにしておくと、バッテリーが切れて、作業中のデータが保存できなくなることがあります。

LOW バッテリー状態になったときは、必ず以下の操作をしてください。

1 SUS/RES スイッチを押します。

しばらくすると状態表示LCDに①が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消え、サスペンドします。「サスペンド機能を使う」(←P.75)

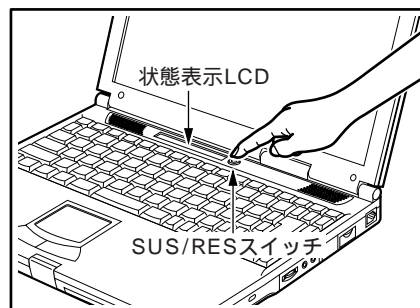


2 AC アダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」(←P.65)
ACアダプタを取り付けると、充電が始まります。

3 SUS/RES スイッチを押します。

状態表示LCDの①が点滅から点灯になり、しばらくすると画面が表示され、パソコンがレジュームし(サスペンドする前の状態に戻ります)ます。



重要

LOW バッテリー状態になったときの注意

- ・LOW バッテリー状態のまま放置すると、自動的にサスペンドします。ただし、ハードディスクなどデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでサスペンドしません。バッテリーの残量にご注意ください。
- ・LOW バッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかにACアダプタを取り付けてください。「ACアダプタを取り付ける」(←P.65)

3

電源と節電機能を賢く使おう(バッテリーで使う)

気をつけてください~バッテリーを使うとき

自然放電します

- ・長期間(約1ヵ月以上)本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
- ・バッテリーは、充電後お使いにならずに保管しても、約1ヵ月で自然放電してしまいます。バッテリーは使う直前に充電することをお勧めします。

消耗品です

バッテリーは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下します。バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。

「内蔵バッテリーパックを交換する」(←P.72)

また、パソコンを長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度は、パソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。

内蔵バッテリーパックを交換する

バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。

新しいバッテリーは、内蔵バッテリーパック(FMVNBP103)をお買い求めください。

型名 : FMVNBP103

(本パソコンご購入元にお問い合わせください)



- ・内蔵バッテリーパックの取り付けや取り外しを行う場合は、本体の端子に触れないでください。
 - 感電、故障の原因となります。
 - ・内蔵バッテリーパックの取り付けや取り外しを行うときは、誤って落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーパックはお使いにならないでください。
- 感電や火災、破裂の原因となります。

- 1** パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには?」(←P.63)
- 2** オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3** ACアダプタを取り外します。
「ACアダプタを取り外す」(←P.66)

アドバイス

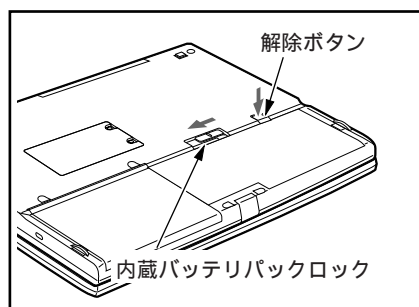
サスペンド中でも交換できます

内蔵バッテリーパックは、パソコン本体がサスペンド中およびSave To Disk状態でも交換できます。サスペンド中に交換する場合は、以下の点にご注意ください。

- ・内蔵バッテリーパックを交換する前に、ACアダプタでの充電を半日以上行ってください。
- ・サスペンドする前に、データを保存してください。
- ・内蔵バッテリーパックの交換は、3分以内に行ってください。
- ・内蔵バッテリーパック交換中にSUS/RESスイッチを押さないでください。
- ・内蔵バッテリーパック交換中に液晶ディスプレイの開け閉めを行わないでください。
- ・レジュームする前に、内蔵バッテリーパックがきちんとロックされていることを確認してください。
- ・マルチベイアダプタ接続時は、マルチベイアダプタを取り外してから内蔵バッテリーパックを交換してください。

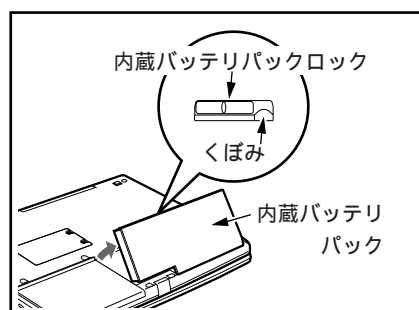
4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

5 解除ボタンを押しながら、内蔵バッテリーパックロックをスライドします。



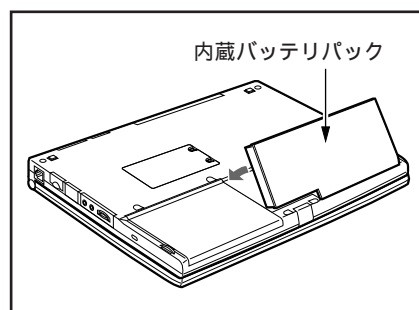
6 内蔵バッテリーパックを取り外します。

内蔵バッテリーパックロックをスライドしてできたくぼみに指をかけて手前に持ち上げてください。

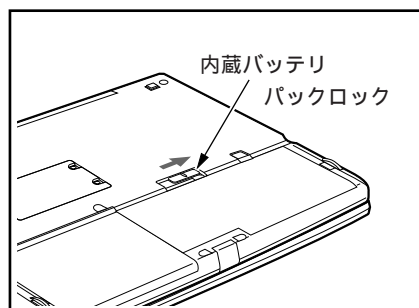


7 新しい内蔵バッテリーパックを取り付けます。

斜め上から差し込み、しっかりと押し込んでください。



8 内蔵バッテリーパックロックをカチッと音がするまでスライドします。



3

電源と節電機能を賢く使おう(バッテリーで使う)

4

節電する

パソコンを使っている途中でひと休みするときは、パソコンも休ませて節電しましょう。

本パソコンには、パソコンの動作を停止させて節電するための、「サスペンド機能」と「Save To Disk 機能」があります。

ここでは以下のことを説明します。

- ・サスペンド機能と Save To Disk 機能 ←P.74
- ・サスペンド機能を使う ←P.75
- ・Save To Disk 機能を使う ←P.78

サスペンド機能と Save To Disk 機能

サスペンド機能とは、作業している状態をメモリに保存し、パソコンの動作を一時停止させる機能です。

Save To Disk 機能とは、自動的に作業状態をハードディスクに保存したあと、パソコン本体の電源を切る機能です。

これらの機能を利用すると、アプリケーション使用中でも、本パソコンを一時停止したり電源を切ったりして節電することができます。

サスペンド機能と Save To Disk 機能の違いは以下のとおりです。

	サスペンド機能	Save To Disk機能
作業状態の保存場所	メモリ	ハードディスク
電源の状態	節電状態 (メモリの内容を維持するためだけの電力を消費する)	電源を切っている状態 (電力を消費しない)

重要

LANカードなどのPCカードをお使いのときや、モデムで通信をしているときの注意

LANカードを使ってネットワークに接続しているときなど、PCカードをセットしているときおよび、モデムで通信をしているときは、サスペンド機能や Save To Disk 機能が使えないことがあります。PCカードをお使いのときに作業を中断する場合は、PCカードのマニュアルをご覧ください。

サスペンド機能を使う

サスペンド機能を使うと、パソコンの動作を一時停止し、作業を中断できます。中断した作業を再開すると、サスペンド機能を使う前の状態に戻ります。

重要

サスペンドが可能な時間

新品のバッテリーを満充電にした状態で、約1日サスペンドできます。

サスペンドが可能な時間が短くなる時

「PMSet98」で、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左を に設定している場合(ご購入時は)は、サスペンド可能な時間が短くなることがあります。

「節電の設定を変更する」(P.81)

サスペンドについての注意

- ・ ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PCカード利用中は、それらの作業を完了または中断してからサスペンドしてください。
- ・ サスペンド中は、MAINスイッチを手前(側)へスライドしないでください。作業中のデータがすべて失われてしまいます。
- ・ サスペンドしているときにバッテリーが切れると、作業中のデータはすべて失われてしまいます。バッテリーでパソコンを使っているときにサスペンドする場合は、バッテリー残量に十分注意してください。長い時間サスペンドするときは、ACアダプタを取り付けることをお勧めします。
- ・ Windows98 が起動するまでの間は、サスペンドしない場合があります。

セットすると自動で始まるCD-ROMを使用しているときは、サスペンド

しないでください

セットすると自動で始まるCD-ROMを使用しているときにサスペンドすると、レジューム時にCD-ROMが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CD-ROMのアプリケーションを一度すべて終了し、CD-ROMをセットし直してください。

オプション機器を接続しているとき

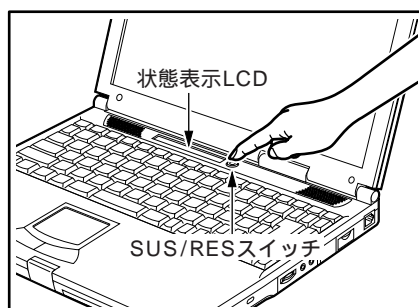
ドライバのインストールが必要なオプション機器を接続しているときは、ドライバのインストールが終了してからサスペンド機能を使ってください。

作業を中断する（サスペンド機能）

サスペンドするには、SUS/RESスイッチ（←P.3）を使う方法や、液晶ディスプレイを閉じる方法などがあります。

SUS/RESスイッチを使う

- 1 状態表示LCDに🔋や📄が表示されていないことを確認し、SUS/RESスイッチを押します。
しばらくすると状態表示LCDに①が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消えます。



重要

SUS/RESスイッチは4秒以上押さないでください

SUS/RESスイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

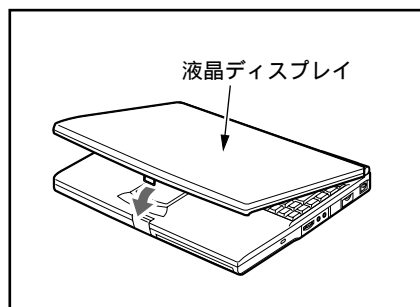
液晶ディスプレイを閉じる

重要

液晶ディスプレイを閉じてサスペンドするときの注意

Windows98の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

- 1 状態表示LCDに🔋や📄が表示されていないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。



アドバイス

液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンドしないようにするには

BIOSセットアップの「省電力」メニューの「詳細設定」で、「カバークローズサスペンド」を「使用しない」に設定してください（ご購入時は「使用する」）。

「BIOSセットアップの操作のしかた」（←P.133）

サスペンドの別の操作方法

「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックして表示される「Windowsの終了」ウィンドウで、「スタンバイ」をクリックしても、サスペンドすることができます。

中断した作業を再開する

一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。

レジュームするには、SUS/RES スイッチ (←P.3) を使う方法や液晶ディスプレイを開く方法などがあります。

重要

レジュームするときの注意

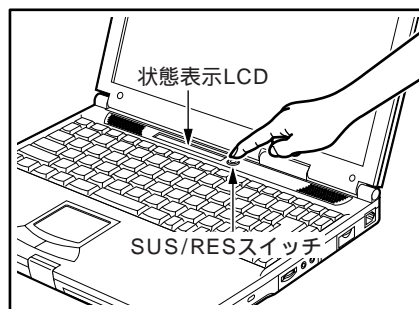
サスペンドした直後にレジュームしないでください。レジュームするときは、10 秒ほど待ってください。

液晶ディスプレイを開いているとき

1 状態表示LCD に①が点滅していることを確認します。

2 SUS/RES スイッチを押します。

状態表示LCDの①が点滅から点灯に変わり、しばらくすると中断する前の画面が表示されます。



アドバイス

レジューム時の画面の乱れについて

レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。あらかじめご了承ください。

レジューム後にキーボードが使用できないとき

BIOS セットアップの「セキュリティ」メニュー (←P.143) で、「起動時のパスワード」と「レジューム時のパスワード」を「使用する」に設定していると、レジューム後はフラットポイント(マウス)と、パスワードを入力する以外のキーボード操作ができません(状態表示LCDの①、②が一定時間順番に表示されます)。

この場合は、起動時のパスワードを入力し、[Enter] を押してください。キーボードとフラットポイント(マウス)が使用できるようになります。

レジュームしないとき

SUS/RES スイッチを押してもレジュームしないときは、MAIN スイッチが手前(側)にスライドされていないかを確認してください。

重要

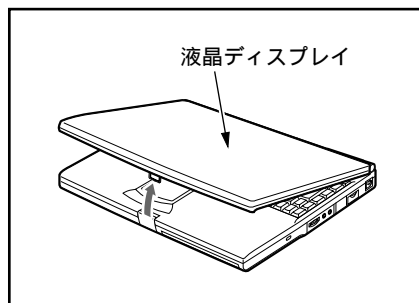
SUS/RES スイッチは 4 秒以上押さないでください

SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

液晶ディスプレイを閉じているとき

1 液晶ディスプレイを開きます。

状態表示LCDの①が点滅から点灯に変わり、しばらくすると中断する前の画面が表示されます。



Save To Disk 機能を使う

Save To Disk機能を使うと、作業中の状態をハードディスクに保存して、作業を中断できます。中断しているあいだは、電源が切れているので、電力を消費しません。

中断した作業を再開すると、中断する前の作業状態に戻ります。


重要

オプション機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うとき

PCカードやプリンタなどの機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うと、作業を再開するときに機器に対する初期化が行われます。そのため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

作業を中断する (Save To Disk 機能)

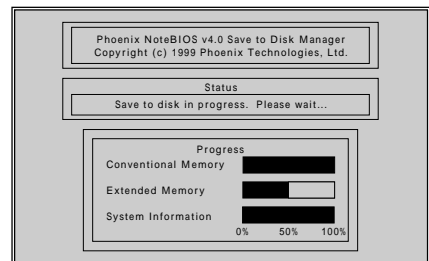
1 状態表示LCDにやが表示されていないことを確認します。

2 を押しながら、SUS/RES スイッチを押します。



ハードディスクへの保存状態が画面に表示され、しばらくすると、電源が切れます。

このあと、MAINスイッチを手前(側)にスライドできます。



アドバイス

SUS/RES スイッチを押すだけで Save To Disk 機能を使いたいとき

BIOS セットアップの「省電力」メニューで、「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定してください。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(P.133)

Save To Disk 機能が動かないとき

Save To Disk 領域が削除されている可能性があります。Save To Disk 領域を作成し直してください。

「Save To Disk 領域」(P.171)

本パソコンご購入時は、Save To Disk 領域が作成されています。

アドバイス

LCDを閉じたときはサスペンドした後にLCDを閉じたときは、開くとレジュームします。

アドバイス

MAINスイッチを手前(側)にスライドしていたとき

Save To Disk機能を使って作業を中断したあと、MAINスイッチを手前(側)へスライドしていた場合は、奥(側)にスライドするとレジュームします。

レジューム時の画面表示の乱れについて

レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。あらかじめご了承ください。

中断した作業を再開する

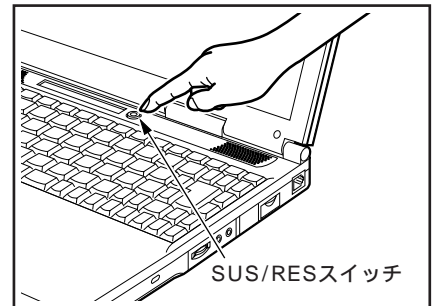
一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。

重要

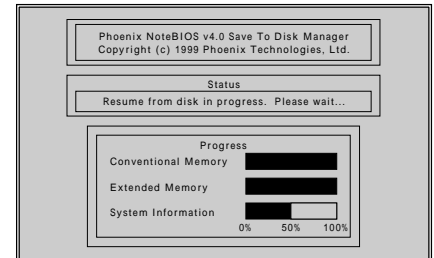
レジュームするときの注意

Save To Disk機能で作業を中断した直後にレジュームしないでください。レジュームするときは10秒ほど待ってください。

- 1 SUS/RESスイッチを押します。



保存された作業状態をハードディスクから呼び出している様子が、画面に表示されます。しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。





節電機能について

コラム

節電の設定

フラットポイント(マウス)や、キーボードの操作をしないまま一定時間過ぎると、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。

本パソコンご購入時は、バッテリーで使っているときに節電機能が働くように設定されています。

Windows98の「電源の管理」で、節電の設定を変更できます。ACアダプタで使うときに節電したり、節電機能を使わないようにすることもできます。

なお、通常お使いになるうえでは、節電の設定を変更する必要はありません。

「節電の設定を変更する」(←P.81)

本パソコンの動作状態がわからないとき

パソコンを使おうとしたときに、パソコンが一時停止状態なのか、終了している状態なのか迷ったときは、次の順番で確認してください。画面が表示されたら、それ以降は、操作する必要はありません。

- 1 フラットポイントに触れる
- 2 SUS/RES スイッチを押す
- 3 MAIN スイッチが手前(側)にスライドされているときは、奥(側)へスライドする

間違えてMAINスイッチをスライドして、前回の作業状態が消えてしまった...などということがないように、気をつけてください。

5

節電の設定を変更する

本パソコンは、電源やパソコンの状況に合わせて適切に節電されるように設定されています。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・ご購入時の節電の設定 ←P.81
- ・「電源の管理」で設定を変更する ←P.81
- ・「PMSet98」で設定を変更する ←P.82



アドバイス

サスペンドするまでの時間を変更するには


「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で、時間を変更してください。

BIOS セットアップの「省電力」メニューとの関係

節電方法をさらに細かく設定したいときは、BIOS セットアップの「省電力」メニューの項目も設定してください。

「省電力メニュー」(←P.145)

バッテリーの残量が12%以下になったとき

バッテリーの残量が約12%以下の状態を、「LOWバッテリー状態」といいます。この状態になると、「アラーム」タブでの設定に関わりなく、バッテリー残量表示(状態表示LCDの)が点滅し、警告音が鳴ります。

「LOWバッテリー状態」(←P.71)

Windows98のヘルプで関連する項目を探すには

「スタート」ボタンをクリックし、「ヘルプ」をクリックすると、「Windowsのヘルプ」ウィンドウが表示されます。「キーワード」タブで、「電源」などの検索語を入力して表示される一覧から、該当する項目をクリックし「表示」をクリックします。

ご購入時の節電の設定


本パソコンご購入時には、バッテリーで使うときに節電されるように設定されています。

節電の設定は、通常お使いになる上では、変更する必要はありません。変更する場合は、「PMSet98」またはWindows98の「電源の管理」を使います。

「電源の管理」で設定を変更する

節電機能が働くまでの時間を変更するときは、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで設定します。

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウを表示する

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (電源の管理) をクリックします。
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

設定を変更する

節電機能が働くまでの時間設定は、「電源設定」タブで変更します。

バッテリーの残量が少なくなったときにWindows98が出す警告の設定は、「アラーム」タブで変更します。

変更のしかたや設定項目について詳しくは、Windows98のヘルプをご覧ください。

「PMSet98」で設定を変更する







「PMSet98」には、現在の設定内容が表示される「PMSet98のプロパティ」ウィンドウと、電源の状態が表示される「インジケータ」があります。

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示する

1 タスクバーのまたはをダブルクリックします。

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウが表示されます。



- ・ タスクバーにまたはが表示されていないとき
「PMSet98」が起動していません。「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「PMSet98」の順にマウスポインタを合わせ、「1.PMSet98」をクリックします。
- ・ が点滅しているとき
バッテリーの充電中は、タスクバーのが点滅しています。
- ・ 「PMSet98」を終了するには
「PMSet98」は、Windows98 を起動するたびに起動します。
「PMSet98」を使用しないときは、タスクバーのまたはを右クリックし、「終了」をクリックします。

インジケータを表示する

インジケータには、バッテリー残量や電源の状態が表示されます。

1 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示します。

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示する」(←P.82)

2 「インジケータ」タブをクリックします。



アドバイス

表示位置について

- ・インジケータと他のウィンドウが重なったときは、インジケータが常に前面に表示されます。
- ・インジケータの位置を固定していると、他のウィンドウの操作ができないことがあります。
- ・「自由位置[ドラッグして位置決め]」にすると、好きな位置に表示できます。
- ・「種類」の右の▼をクリックすると、インジケータの種類を選べます。

電源の状態が表示されないとき

「PMSet98のプロパティ」ウィンドウの「インジケータ」タブで、「電源の状態を表示する」をクリックしてをにします。

3 「インジケータを表示する」をクリックしてをにします。

4 「表示位置」の右の▼をクリックし、一覧から表示する位置をクリックします。

5 「OK」をクリックします。

インジケータが表示されます。

電源の状態によって、表示されるインジケータは異なります。

 : ACアダプタ接続時

 : バッテリーで使用时

アドバイス

BIOS セットアップ
やキーボードでも設
定できます

BIOS セットアップの「省
電力」メニューにある、「詳
細設定」の「液晶ディス
プレイバックライト」でも設
定を変更できます。

また、**[Fn]** を押しなが
ら **[F6]**
および **[F7]** を押し
ても、変
更できます。

「液晶ディスプレイの明
るさを変更する」(←P.57)

「CPU クロック」に
ついて

本パソコンでは、この項目
は設定できません。

アドバイス

BIOS セットアップ
の「省電力」メニュー
との関係

BIOS セットアップの「省
電力」メニューの「モデ
ム着信によるレジュー
ム」(←P.146)でも設定を
変更できます。

「PMSet98」で設定を
変更すると、BIOS セ
ットアップの設定も
変更されま
す。

レジュームするよ
うに設定している
とき

- ・ **[Fn]** を押しなが
ら、
SUS/RESスイッチを
押し、Save To Disk
機能を使っている
ときは、レ
ジュームし
ません。
「Save To Disk 機
能を使う」(←P.78)
- ・ BIOS セットアップ
の「省電力」メ
ニューで、
「サスペンド動作」
(←P.145)などを
「Save To Disk」に
設定していても、
サスペンド
になります。
- ・ サスペンド中
でもモデム
を動作させてお
くため、サ
スペンド中の
電力消費が
大きくなり
ます。AC
アダプタを
接続してお
使いになる
ことをお
勧めし
ます。

設定を変更する

「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウで設定できる項目について説明します。

LCD バックライト

液晶ディスプレイのバックライトを省電力モードにして、節電するかどうかを設定
します。

「電源依存」タブで「LCD バックライト」を「暗」にすると省電力モードになり、
「明」にすると省電力モードになりません。

設定を変更したときは、「適用」または「OK」をクリックしてください。

電話がかかってきたらレジュームする

「その他」タブの「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」をクリックして

を にし、「適用」または「OK」をクリックします。

サスペンド中に電話回線からモデムに着信したとき、レジュームする(サスペンド
する前に戻す)ようになります。ただし、PDCコネクタに接続した携帯電話からの
着信ではレジュームしません。

第 4 章

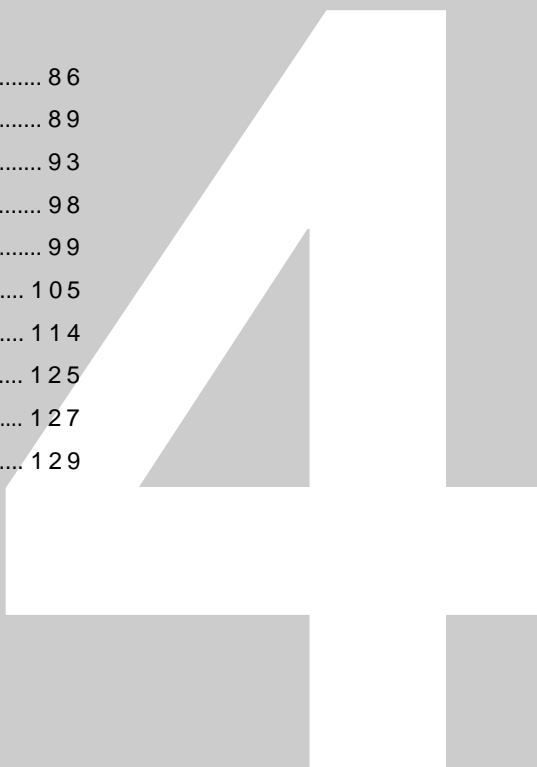
オプション機器を活用しよう！

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、取り付けられるオプション機器の例を紹介し、取り付け方法や設定作業などについて説明しています。

1. オプション機器について	86
2. プリンタを接続する	89
3. メモリを増やす	93
4. マウス/テンキーボードを接続する	98
5. PC カードをセットする	99
6. 携帯電話や PHS を接続する	105
7. CRT ディスプレイを接続する	114
8. 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける	125
9. 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける	127
10. その他のオプション機器を使う	129



1

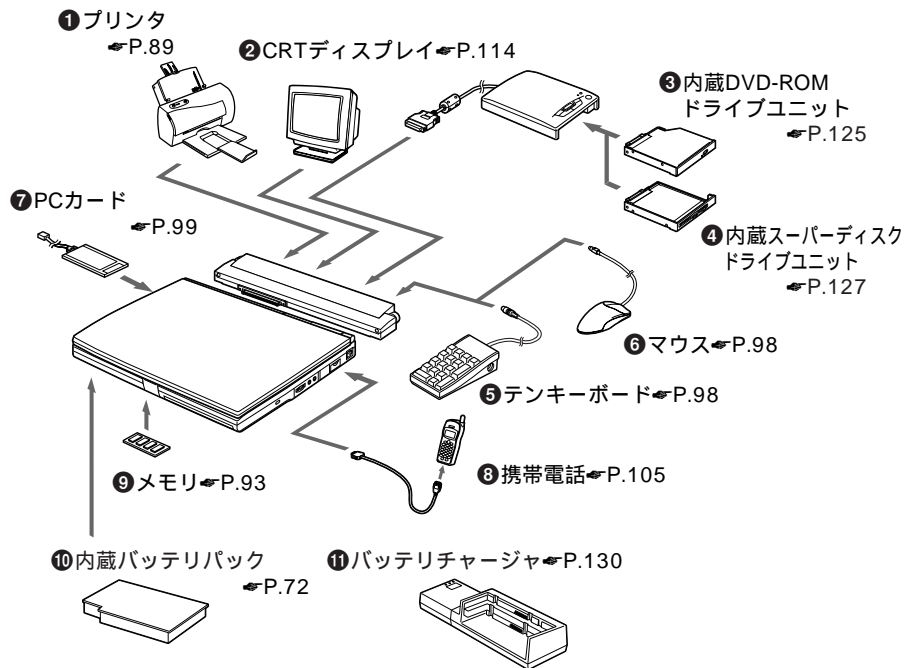
オプション機器について

ここでは以下のことを説明します。

- ・オプション機器の紹介 ←P.86
- ・オプション機器の接続にあたって ←P.87

オプション機器の紹介

本パソコンに取り付けられるオプション機器には、次のようなものがあります。接続のしかたなどについて詳しくは、各機器の参照先をご覧ください。



1 プリンタ

パソコンで作った文書や画像などを印刷できます。

2 CRTディスプレイ

液晶ディスプレイよりも高解像度で表示できます。

3 内蔵DVD-ROMドライブユニット

DVD-ROMやCD-ROMの映像や音声を再生できます。

4 内蔵スーパーディスクドライブユニット

フロッピーディスクと、より多くのデータを保存できるスーパーディスクを使えます。

5 テンキーボード

数字を効率良く入力できます。

アドバイス

取り付けられるその他のオプション機器

- ・外径3.5mmのミニプラグを持つオーディオ機器
アンプ内蔵スピーカー、ヘッドホンなどを、本体右側面のジャックに接続できます。
- ・SCSI規格対応の機器
本体左側面のPCカードスロットにSCSIカードをセットすることで、SCSI規格に対応した外付けハードディスクやMO(光磁気ディスク)ドライブなどを、接続できます。

- ・ RS-232C 規格対応の機器
RS-232C 規格に対応した機器（デジタルカメラなど）を、コネクタボックスのシリアルコネクタに接続できます。
- ・ USB 規格対応の機器
USB 規格に対応した機器（マウスやキーボードなど）を、パソコン本体背面またはコネクタボックスの USB コネクタに接続できます。

- ⑥ マウス
マウスポインタの操作がより快適になります。
- ⑦ ピーシー PC カード
パソコンにさまざまな機能を追加できます。
- ⑧ 携帯電話
携帯電話を利用して、インターネットやパソコン通信ができます。
- ⑨ メモリ
より大きなデータを扱えるようになり、パソコンの処理が快適になります。
- ⑩ 内蔵バッテリーパック
本パソコンの内蔵バッテリーパックと交換して使うことができます。
- ⑪ バッテリーチャージャ
内蔵バッテリーパックを 2 つまで同時に充電できます。

オプション機器の接続にあたって

ここでは別売のオプション機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

本パソコンは「PC/AT 互換機」です

パソコンには、さまざまな種類のものがあります。本パソコンは、ピーシーエーティー「PC/AT 互換機」です。また、通称で「ドス DOS/V パソコン」と呼ばれることもあります。本書では、オプション機器の接続について、PC/AT 互換機の特徴に沿って説明しています。

用語

ドライバ

パソコンに取り付ける機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、パソコンとオプション機器との間を仲介します。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、機器が理解できるように翻訳するのがドライバの役目です。

ドライバは、それぞれの機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどの機器には、ドライバがフロッピーディスクなどで添付されています。

インストール

ソフトウェアをパソコンのハードディスクにコピーして、使える状態にすることです。

オプション機器によっては設定作業が必要です

パソコンのオプション機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。

たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という作業が必要です。

ただし、メモリなどのように、設定作業がいらぬ機器もあります。

本書をよくご覧になり、取り付けてください。

オプション機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明しているオプション機器の取り付け方法は一例です。機器によっては、取り付けかたなどが異なる場合があります。本書とあわせてオプション機器のマニュアルも必ずご覧ください。

ケーブルは専用です

オプション機器を接続するケーブルは、プリンタには「プリンタケーブル」というように、オプション機器によって、専用のケーブルが用意されています。

また、パソコンの規格によっても、使えるケーブルの種類が決まっています。本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V用」などと表示されたものです。

形状が同じでつながるように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合もあります。よく確かめてご用意ください。

純正品をお使いください

オプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。純正品については、「価格表」でご確認ください。「価格表」は、FAXサービスをご利用になるか、販売店にお問い合わせください。

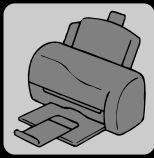
☞ 『富士通サポート ご案内』

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

取り付け / 取り外し時の注意

オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、次の点に注意してください。

- ・ 作業を行う前に、パソコン本体および取り付けられている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ PS/2規格のマウス以外のオプション機器の取り付けは、Windows 98のセットアップ終了後に行ってください。Windows 98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われぬおそれがあります。
- ・ 電源を切った直後は、パソコン内部の装置が熱くなっています。内蔵機器の取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。



2

オプション機器を活用しよう！

プリンタを接続する

プリンタを接続すると、パソコンで作った文書や画像などを、印刷することができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する ←P.89
- ・プリンタを接続する ←P.90

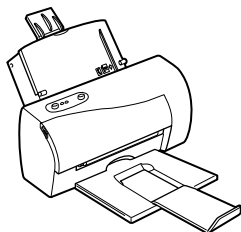
必要なものを用意する



感電 プリンタは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

プリンタによって、用意するものが異なります。プリンタのマニュアルもご覧ください。

プリンタ



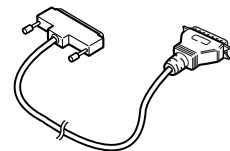
Windows98 で動作可能なプリンタを用意してください。

プリンタのドライバ



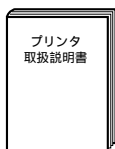
プリンタによっては、CD-ROMやフロッピーディスクで添付されています。フロッピーディスクが数種類あるときは、「Windows98 用」、「PC/AT 互換機用」、「DOS/V 用」などと表示されたものをお使いください。

プリンタケーブル



プリンタとパソコンを接続するケーブルです。添付されていない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」などと表示されているもので、パソコン側のコネクタをネジで固定する形のケーブルを用意してください。

プリンタのマニュアル



プリンタにより接続方法や設定方法が異なります。必ずプリンタのマニュアルもご覧ください。CD-ROMで見るマニュアルもあります。

プリンタを接続する

プリンタは、コネクタボックスに接続します。

アドバイス

プリンタにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合

PCカードに、フロッピーディスクやCD-ROMなどでドライバが添付されている場合は、ドライバのインストールが必要です。プリンタを接続する前に、FDDユニットやCD-ROMドライブユニットを接続してください。

「マルチベイヤダプタを取り付ける」(←P.28)

「ユニットを交換する」(←P.32)

「FDDユニットを取り付ける」(←P.35)



警告



感電 プリンタの接続や取り外しを行うときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。

感電、火災または故障の原因となります。



注意



故障 ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

重要

プリンタの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないうおそれがあります。

プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)

2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 ACアダプタを取り外します。
「ACアダプタを取り外す」(←P.66)

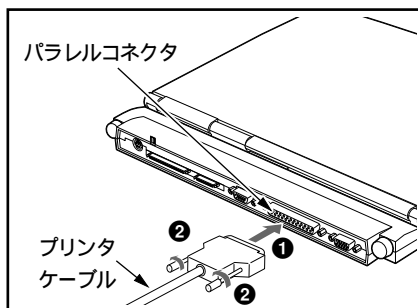
4 コネクタボックスを取り付けます。
「コネクタボックスを取り付ける」(←P.24)

5 コネクタボックスの平行コネクタに、プリンタケーブルを接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。

① コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。

② プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



 **アドバイス**

「Windows 98 の CD-ROM を挿入してください」というメッセージが表示されたとき

「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで「c:\windows\options\cabs」と入力して「OK」をクリックしてください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

プリンタを取り外すとき

- ・パソコンとプリンタの電源を切り、ケーブルを取り外してください。
- ・もう一度同じプリンタを取り付けるときは、ドライバのインストールを行う必要はありません。

印刷のしかたについて

印刷のしかたについては、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

ご購入時のCD-ROMドライブはEです

CD-ROM からプリンタのドライバをインストールする場合、CD-ROM ドライブ名を指定するときは、「e:¥」と入力してください。

6 プリンタに、プリンタケーブルを接続します。
接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。

7 プリンタに電源ケーブルを接続します。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

8 プリンタの電源ケーブルのプラグを、コンセントに差し込みます。

9 初めて接続したプリンタを使うには、ドライバのインストールという設定作業を行います。

プリンタのマニュアルをご覧になり、必ずドライバのインストールを行ってください。

ドライバのインストールでフロッピーディスクやCD-ROMを使うことがあります。

「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(←P.42)

「CD-ROM をセットする / 取り出す」(←P.46)

プリンタドライバをインストールするときの注意

プリンタのマニュアルに、「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されている場合、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは次のように操作してください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。

2 「プリンタ」ウィンドウで「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

3 画面の指示に従ってドライバをインストールします。



アドバイス

弊社製 FMLBP シリーズのプリンタを接続したとき

プリンタ側とパソコン側のモードが合っていないために、印刷が正常に行われないことがあります。その場合は以下の手順でモードを変更してください。

- 1 プリンタの操作パネルなどで、現在のプリンタのモードを調べます。
操作パネルについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 接続したプリンタのアイコンをクリックします。
- 4 「プリンタ」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 5 「現在のモード」をクリックします。
- 6 プリンタ側のモードと同じモードを選びます。
プリンタ側のモードがESC/P モードの場合は、「ESC/P モード」をクリックします。
プリンタ側のモードがFM モードの場合は、「FM モード」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

弊社製プリンタ「XJ-350 / XJ-550」をお使いのとき

・本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。
そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。

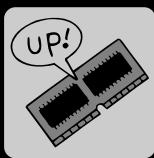
XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10 (1999年5月現在)

・プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。

- NIFTY SERVE 富士通FMシリーズ情報「FM INFO」
(GO FMINFO でアクセスできます)
- インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp>)

・最新版のドライバのインストールは、次の手順で行ってください。

- 1 プリンタの電源を切ります。
- 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 3 本パソコンを再起動します。
- 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。
- 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。
本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。
インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



3

メモリを増やす

用語

メモリ

記憶装置の総称です。ここでいうメモリは、CPUが処理するデータを一時的にためておく記憶装置です。

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになります。また、複数のアプリケーションを同時に起動するときにパソコンの処理が快適になります。本パソコンご購入時のメモリ容量は、64MBです。最大192MBまで増やすことができます。

ここでは以下のことを説明します。

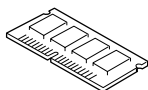
- ・必要なものを用意する ←P.93
- ・メモリを取り付ける / 取り外す ←P.93

必要なものを用意する



感電 メモリは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電・火災または故障の原因となります。

メモリ ラム
(拡張RAMモジュール)



FMVNM64SC、FMVNM32SC、FMVNM16SB、FMVNM12SCのメモリのうち、1枚取り付けられます。それぞれの数字はメモリの容量を示しています。

プラスのドライバー
(ドライバサイズ：1番)



本パソコンのネジを取り外すときに使います。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったものをお使いください。

メモリを取り付ける / 取り外す



感電 メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



誤飲 取り外したカバー、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



けが メモリの取り付けや取り外しをするときは、指定された場所以外のネジは取り外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また故障の原因となることがあります。



故障 メモリの取り付けや取り外しをするときは、端子やICなどには触れないよう、ふちを持ってください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

4

オプション機器を活用しよう！(メモリを増やす)

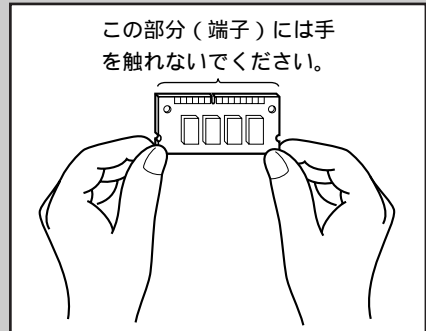
重要

メモリの取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に取り付けたら、セットアップが正常に行われな
いおそれがあります。

取り付け / 取り外し時の注意

- ・メモリは静電気に対して非常に弱い部品
でできています。そのため人間の体内に
たまった静電気によって壊れる場合があ
ります。メモリを取り扱う前に、一度金
属質のものに手を触れて静電気を放電し
てください。
- ・メモリを取り扱うときは、右図のよう
にふちを持ってください。また、メモリの取
り付けや取り外しをするときは、メモリ
の端子やパソコン本体内部の端子には絶
対に触れないでください。
- ・メモリの取り付けや取り外しをするときに外したネジは、パソコン本体内部には絶対
落とさないでください。



Save To Disk 機能で電源を切らないでください

メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ず「今日はおしまい。電源を切るには？」
の手順で電源を切ってください。Save To Disk 機能で電源を切ると、作業中のデータ
が失われるおそれがあります。

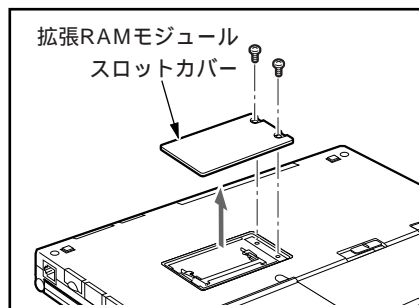
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)

「Save To Disk 機能を使う」(←P.78)

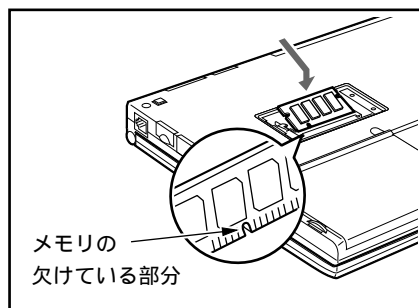
メモリを取り付ける

- 1** パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)
- 2** オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3** AC アダプタを取り外します。
「AC アダプタを取り外す」(←P.66)
- 4** 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

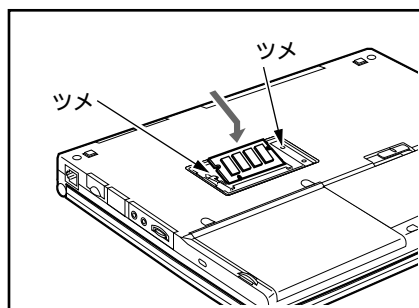
- 5** ネジ(2カ所)を取り外し、拡張RAM モジュールスロットカバーを取り外します。



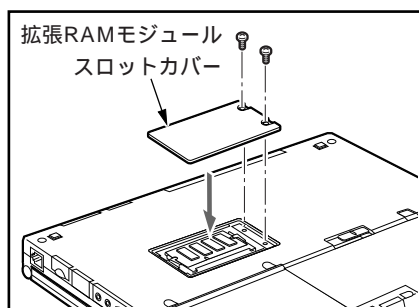
- 6** 取り付けるメモリを斜めに差し込みます。
メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込んでください。



- 7** メモリをはめ込みます。
メモリが、両側のツメにはさみこまれてパチンと音がするまで下に倒してください。



- 8** 手順5で取り外したネジで、拡張RAM モジュールスロットカバーを取り付けます。



取り付けたメモリがパソコンで使える状態になっているかどうかを確認してください。

「取り付けたメモリが使える状態か確認する」(←P.96)

重要

Windows98 が起動しないとき


メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、何も表示されないことがあります。その場合は、MAIN スイッチで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

「メモリを取り外す」(←P.97)

「メモリを取り付ける」(←P.94)

取り付けたメモリが使える状態か確認する

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかどうか確認してください。

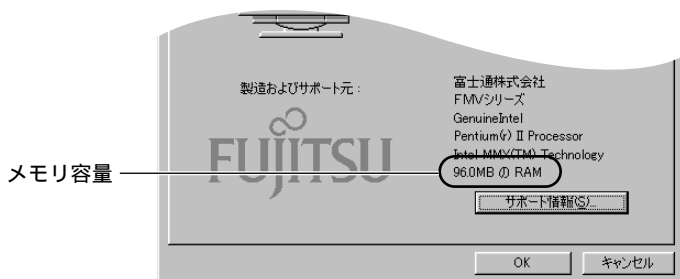
- 1** パソコン本体の電源を入れます。
「電源を入れてパソコンを使おう」(←P.62)
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3**  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4** で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかどうかを確認します。

アドバイス

数値が増えていないとき

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。

「メモリを取り付ける」(←P.94)



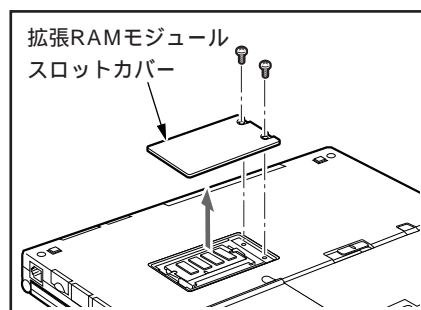
画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。
お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

- 5** 「OK」をクリックします。
「コントロール パネル」ウィンドウに戻ります。

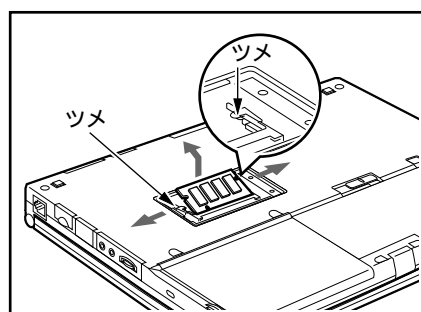
メモリを取り外す

増やしたメモリを大容量のメモリに交換するときは、メモリを取り外す必要があります。

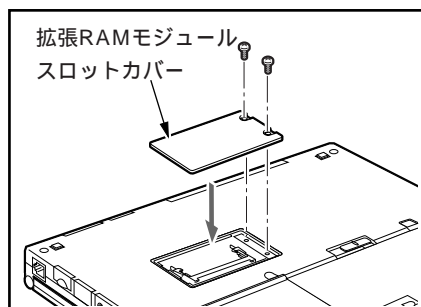
- 1** パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)
- 2** オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3** ACアダプタを取り外します。
「ACアダプタを取り外す」(←P.66)
- 4** 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 5** ネジ(2カ所)を取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。



- 6** メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、メモリを取り外します。



- 7** 手順5で取り外したネジで、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り付けます。





4

マウス/テンキーボードを接続する

アドバイス

マウスの練習

『わかるがるパソコン入門』で、実際の画面を使って、マウスの練習ができます。

その他のキーボードも接続できます

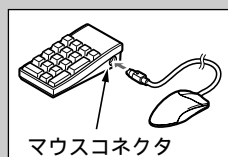
パソコン本体背面またはコネクタボックスの拡張キーボード/マウスコネクタは、101キーボード、OADGキーボード、JISキーボード、親指シフトキーボードも接続できます。ただし、親指シフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムのOAK V5.0以降が必要です。

テンキーボードの傾きを調節できます

テンキーボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。

マウスとテンキーボードを両方使うには

マウスとテンキーボードの両方を同時に接続して使うときは、拡張キーボード/マウスコネクタにテンキーボードを接続し、マウスはテンキーボードのマウスコネクタに接続してください。



マウスコネクタ

テンキーボードで数字を入力できるとき

状態表示LCDにが表示されているときにテンキーボードで数字を入力できます(パソコン本体のテンキーは無効になります)。

状態表示LCDにが表示されていないときは、 (Num Lk) を押すか、テンキーボードの (Lock) を押してください。状態表示LCDにが表示され、テンキーボードで数字を入力できるようになります。

マウスやテンキーボードは、パソコン本体背面またはコネクタボックスに接続できません。

マウスを接続すると、より快適にマウスポインタの操作をすることができます。

テンキーボードを接続して使うと、数字を効率よく入力できます。

ここではPS/2規格のマウスやテンキーボードの接続方法を説明します。



警告



感電

マウス、テンキーボードは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。



重要

接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。

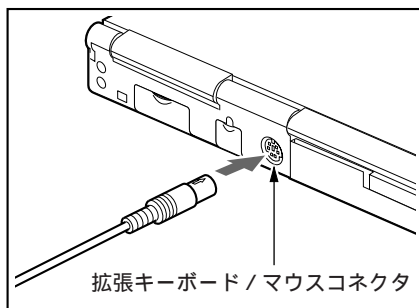
ただし、PS/2規格のマウスは、セットアップ前に接続することができます。

マウスの接続についての注意

PS/2規格のマウスを接続すると、自動的にフラットポイントは使えなくなります。

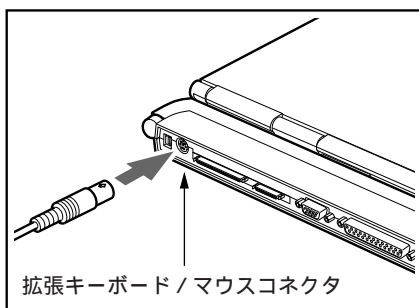
- 1 パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)
- 2 マウスまたはテンキーボードを、パソコン本体背面またはコネクタボックスの拡張キーボード/マウスコネクタに接続します。
マウスまたはテンキーボードのコネクタに示されている矢印を上向きにし、奥までしっかり差し込んでください。

パソコン本体に接続する場合

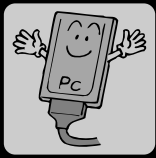


拡張キーボード/マウスコネクタ

コネクタボックスに接続する場合



拡張キーボード/マウスコネクタ



5

PC カードをセットする

PC カードをセットすると、パソコンにさまざまな機能を追加できます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・気をつけてください～ PC カードを使うとき ⇨P.100
- ・必要なものを用意する ⇨P.100
- ・PC カードをセットする ⇨P.101
- ・PC カードを取り出す ⇨P.103



PC カードの種類

コラム

代表的な PC カードには、以下のようなものがあります。

スカジー

SCSI カード

SCSI規格対応のハードディスクやMO(光磁気ディスク)ドライブなどの機器を接続するときに必要な PC カードです。

ラン

LAN カード

複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要な PC カードです。

ピーエイチエス

デジタル携帯電話接続カード、PHS接続カード

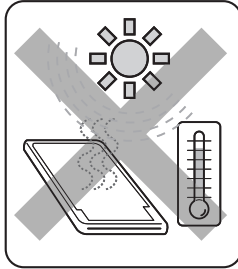
デジタル携帯電話やPHSを使って、インターネットやパソコン通信をするときに必要な PC カードです。

4

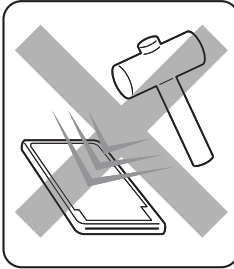
オプション機器を活用しよう！(PCカードをセットする)

気をつけてください～ PC カードを使うとき

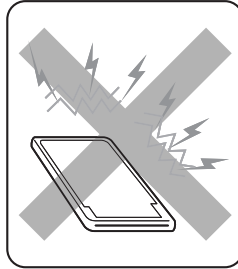
故障をふせぐため、PC カードを取り扱うときは、次の点に注意してください。



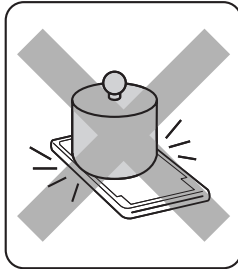
温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



強い衝撃を与えないでください。



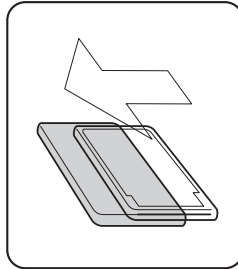
カードをこすったりして静電気を起こさないでください。



重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

必要なものを用意する

用語

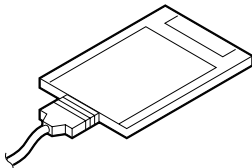
ピーシーエムシーアイエー ジェイダ
PCMCIA と JEIDA

PCMCIA は、米国の PC カード標準化を推進する団体 Personal Computer Memory Card International Association の略称です。JEIDA は、日本電子工業振興会 (Japan Electronic Industry Development Association) の略称です。PCMCIA と JEIDA は共同で PC カードの規格を制定しています。一般的には、これらの団体が制定した規格のことを「PCMCIA」、「JEIDA」といいます。



感電 PCカードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

PCカード



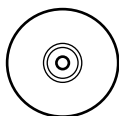
PCMCIA と JEIDA の規格に対応した TYPE 1 と TYPE 2 の PC カードが使えます。(TYPE 1 は 3.3mm、TYPE 2 は 5mm です。)

PCカードのドライバ

フロッピーディスク

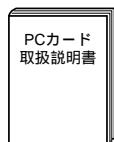


CD-ROM



PCカードによっては、CD-ROMやフロッピーディスクで添付されています。

PCカードのマニュアル



PCカードにより設定方法が異なります。必ずPCカードのマニュアルもご覧ください。

PCカードをセットする



注意



けが

PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。



重要

PCカードのセットは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前にセットすると、セットアップが正常に行われな
いおそれがあります。

PCカードをセットするときの注意

PCカードによっては、セットするときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあり
ます。PCカードのマニュアルをご覧ください。

初めてセットするPCカードの場合

PCカードに、フロッピーディスクやCD-ROMなどでドライバが添付されている場合は、
ドライバのインストールが必要です。PCカードをセットする前に、FDDユニットやCD-
ROMドライブユニットを接続してください。

「マルチベイヤダブタを取り付ける」(←P.28)

「ユニットを交換する」(←P.32)

「FDDユニットを取り付ける」(←P.35)

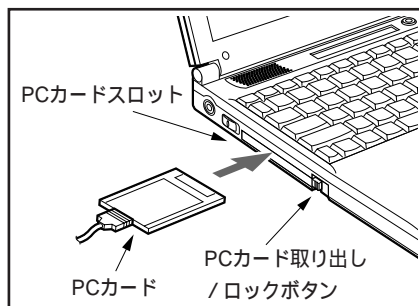
1 PCカードスロットから、ダミーカードを取り出します。

「PCカードを取り出す」の手順4、5(←P.103)

取り出したダミーカードは、なくさないように保管してください。

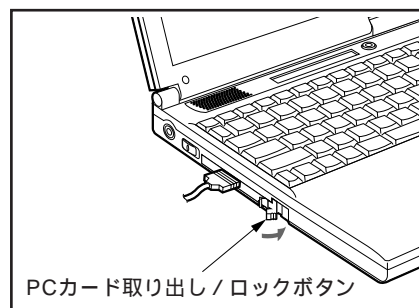
2 PCカードをPCカードスロットにセットします。

製品名のある面を上にして、PCカードスロットへ差し込みます。しっかり奥まで差し込んでください。PCカード取り出し/ロックボタンが飛び出します。



3 PCカード取り出し/ロックボタンを手前に倒してロックします。

PCカード取り出し/ロックボタンを倒すと金具がとび出し、ロックされます。



重要

PCカードのコネクタ部分についての注意

PCカードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけないでください。破損の原因となります。

初めてセットするPCカードの場合は、ドライバのインストールという設定作業を行います。PCカードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。





PCカードによっては、上記の画面は表示されず、自動的にドライバがインストールされることがあります。

PCカードを取り出す


 重要


PCカード取り出し時の注意

- 必ず手順どおりにPCカードを取り出してください。手順どおりに行わないと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。
- タスクバーの (PCカード)をダブルクリックしたり、コントロールパネルで (PCカード)をクリックして表示される「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」ウィンドウで、「停止」をクリックして取り出さないでください。システムが不安定になる場合があります。
- PCカードによっては、取り出すときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルをご覧ください。



注意

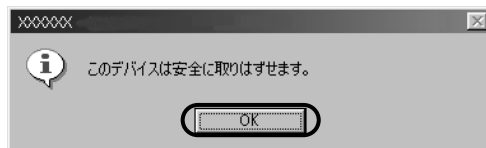
 高温 使用した直後のPCカードは、高温になっているときがあります。PCカードを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

 けが PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れしないでください。けがの原因となることがあります。

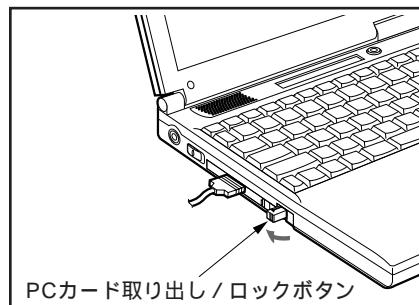
1 画面右下にあるタスクバーの (PCカード)をクリックします。

2 「XXXXXX の中止」をクリックします。
XXXXXX には、お使いのPCカードの名称が入ります。

3 「OK」をクリックします。



4 PCカード取り出し/ロックボタンを起こしてロックを外します。

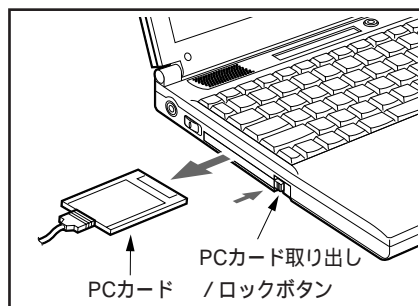
 アドバイス

「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されたとき

「OK」をクリックして、パソコン本体の電源を切ってから手順4へ進んでください。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(P.63)

- 5** PCカードを取り出します。
PCカード取り出しボタンを押し、
飛び出したPCカードを引き抜きます。



重要

コードやケーブルを引っ張らないでください

コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードを取り出すときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。

- 6** PCカードスロットに、ダミーカードをセットします。
「PCカードをセットする」の手順2、3 (←P.102)



6

ピーエイチエス

携帯電話やPHSを接続する

携帯電話やPHSを接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

携帯電話は、パソコン本体右側面のPDCコネクタに接続します。PHSや、PDCコネクタに対応していない携帯電話は、接続用のPCカードを利用して接続してください。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・PDCコネクタに接続する ←P.105
- ・PCカードを使って接続する ←P.107
- ・PDCコネクタに携帯電話を接続して通信する ←P.109

PDC コネクタに接続する

携帯電話をPDCコネクタに接続して通信することができます。

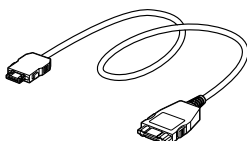
必要なものを用意する

携帯電話



お使いになれる機種については、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp>)でご案内します。

携帯電話接続ケーブル
(添付)



4

オプション機器を活用しよう！(携帯電話やPHSを接続する)

携帯電話を接続する

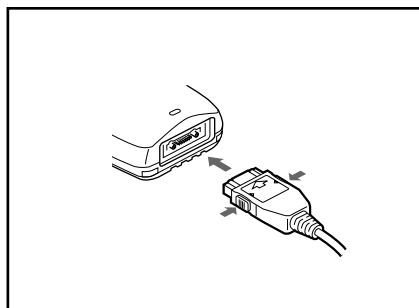


故障 ケーブルは本書をよくお読みになり、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび携帯電話が故障する原因となることがあります。

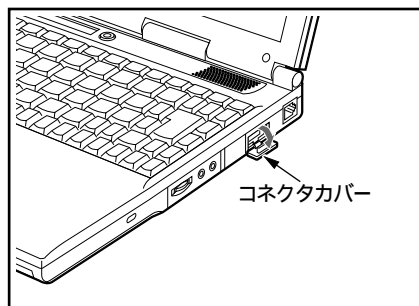
- 1** パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.63)

- 2** 携帯電話接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話に接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。

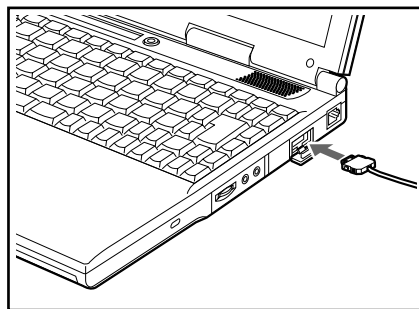


- 3** パソコン本体右側面のコネクタカバーを開きます。



- 4** 携帯電話接続ケーブルのもう一方のコネクタを、本パソコン右側面のPDCコネクタに接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



このあと、接続した携帯電話で通信するための設定を行ってください。
「PDCコネクタに携帯電話を接続して通信する」(←P.109)

重要**携帯電話を取り外すとき**

携帯電話接続ケーブルを取り外すときは、コネクタの両側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。

PDC コネクタ経由で通信するときの注意

- ・ 本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- ・ 通信中には、サスペンド機能や Save To Disk 機能は使えません。
- ・ 移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- ・ PDC コネクタに接続した携帯電話どうしでの対向接続はできません。
- ・ AT コマンドは、電話回線で通信するためのドライバ (Fujitsu LB RWModem V.90 56K J) と仕様が異なります。
- ・ 「携帯電話接続ケーブル」は、Windows NT 4.0 では使用できません。

PC カードを使って接続する**必要なものを用意する**

PCカードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

用語

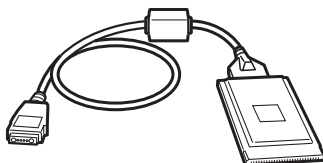
ピアフ
PIAFS

PHS Internet Access Forum Standard の略で、PHS によるデジタルデータ通信の標準規格です。PHS のデジタル通信回線 (32kbps) を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末も PIAFS に対応している必要があります。

アドバイス

PIAFS に対応していない PHS を接続するとき

接続カードの代わりに、「モデムカード-2400」と「無線電話接続ケーブル」をお使いください。

**デジタル携帯電話
またはPIAFS対応のPHS****接続カード**

本パソコンとデジタル携帯電話または PHS を接続するための PC カードです。

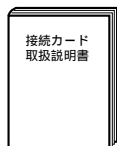
デジタル携帯電話の接続には「デジタル携帯電話接続カード」を、PIAFS 対応の PHS の接続には「PHS 接続カード」をお使いください。

接続カードのドライバ
フロッピーディスク
CD-ROM



接続カードによっては、フロッピーディスクやCD-ROMで添付されています。

接続カードのマニュアル



接続カードによって設定方法が異なります。必ず接続カードのマニュアルもご覧ください。

携帯電話や PHS を接続する



注意



けが PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れしないでください。けがの原因となることがあります。

重要

携帯電話やPHSの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われな
おそれがあります。

初めて接続するとき

接続カードに、フロッピーディスクやCD-ROMなどでドライバが添付されている場合は、
ドライバのインストールが必要です。接続カードをセットする前に、FDDユニットやCD-
ROMドライブユニットを接続してください。

「マルチベイヤダブタを取り付ける」(←P.28)

「ユニットを交換する」(←P.32)

「FDDユニットを取り付ける」(←P.35)

1 接続カードに添付のケーブルで、携帯電話やPHSを接続カードに接続します。

携帯電話や PHS、接続カードのマニュアルも、あわせてご覧ください。

2 接続カードを本パソコンの PC カードスロットにセットします。

「PCカードをセットする」(←P.99)

接続した携帯電話や PHS で通信を行うには、接続カードや通信ソフトウェアの再設定が必要です。設定方法については、接続カードのマニュアルをご覧ください。


PDC コネクタに携帯電話を接続して通信する

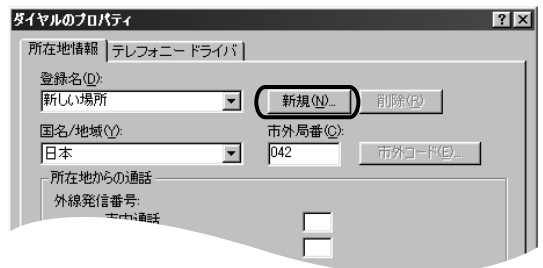
PDC コネクタに携帯電話を接続して通信するには、次のような手順で行います。

1. 携帯電話用の所在地情報を作る (←P.109)
2. 外出先用のダイヤルアップ接続を作る (←P.110)
3. 外出先で通信する (←P.112)

携帯電話用の所在地情報を作る

通信するときは、パソコンを使う地域の市外局番を登録しておきます。携帯電話で通信するときは、携帯電話用の所在地情報を登録する必要があります。ここでは、登録方法を説明します。

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2**  (テレフォニー) をクリックします。
- 3** 「新規」をクリックします。



「新しい場所が作成されました。」というメッセージが表示されます。

- 4** 「OK」をクリックします。

4

オプション機器を活用しよう！(携帯電話やPHSを接続する)

5 携帯電話用の所在地情報を設定します。

「携帯用」など、携帯電話用であることがわかるような名前を入力します。

「000」など、普段使わない番号を入力します。

どちらも入力されていない状態になります。



6 「OK」をクリックします。

7 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある **×** (閉じるボタン) をクリックします。

これで、携帯電話で通信するときを使う所在地情報が作成されました。

外出先用のダイヤルアップ接続を作る

通信をするときには、現在の場所からアクセスポイントまでの電話料金がかかります。外出先で通信をするときには、できるだけ外出先に近いアクセスポイントを指定したダイヤルアップ接続を作っておくことで、電話料金を節約できます。ここでは、InfoWebに加入していることを前提に説明しています。

アドバイス

他のプロバイダをご利用の場合

インターネット接続ウィザードでダイヤルアップ接続を作成してください。




☞ 『使いこなす本 インターネット編』

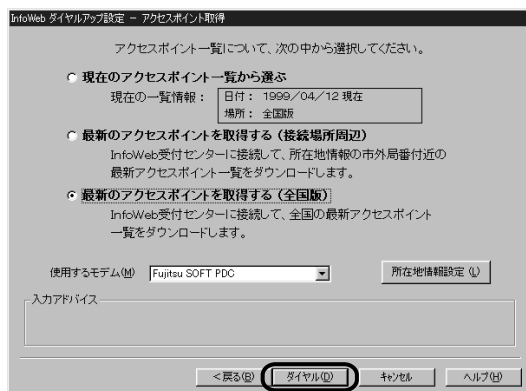
その後、次の手順に従って、使用するモデムを「Fujitsu SOFT PDC」に変更します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「通信」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。
- 2 外出先用に作成したダイヤルアップ接続にマウスポインタを合わせ、右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 3 「全般」タブの「接続の方法」を「Fujitsu SOFT PDC」に変更し、「OK」をクリックします。

1 PDC コネクタに携帯電話を接続します。

「PDC コネクタに接続する」(☞P.105)

- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」の「はじめよう！インターネット (InfoWeb)」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップ設定」をクリックします。
- 3 「InfoWebのアクセスポイントを変更する」の左がになっているのを確認し、「次へ」をクリックします。
- 4 「コネクションID」を確認し、「次へ」をクリックします。
- 5 「最新のアクセスポイントを取得する (全国版)」の左をクリックしにします。
- 6 「使用するモデム」の右のをクリックし、「Fujitsu SOFT PDC」をクリックします。
- 7 「ダイヤル」をクリックします。



InfoWeb加入受付センターに電話がかかり、全国のアクセスポイントの一覧がダウンロードされます。

8 「接続名」を入力して、接続したいアクセスポイントをクリックし、「設定」をクリックします。

アクセスポイントの場所がわかるような名前にします。

外出先に一番近いアクセスポイントをクリックします。

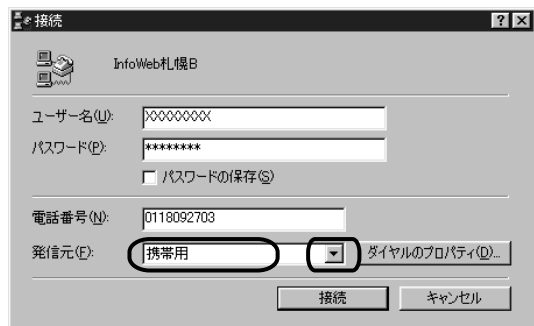


9 「OK」をクリックします。

これで、携帯電話を使って通信するためのダイヤルアップ接続が作成されました。

外出先で通信する

- 1 PDC コネクタに携帯電話を接続します。
「PDC コネクタに接続する」(←P.105)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」, 「アクセサリ」, 「通信」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。
- 3 外出先用に作成した「ダイヤルアップ接続」をクリックします。
- 4 「パスワード」の右の欄にパスワードを入力します。
- 5 「発信元」の右の▼をクリックし、携帯電話用に作成した所在地をクリックします。

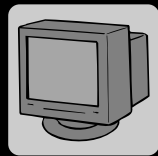


6 「接続」をクリックします。

7 お使いになる通信用のアプリケーションを起動します。

4

オプション機器を活用しよう！(携帯電話やPHSを接続する)



7

シーアールティー
CRT ディスプレイを接続する **アドバイス**

より鮮明な画質で表示したいときは

CRTディスプレイを、パソコン本体のCRTコネクタに接続してお使いください。

ここでは以下のことを説明します。

- 必要なものを用意する ←P.114
- CRTディスプレイを接続する ←P.115
- ディスプレイの表示を切り替える ←P.117
表示するディスプレイを切り替える方法を説明しています。
- CRTディスプレイの解像度と発色数について ←P.122
- リフレッシュレートを変更する ←P.123

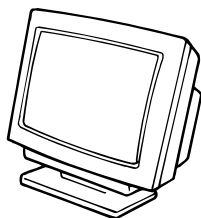
CRTディスプレイの画面のちらつきを抑える方法を説明しています。必要に応じてお読みください。

 **重要****デュアルディスプレイはサポートしていません**

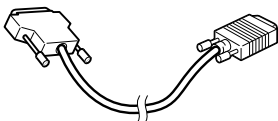
本パソコンではデュアルディスプレイをサポートしていません。デュアルディスプレイに設定できる場合がありますが、設定しないでください。

必要なものを用意する**警告****感電**

CRTディスプレイは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

CRTディスプレイ

「PC/AT互換機」または「DOS/Vパソコン」対応のディスプレイを用意してください。

ディスプレイケーブル

CRTディスプレイを接続するためのケーブルです。CRTディスプレイの背面につながっていたり添付されています。添付されていない場合や、コネクタの形状が異なって接続できない場合は、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」と表示されたもので、CRTディスプレイのコネクタの形状にあったものを用意してください。

CRTディスプレイの マニュアル



CRTディスプレイにより接続方法が異なります。必ずCRTディスプレイのマニュアルもご覧ください。

CRTディスプレイを接続する

CRTディスプレイは、パソコン本体背面またはコネクタボックスに接続できます。



警告



感電 CRTディスプレイを接続するときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



注意



故障 ケーブル類は、間違えないように接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびCRTディスプレイが故障する原因となることがあります。



重要

CRTディスプレイの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

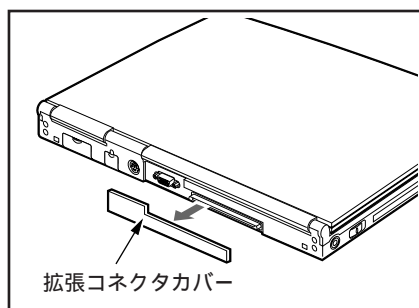
Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われな
おそれがあります。

CRTディスプレイのマニュアルもご覧ください

接続方法は、CRTディスプレイによって異なります。CRTディスプレイのマニュアルもあわせてご覧ください。

- 1** パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには?」(←P.63)
- 2** オプション機器の電源を切り、取り外します。
- 3** ACアダプタを取り外します。
「ACアダプタを取り外す」(←P.66)

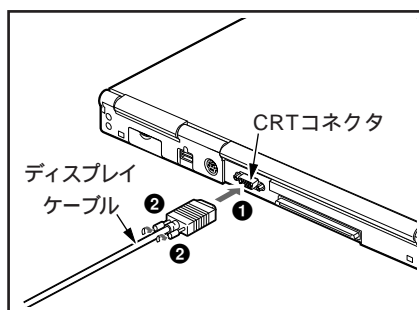
- 4** パソコン本体に接続するときには、パソコン本体背面の拡張コネクタカバーを取り外します。拡張コネクタカバーは、なくさないように保管してください。



- 5** パソコン本体背面またはコネクタボックスのCRTコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

パソコン本体に接続する場合
コネクタは正面から見ると台形になっています。

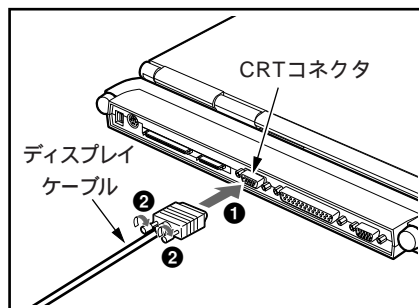
- ① コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。
- ② ディスプレイケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



コネクタボックスに接続する場合

コネクタは正面から見ると台形になっています。

- ① コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。
- ② ディスプレイケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



- 6** CRT ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。
CRTディスプレイ背面にディスプレイケーブルがつながっている場合もあります。接続方法は、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

- 7** CRT ディスプレイに電源ケーブルを接続します。
CRTディスプレイに電源ケーブルがつながっている場合もあります。CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

- 8** CRT ディスプレイの電源ケーブルを、コンセントに接続します。

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(←P.117)



ディスプレイの表示を切り替える

ここでは、接続したCRTディスプレイとパソコン本体の液晶ディスプレイで、表示を切り替える方法を説明します。

表示を切り替えるには、キーボードから切り替える方法と、画面のプロパティから切り替える方法の2つがあります。どちらの方法で切り替えてもかまいません。ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイで表示する
- ・接続したCRTディスプレイで表示する
- ・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続したCRTディスプレイで同時に表示する

キーボードで切り替える

- 1 ACアダプタを取り付けます。**
「ACアダプタを取り付ける」(←P.65)
- 2 CRTディスプレイの電源を入れます。**
CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 3 パソコン本体の電源を入れます。**
「電源を入れてパソコンを使おう」(←P.62)
- 4  を押しながら  を押します。**
表示が切り替わります。
2つのキーを押すごとに、「CRTディスプレイ表示 液晶ディスプレイと CRTディスプレイの同時表示 液晶ディスプレイ表示 CRTディスプレイ表示…」の順でディスプレイ表示が切り替わります。

画面のプロパティで切り替える

- 1 ACアダプタを取り付けます。**
「ACアダプタを取り付ける」(←P.65)
- 2 CRTディスプレイの電源を入れます。**
CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

アドバイス

WindowsNT4.0を使用しているとき

キーボードでは切り替えられません。
「画面のプロパティで切り替える」(←P.117)

アドバイス


「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されたとき

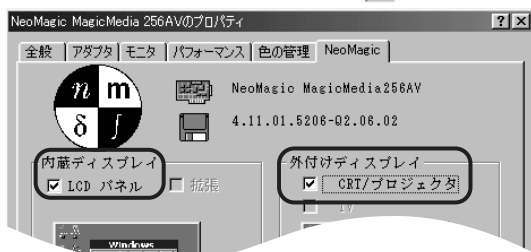
画面の指示に従ってCRTディスプレイのドライバをインストールしてください。

アドバイス

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されたとき

CRT ディスプレイのドライバをインストールしてください。

- 3 パソコン本体の電源を入れます。
「電源を入れてパソコンを使おう」(P.62)
- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 5  (画面) をクリックします。
- 6 「設定」タブをクリックします。
- 7 「詳細」をクリックします。
- 8 「NeoMagic」タブをクリックします。
- 9 表示モードで表示するディスプレイを選びます。
 - ・ CRT ディスプレイで表示するときは「CRT / プロジェクタ」をクリックして にします。
 - ・ 液晶ディスプレイで表示するときは「LCD パネル」をクリックして にします。
 - ・ CRT ディスプレイと液晶ディスプレイで同時に表示するときは「CRT / プロジェクタ」と「LCD パネル」の両方をクリックして にします。



「NeoMagic タブについて」(P.120)

- 10 「NeoMagic MagicMedia 256AV のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。
- 11 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

💡 アドバイス

再起動後もCRTディスプレイに表示したいとき

「画面のプロパティ」ウィンドウでディスプレイ表示を切り替えても、Windows98を再起動すると、液晶ディスプレイに表示されることがあります。再起動後もCRTディスプレイに表示したいときには、キー操作で表示を切り替える(☞P.117)か、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「画面設定」の「ディスプレイ」(☞P.142)で「CRTディスプレイ」または「同時表示」を選択してください。

👉 重要

CRTディスプレイ表示に切り替えたとき

CRTディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、何も表示されなかったり、正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行ってください。

・何も表示されないとき

何も操作しないでお待ちください。10秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、**[Fn]**を押しながら**[F10]**を押して、表示先を切り替えてください。

・正常に表示されないとき

CRTディスプレイのマニュアルでCRTディスプレイが対応している走査周波数を確認し、リフレッシュレートを変更してください。

「リフレッシュレートを変更する」(☞P.123)

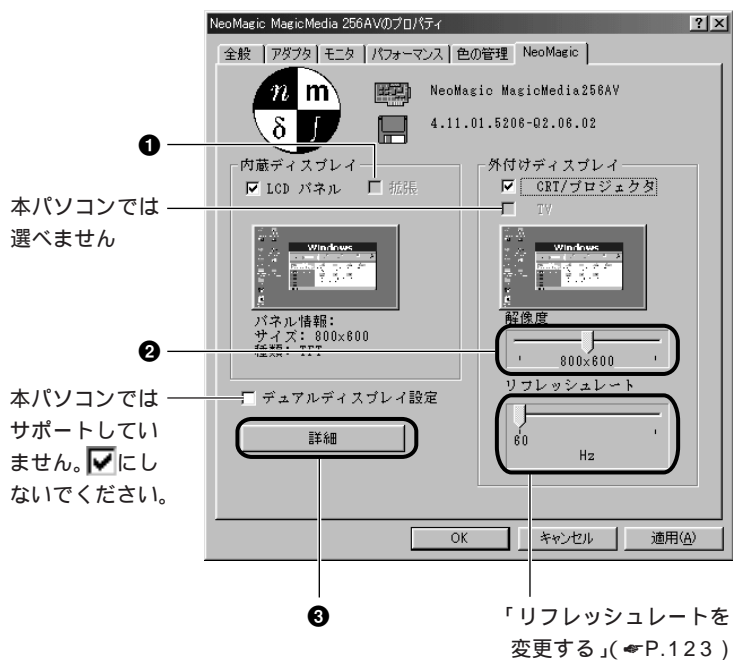
別のCRTディスプレイに変更するとき

変更前と変更後の両方のCRTディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、本パソコンの電源を切ったあと、別のCRTディスプレイを接続してください。CRTディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、CRTディスプレイを変更した際に、画面が表示できなくなる場合があります。

CRTディスプレイを接続していなかったとき

間違えて表示モードを切り替えてしまったときは、**[Fn]**を押しながら**[F10]**を押して、表示先を切り替えてください。

NeoMagic タブについて



① 拡張チェックボックス

解像度が640×480ドットの場合に、液晶ディスプレイの画面全体を使って表示するときにクリックしてにします。

② 解像度スライダー

CRT ディスプレイや液晶プロジェクタの解像度を設定します。「詳細」をクリックして表示される「Advanced Settings」ウィンドウで、「独立ディスプレイ・タイミング」をにした場合に使用できます。

③ 詳細ボタン

クリックすると、「Advanced Settings」ウィンドウが表示されます。ここでは次の設定ができます。



アドバイス

色数が、True Colorの場合はプロジェクトに設定できません。

液晶ディスプレイと液晶プロジェクトを同時に表示するとき

・「独立ディスプレイ・タイミング」はTrue Colorのときおよび1280 × 1024ドットのときは設定できません。

・本パソコンでは640 × 480、800 × 600、1024 × 768ドットの3種類の液晶プロジェクトが使用できます。

プロジェクトの設定

色数が、True Colorの場合は設定できません。

外付けディスプレイ・デバイス

CRT コネクタに接続した機器を指定します。

モニタ設定

「独立ディスプレイ・タイミング」は「外付けディスプレイ・デバイス」で「CRT」を指定した場合に設定できます。

・ にした場合

液晶ディスプレイとCRTディスプレイを同時に表示しているときに、CRTディスプレイのみの解像度とリフレッシュレートを変更することができます。

・ にした場合

液晶ディスプレイとCRTディスプレイを同時に表示すると、CRTディスプレイの解像度は、800 × 600 ドット、リフレッシュレートは60Hzになります。

「CRTディスプレイの走査周波数」(←P.169)

プロジェクトの設定

「外付けディスプレイ・デバイス」で「プロジェクト」を選択した場合、そのプロジェクトに合った解像度に変更します。「プロジェクトの設定」の「種類」の右下の をクリックして表示される一覧から、接続しているプロジェクトを選んでください。

4

オプション機器を活用しよう！(CRTディスプレイを接続する)

CRT ディスプレイの解像度と発色数について

ディスプレイの解像度と発色数は次の表のとおりです。

解像度	発色数	
	液晶ディスプレイと CRTディスプレイで同時表示	CRTディスプレイで表示
640 × 480 ドット	256色 1	256色
	High Color (16ビット) 1	High Color (16ビット)
	True Color (24ビット) 1 2	True Color (24ビット)
800 × 600 ドット	256色	256色
	High Color (16ビット)	High Color (16ビット)
	True Color (24ビット) 2	True Color (24ビット)
1024 × 768 ドット	256色 3	256色
	High Color (16ビット) 3 4	High Color (16ビット)
	True Color (24ビット) 2 3 4	True Color (24ビット)
1280 × 1024 ドット	256色 3 5	256色

1 640 × 480 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。

2 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、1600万色で表示されます。

3 液晶ディスプレイおよびCRTディスプレイでは、仮想スクリーンモードでの表示となります。

仮想スクリーンモードでは、1024 × 768 ドットおよび1280 × 1024 ドットの領域のうち800 × 600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

なお、「Advanced Settings」ウィンドウで、「独立ディスプレイ・タイミング」をクリックしてにした場合は、液晶ディスプレイのみ仮想スクリーンモードとなり、CRTディスプレイでは全画面で表示されます。

「NeoMagic タブについて」(☞P.120)

4 モニタを SuperVGA 1024 × 768 以上にする必要があります。

「液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える」(☞P.54)

5 モニタを SuperVGA 1280 × 1024 以上にする必要があります。

「液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える」(☞P.54)

重要

CRT ディスプレイで表示できる解像度について


表示できる解像度はお使いのCRTディスプレイによって異なります。CRTディスプレイのマニュアルでご確認ください。

同時表示をする場合のご注意

液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示では、CRTディスプレイは液晶ディスプレイの表示と同一になりますが、CRTディスプレイによっては正しく表示されないことがあります。CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

アドバイス

発色数を True Color (24ビット) に設定するとき

発色数を True Color に変更するときは、「Advanced Settings」ウィンドウの「外付けディスプレイデバイス」の「CRT」をクリックして、にしてから変更してください。

「NeoMagic タブについて」(☞P.120)

High Color、True Color とは

High Color (16ビット) は 6万5千色、True Color (24ビット) は 1677万色です。

アドバイス

解像度、発色数の設定により画面の調整が必要になることがあります

変更した解像度、発色数の設定によっては、画面の表示される位置、幅、高さの調節が必要になる場合があります。調節のしかたについては、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

用語**リフレッシュレート**

1秒間に画面を書き替える回数を周波数(単位はHz)で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります。

アドバイス

CRTディスプレイにより対応しているリフレッシュレートは異なります

CRTディスプレイのマニュアルでご確認ください。

CRTディスプレイの解像度と発色数を変更する

CRTディスプレイの解像度を変更することができます。

変更する手順については、「液晶ディスプレイの解像度と発色数を変える」(←P.54)の操作と同じですが、以下の点にご注意ください。

- ・手順1の前にCRTディスプレイ表示に切り替えます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(←P.117)
- ・手順11「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください」というウィンドウでは、お使いのCRTディスプレイに合ったモデルを選んでください。CRTディスプレイのマニュアルもご覧ください。合うモデルがないときは、手順11の設定に従ってください。

液晶ディスプレイとCRTディスプレイを同時に表示している場合は、CRTディスプレイのみの解像度を変更できます。

「NeoMagicタブについて」(←P.120)

リフレッシュレートを変更する


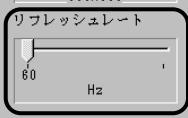
CRTディスプレイに合ったリフレッシュレートに変更すると、画面のちらつきを抑えることができます。

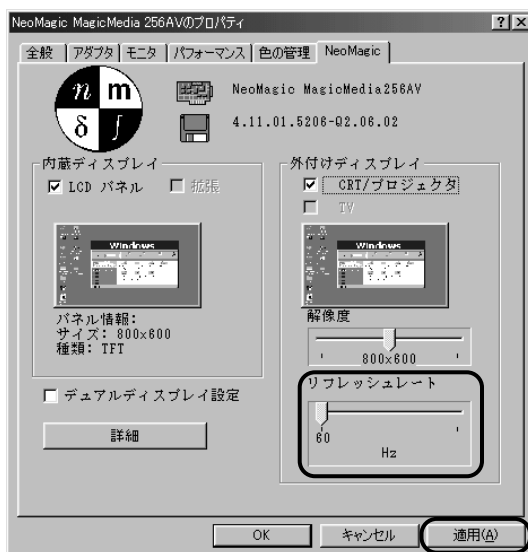
重要**リフレッシュレートについて**

リフレッシュレートは、CRTディスプレイ表示のときに変更できます。液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示のときは、「Advanced Settings」ウィンドウの独立ディスプレイタイミングをクリックしてにすると、CRTディスプレイのリフレッシュレートを変更できます。ただし、解像度によっては変更できない場合もあります。

「NeoMagicタブについて」(←P.120)

- 1 ACアダプタを取り付けます。**
「ACアダプタを取り付ける」(←P.65)
- 2 CRTディスプレイの電源を入れます。**
CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 3 パソコン本体の電源を入れます。**
「電源を入れてパソコンを使おう」(←P.62)
- 4 CRTディスプレイ表示に切り替えます。**
「ディスプレイの表示を切り替える」(←P.117)

- 5 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 6  (画面) をクリックします。
- 7 「設定」タブをクリックします。
- 8 「詳細」をクリックします。
- 9 「NeoMagic」タブをクリックします。
- 10 「リフレッシュレート」の  をドラッグして、リフレッシュレートを変更し、「適用」をクリックします。



リフレッシュレートが変更されます。

- 11 「NeoMagic MagicMedia 256AV のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。



8

オプション機器を活用しよう！

ディーバイディーロム 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける

用語

DVD (Digital Versatile Disc) は、映像や音声を記録したコンパクトディスクの総称です。レーザー光を利用して、CD-ROMと同じサイズのディスクに、大容量（片面一層 4.7GB）のデータを記録することができます。

内蔵 DVD-ROM ドライブユニットでは、DVD-ROM や CD-ROM などの映像や音声を再生できます。内蔵 DVD-ROM ドライブユニットは、マルチベイアダプタに取り付けて使います。

ここでは以下のことを説明します。

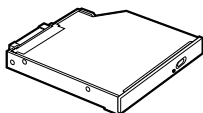
- ・必要なものを用意する ←P.125
- ・内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける ←P.126

必要なものを用意する



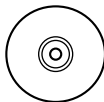
警告 感電
内蔵 DVD-ROM ドライブユニットは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

内蔵 DVD-ROM
ドライブユニット



内蔵 DVD-ROM ドライブユニット (FMV-NDVD2) はマルチベイアダプタに取り付けて使います。

DVD-ROM
再生用アプリケーション



内蔵 DVD-ROM ドライブユニットに CD-ROM で添付されています。

内蔵 DVD-ROM ドライブ
ユニットの取扱説明書



必ず内蔵 DVD-ROM ドライブユニットの取扱説明書もご覧ください。

4

オプション機器を活用しよう！（内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける）

内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを取り付ける

重要

取り付けは、Windows98 のセットアップ終了後に行ってください

Windows98 のセットアップを行う前に取り付けたら、セットアップが正常に行われな
いおそれがあります。

内蔵 DVD-ROM ドライブユニット取り扱い上の注意

- ・ 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットをお使いになる前に、取り扱い上の注意をご覧ください。
「気をつけてください～マルチベイヤダブタを使うとき」(←P.27)
- ・ 内蔵 DVD-ROM ドライブユニットは、Windows98 以外の OS ではお使いになれませ
ん。

アドバイス

内蔵 DVD-ROM ドラ
イブユニットを取り
外すとき

「ユニットを交換する」
(←P.32)

もう一度取り付けるとき
は、DVD-ROM再生用アプ
リケーションを、インス
トールする必要はありませ
ん。

1 内蔵DVD-ROMドライブユニットをマルチベイヤダブタに取り付け ます。

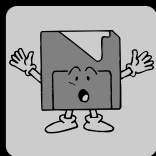
「ユニットを交換する」(←P.32)

初めて取り付けるときは、アプリケーションのインストールを行います。

☞ 『内蔵 DVD-ROM ドライブユニット (FMV-NDVD2) 取扱説明書』

マルチベイヤダブタの音楽CD再生ボタン(←P.20)は、音楽CDでのみお使いに
なれます。

ただし、WindowsNT4.0 では使えません。



9

オプション機器を活用しよう！

内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける

内蔵スーパーディスクドライブユニットでは、フロッピーディスクと、より多くのデータ(120MB)を保存できるスーパーディスクを使えます。内蔵スーパーディスクドライブユニットはマルチベイアダプタに取り付けて使います。

ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する ←P.127
- ・内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける ←P.127

必要なものを用意する



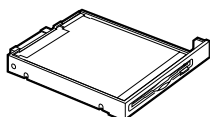
警告



感電

内蔵スーパーディスクドライブユニットは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

内蔵スーパーディスク
ドライブユニット



内蔵スーパーディスクドライブ
ユニット(FMV-NSD12)はマルチ
ベイアダプタに取り付けて使いま
す。

内蔵スーパーディスク
ドライブユニット
の取扱説明書



必ず内蔵スーパーディスクドライブ
ユニットの取扱説明書もご覧くだ
さい。

内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける



重要

取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われな
いおそれがあります。

内蔵スーパーディスクドライブユニット取り扱い上の注意


内蔵スーパーディスクドライブユニットをお使いになる前に、取り扱い上の注意をご覧ください。
「気をつけてください～マルチベイアダプタを使うとき」(←P.27)

4


オプション機器を活用しよう！(内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り付ける)

アドバイス

内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り外すとき

「ユニットを交換する」
( P.32)



1 内蔵スーパーディスクドライブユニットをマルチベイアダプタに取り付けます。

「ユニットを交換する」( P.32)

重要

内蔵スーパーディスクドライブユニットからは起動できません

内蔵スーパーディスクドライブユニットから起動したり、Aドライブにするときは、内蔵スーパーディスクドライブユニットのマニュアルをご覧ください。

  『内蔵スーパーディスクドライブユニット (FMV-NSD12) 取扱説明書』

その他のオプション機器を使う

ここでは本パソコンに接続できるその他のオプション機器の一例として、「ハードディスク」、「MO（光磁気ディスク）ドライブ」、「バッテリーチャージャ」をご紹介します。

- ・ハードディスクを使う ←P.129
- ・MO（光磁気ディスク）ドライブを使う ←P.130
- ・バッテリーチャージャを使う ←P.130

ハードディスクを使う

本パソコンには、SCSI 規格の外付けハードディスクを増設することができます。外付けハードディスクを増設すると、より多くのデータを保存できるようになります。

外付けハードディスクを増設するには、次のものが必要です。

外付けハードディスク

SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

SCSI 規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。終端抵抗（ターミネータ）は、外付けハードディスクに内蔵されている場合もあります。

外付けハードディスクと SCSI カードのマニュアル

外付けハードディスクや SCSI カードによっては、接続方法や設定方法が異なる場合があります。

マニュアルを用意してください。



アドバイス

ハードディスクを増設するには

SCSI カードを本パソコンにセットします。

「PC カードをセットする」(←P.99)

外付けハードディスクの接続や設定のしかたについては、ハードディスクと SCSI カードのマニュアルをご覧ください。



用語

スキャナ
SCSI

オプション機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI 規格のオプション機器には、ハードディスクの他に、スキャナや MO（光磁気ディスク）ドライブなどがあります。



アドバイス

MOドライブを使うには

SCSIカードを本パソコンにセットします。

「PCカードをセットする」(P.99)

MOドライブの接続や設定のしかたについては、MOドライブとSCSIカードのマニュアルをご覧ください。



用語

SCSI

オプション機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格のオプション機器には、MO(光磁気ディスク)ドライブの他に、スキャナやハードディスクなどがあります。

エムオー

MO(光磁気ディスク)ドライブを使う

MO(光磁気ディスク)ドライブとは、レーザーと磁気で光磁気ディスクにデータを書き込み、レーザーで読み込みを行う記憶媒体です。MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

MO(光磁気ディスク)ドライブ

本パソコンには、SCSI規格の外付けのMOドライブを取り付けられます。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)

SCSI規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。終端抵抗(ターミネータ)は、MOドライブに内蔵されている場合もあります。

MO(光磁気ディスク)

128MB、230MB、540MB、640MBの容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになるMOドライブが対応している容量のMOをお買い求めください。

バッテリーチャージャーを使う

予備として、別売の内蔵バッテリーパック(FMVNBP103)をご利用の場合、別売のバッテリーチャージャー(FMV-NCA2)を使うと、本パソコンに添付のバッテリーパックと同時に充電することができます。

バッテリーチャージャーの詳しい使いかたや、お使いになるうえでの注意事項については、バッテリーチャージャーのマニュアルをご覧ください。

第 5 章

BIOS セットアップ

本章では、「BIOS セットアップ」を使って、ハードウェアの設定を変更する方法について説明しています。

本パソコンのハードウェアは、あらかじめ最適な状態に設定されています。通常お使いになる範囲では、変更する必要はありません。必要な場合のみご覧ください。

本章には、ある程度パソコンについての知識を必要とする記述があります。

1. BIOS セットアップとは 132
2. BIOS セットアップの操作のしかた 133
3. ご購入時の設定に戻す 138
4. BIOS セットアップのメニュー詳細 139
5. BIOS のパスワード機能を使う 149
6. BIOS が表示するメッセージ一覧 155



1

BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。本パソコンをご購入になったときは、すでに最適なハードウェア環境が設定されています。通常お使いになる範囲では、これらの設定を変更する必要はありません。

BIOS とは、「Basic Input/Output System」の略で、ハードウェア環境の設定や OS の起動、基本的な入出力機能の制御などを行うためのプログラムです。

BIOS セットアップは、BIOS の機能についての各種の設定値を変更するためのプログラムです。BIOS セットアップの設定値を変更することによって、パソコン本体と周辺機器の機能や動作モードを、変更することができます。

通常は、以下の場合などに BIOS セットアップを利用します。

- ・ 特定の人だけが本パソコンを使えるように、パスワード（暗証番号）を設定したいとき
- ・ 起動時の自己診断テストで、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

BIOS セットアップの設定は、正確に行ってください

設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定値に戻して、本パソコンを起動し直してください。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(←P.133)

「ご購入時の設定に戻す」(←P.138)

アドバイス

BIOS セットアップの設定値の保存先

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シームスラム) と呼ばれるメモリに記憶されます。CMOS RAM に記憶された内容は、パソコン本体の電源を切ったあとも、バックアップ用バッテリーによって保持されます。

起動時の自己診断テスト中に電源を切ると

本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は、4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

「メッセージ一覧」の 23 (←P.158)

用語

起動時の自己診断テスト (POST)

本パソコンの電源を入れたときや再起動したとき、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを、自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST: Power On Self Test) といいます。

BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップの設定を変更するには、BIOS セットアップを起動して、設定値を変更し、設定内容を CMOS RAM に保存して終了します。

ここでは以下のことを説明します。

- ・ BIOS セットアップを起動する ←P.133
- ・ 設定を変更する ←P.134
- ・ 変更内容を取り消す ←P.136
- ・ BIOS セットアップを終了する ←P.137






重要

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います
フラットポイントやマウスは使えません。

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、起動することができます。

- 1** それまで行っていた作業を終了します。
必要に応じて、作業中のデータを保存してください。
- 2** 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。
- 3** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。

アドバイス

Windows 98 の画面が表示されたとき

Windows 98 の起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。

起動時の自己診断画面を表示するには

手順 5 で、(F2) の代わりに (Esc) を押します。

自己診断テストが完了すると「起動時のメニュー」という画面が表示されるので、そのまま起動を続けたい場合には (Esc) を押してください。

「起動時のメニュー」という画面が表示されているとき

この画面は、起動時の自己診断テスト中に (Esc) を押すと、表示されます。

を数回押して「<BIOS セットアップを起動>」を選択し、(Enter) を押すと、BIOS セットアップを起動できます。

項目名に「」が付いているとき

この項目にはサブメニューがあります。項目名にカーソルを移動して (Enter) を押すと、サブメニューの画面が表示されます。

元のメニュー画面に戻るには (Esc) を押します。

5 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「(Esc) を押すと自己診断画面、(F2) を押すと BIOS セットアップを起動します。」と表示されている間に、(F2) を押します。

BIOS セットアップが起動し、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

メニューバー 項目ヘルプフィールド
メニューの名称が カーソルを合わせた項目の表示されます。 説明が表示されます。

カーソル
設定する項目に合わせます。

設定フィールド
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ

メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
システム時刻:	[12:34:56]					
システム日付:	[1999/XX/XX]					
フロッピーディスクA:	[1.44/1.2 MB 3.5"]					
▶ プライマリマスター	[XXXXXXXXXXXXXX]					
▶ セカンダリマスター	[XXXXXXXXXX]					
システムメモリ:	640 KB					
拡張メモリ:	XX MB					
▶ メモリキャッシュ						
言語 (Language):	[日本語 (JP)]					

F1 ヘルプ 項目選択 /Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

設定を変更する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードを使って行います。ここでは、一般的な操作方法を説明します。

1 または でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2 または でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

3 または (Enter) を押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更するときは、手順 1 ~ 3 を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。

「BIOS セットアップを終了する」(P.137)

アドバイス

設定内容を、変更前の値に戻すには

「変更内容を取り消す」(P.136)

設定内容を、ご購入時の設定値に戻すには

「ご購入時の設定に戻す」(P.138)

設定時に使用するキー一覧

[F1]

「一般ヘルプ」画面が表示され、BIOS セットアップの操作で使用するキーについての説明を見ることができます。次のページを見るときは **[Pg Dn]** を、前のページに戻るときは **[Pg Up]** を押します。「一般ヘルプ」画面を閉じるには **[Enter]** を押します。

[] / **[]**

設定する項目にカーソルを移動します。

[] / **[]**

メニューを切り替えます。

[Enter]

「 」が付いている項目で押すと、サブメニューが表示されるか、その項目の処理が行われます。

設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。

[] / **[]**

設定値を変更します。

[F9]

すべての設定値を、本パソコンの標準設定値（ご購入時の設定）に戻します。

[F10]

設定した内容をCMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

[Esc]

「終了」メニューを表示します。

サブメニューが表示されているときは、1 つ前のメニュー画面に戻ります。

変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、CMOS RAM に保存してある変更前の設定値を読み込みます。

- 1 **[Esc]** を押します。
「終了」メニューが表示されます。

- 2 または を押して「変更前の値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更前の値を読み込みますか？
[はい] [いいえ]

- 3 または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。
BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

アドバイス

すべての変更を取り消して BIOS セットアップを終了するには

設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了します。

- 1 **[Esc]** を押して、「終了」メニューを表示します。
サブメニューを表示しているときは、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。
- 2 または を押して「変更を保存せずに終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。
設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。
- 3 または で「いいえ」を選択し、**[Enter]** を押します。
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

- 1 **[Esc]** を押します。
「終了」メニューが表示されます。
- 2 または を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
[はい]	[いいえ]

- 3 または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。
すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

アドバイス

BIOS セットアップを終了せずに設定を保存するには

いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定できます。

- 1 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、**[Enter]** を押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
- 2 または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

設定を変更しないで終了するには

「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください。「変更内容を取り消す」(P.136)

3

ご購入時の設定に戻す

設定内容をご購入時の状態に戻すには、「標準設定値」を読み込み、読み込んだ設定値を CMOS RAM に保存します。

すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

- 1** BIOS セットアップを起動します。
「BIOS セットアップを起動する」(←P.133)

- 2** **[Esc]** を押します。
「終了」メニューが表示されます。

- 3** または を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
標準設定値を読み込みますか？
[はい] [いいえ]

- 4** または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。
BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
この状態では、まだ CMOS RAM には保存されていません。

- 5** または を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？
[はい] [いいえ]

- 6** または で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。
読み込んだ標準設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了します。

 **アドバイス**

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

 **アドバイス**

保存後に設定操作を続けたいとき

「変更を保存して終了する」の代わりに「変更を保存する」を選択して、**[Enter]** を押します。

ここで使用しているマークは、次の意味です。

- ： 項目名
- ： サブ項目名

ここでは以下のことを説明します。

- ・メインメニュー ←P.139
- ・詳細メニュー ←P.140
- ・セキュリティメニュー ←P.143
- ・省電力メニュー ←P.145
- ・起動メニュー ←P.147
- ・情報メニュー ←P.147
- ・終了メニュー ←P.148

メインメニュー

「メインメニュー」では、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

システム時刻

システム日付

フロッピーディスク A (標準設定値：1.44/1.2MB 3.5 ")

フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。

内蔵スーパーディスクドライブユニット(別売)から起動したり、A ドライブにするときは、「使用しない」に設定してください。

また、「フロッピーコントローラ」(←P.141)も「使用しない」に設定してください。

プライマリマスター

内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。

設定項目については、「セカンダリマスター」を参照してください。

セカンダリマスター

CD-ROM ドライブユニットなどのマルチベイに取り付けたIDE 規格の機器のタイプと動作モードを設定します。

内蔵スーパーディスクユニット(別売)の動作モードを変更するときは、「タイプ」を「取り外し可能 ATAPI」に設定します。

タイプ (標準設定値：自動)

重要

「自動」以外を選択するとき

接続するドライブに合ったタイプを選択してください。誤ったタイプを選択すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

アドバイス

標準設定値を読み込んだとき

「終了メニュー」の「標準設定値を読み込む」(←P.148)を実行した直後は、「メインメニュー」の「プライマリマスター」、「セカンダリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

シリンダ数

ヘッド数

セクタ数

 **重要**

シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定するとき

必ず正確に設定してください。誤った値を設定すると、本パソコンが正常に動作しくなくなります。

最大容量

マルチセクタ転送

LBA モード制御

転送モード

Ultra DMA モード

システムメモリ

拡張メモリ

メモリキャッシュ

L2 キャッシュ (標準設定値 : 使用する)

言語 (Language) (標準設定値 : 日本語 (JP))

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、パソコン本体と周辺機器の機能やリソースなどの設定を行います。

プラグアンドプレイ対応 OS (標準設定値 : はい)

セキュリティ付きセットアップ設定 (標準設定値 : いいえ)

周辺機器設定

シリアルポート A (標準設定値 : 使用する)

I/O ベースアドレス (標準設定値 : 3F8)

割り込み番号 (標準設定値 : IRQ 4)

アドバイス

周辺機器設定を行うとき

I/O ポートアドレス、割り込み番号 (IRQ)、DMAチャネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てると、項目名の左に*が表示されます。*が表示されたときは、別の設定値を割り当ててください。

ご購入時の設定値は、リソース一覧で確認できます。「リソース一覧」(←P.166)現在の設定値は、「コンピュータのプロパティ」ウィンドウで確認できます。「現在のリソースを確認するには」(←P.166)

シリアルポート B (標準設定値: 使用する)

シリアルポート B (赤外線通信ポート) を使用するかどうかを設定します。

モード (標準設定値: FIR)

高速モード用の「I/O ベースアドレス」と「DMA チャンネル」も設定してください。

I/O ベースアドレス (標準設定値: 2E8)

割り込み番号 (標準設定値: IRQ 3)

I/O ベースアドレス (標準設定値: 118)

DMA チャンネル (標準設定値: DMA 3)

パラレルポート (標準設定値: 使用する)

モード (標準設定値: 双方向)

「ECP」は、パラレルポートに ECP 対応の周辺機器を接続しているときに設定します。ECP モード用の「DMA チャンネル」も設定してください。

I/O ベースアドレス (標準設定値: 378)

割り込み番号 (標準設定値: IRQ 7)

DMA チャンネル (標準設定値: DMA 1)

通常「DMA チャンネル」は「DMA 1」に設定してください。「DMA 3」は、標準設定値ではシリアルポート B (赤外線通信ポート) の FIR 用に割り当てられています。

フロッピーコントローラ (標準設定値: 使用する)

内蔵 IDE コントローラ (標準設定値: 両方使用する)

キーボード / マウス設定

Numlock (標準設定値: 自動)



アドバイス

内蔵スーパーディスクユニットから起動したり、A ドライブにするには

「フロッピーコントローラ」を「使用しない」に設定してください。また、「メインメニュー」の「フロッピーディスク A」(P.139) も「使用しない」に設定してください。

ホットプラグ (標準設定値: 使用する)

アドバイス

接続したキーボードやマウスが使えないとき

接続したキーボードやマウスがホットプラグに対応していない場合があります。

本パソコンの動作中に接続したキーボードやマウスが使えないときは、いったん取り外し、しばらく待ってからもう一度接続してください。それでも使えないときは、本パソコンを終了するか、サスペンドしてから接続してください。

次のような場合には「使用しない」に設定してください

- ・「ホットプラグ」を「使用する」に設定したときに、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合
- ・拡張キーボード/マウスコネクタに、入力装置 (バーコードリーダー: FMV-BCR101、バーコードタッチリーダー: FMV-BCR201、磁気カードリーダー: FMV-MCR101 など) を接続している場合
また、この場合は「省電力モード」(←P.145) も「使用しない」に設定してください。

内蔵ポインティングデバイス (標準設定値: 自動)

アドバイス

Microsoft 社製 IntelliMouse™ の利用について

Microsoft 社製 IntelliMouse™ は、「内蔵ポインティングデバイス」を「自動」に設定しているときのみお使いになれます。

画面設定

ディスプレイ (標準設定値: 液晶ディスプレイ)

全体表示 (標準設定値: 使用しない)

PCI 設定

割り込み番号の予約

特定の割り込み番号を PC カードに割り当てたいとき、その割り込み番号を「予約する」に設定すると、内蔵デバイスに使用されないようになります。

IRQ 3 ~ IRQ 11 (標準設定値: 予約しない)

DMI イベントログ設定

イベントログ領域の状態

イベントログ内容の状態

イベントログのクリア (標準設定値: クリアしない)

イベントログ (標準設定値: 保存する)

システムブートイベント (標準設定値: 保存しない)

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを不正使用から保護するための設定を行います。

「BIOS のパスワード機能を使う」(←P.149)

管理者用パスワード

管理者(本パソコンをご購入になった方など)用のパスワードの設定状態が表示されます。

ユーザー用パスワード

ユーザー(ご家族など、管理者以外の利用者)用のパスワードの設定状態が表示されます。

管理者用パスワード設定

ユーザー用パスワード設定

設定できるBIOS セットアップの項目が制限されます。

フロッピーディスクアクセス(標準設定値:常に可能)

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

重要

フロッピーディスクアクセスの設定についての注意

- ・ BIOS を経由しないで直接フロッピーディスクコントローラにアクセスする OS (WindowsNT4.0 など) では、正しく動作しません。
- ・ 内蔵スーパーディスクドライブユニット(別売)へのアクセスは制限できません。

起動時のパスワード(標準設定値:使用しない)

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

レジューム時のパスワード（標準設定値：使用しない）



「管理者用パスワード」が設定され、「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合にのみ有効です。

Windows 98 の「電源の管理」でも設定できます。

「電源の管理」で設定を変更する」（←P.81）

重要

レジューム時のパスワード入力について

レジューム時は、パスワード入力を要求する画面は表示されません。フラットポイント（マウス）とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができなくなっているときは、状態表示 LCD に  と  が交互に点滅します。

キーボードとフラットポイント（マウス）を使用できるようにするには、本パソコン起動時に入力したパスワードをキーボードから入力し、**[Enter]** を押してください。

Logitech MouseWare（←P.191）をインストールしているとき

「レジューム時のパスワード」は、必ず「使用しない」に設定してください。

ハードディスク起動セクタ（標準設定値：通常動作）

重要

ハードディスク起動セクタの設定についての注意

- ・ OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- ・ この設定は、BIOS を経由しないで直接ハードディスクにアクセスする OS（Windows NT4.0 など）では、正しく動作しません。

ハードディスクセキュリティ

ハードディスクドライブのパスワードロック機能を設定します。本パソコンの内蔵ハードディスクドライブのように、パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブのみ利用できます。

プライマリマスター（標準設定値：使用しない）

セカンダリマスター（標準設定値：使用しない）

本パソコンでは設定できません。

省電力メニュー

「省電力」メニューでは、本パソコンの省電力機能に関する設定を行います。省電力機能は、「PMSet98」やWindows98の「電源の管理」でも設定できます。「節電の設定を変更する」(←P.81)

省電力モード (標準設定値: ユーザー設定)

ハードディスク省電力 (標準設定値: 使用しない)

ディスプレイ省電力 (標準設定値: 使用しない)

Windows98の「電源の管理」で、モニタの電源を切るまでの時間を設定しているときは、短い時間に設定しているほうが有効になります。

重要

別売のシリアルマウスをお使いのとき

「ディスプレイ省電力」で時間を設定したときは、「シリアルマウス」(←P.146)を「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定していると、シリアルマウスを使用しているときでもディスプレイの表示が消えてしまいます。

アイドルモード (標準設定値: 使用する)

スタンバイタイマー (標準設定値: 4分)

スタンバイは、Windows98の「システムスタンバイ」とは異なります。Windows98が起動しているときは、本設定は無効です。

サスペンドタイマー (標準設定値: 15分)

Windows98が起動しているときは、「電源の管理」の「システムスタンバイ」の設定に従ってサスペンドします。

サスペンド動作 (標準設定値: サスペンド)

アドバイス

「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定しているとき

サスペンドするときに、自動的に Save To Disk 機能が働いて、本パソコンの電源が切れます。

「Save To Disk」に設定してもサスペンドすることがあります

次の場合には、Save To Disk 機能が働かず、サスペンドします。

- ・ Save To Disk 領域が作成されていないとき
- ・ 「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」を設定しているとき
- ・ 「PMSet98のプロパティ」ウィンドウで、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左が になっているとき
- ・ LOW バッテリ状態で自動的にサスペンドするとき

自動 Save To Disk (標準設定値: 使用しない)

アドバイス

Windows98をお使いのとき

項目によっては無効になることがあります。詳しくは各項目の説明をご覧ください。

モデム着信によるレジューム（標準設定値：使用しない）

「PMSet98」が起動しているときに有効です。「PMSet98」が起動していないときは、「使用する」と同じ動作になります。

「PMSet98」で設定を変更する」(←P.82)

アドバイス

モデム着信によるレジューム機能についての注意

- ・ PDC コネクタに接続した携帯電話からモデムに着信したときは、レジュームしません。
- ・ 本パソコンがレジュームしてからアプリケーションがモデムと通信できるようになるまでは、多少の時間が必要です。アプリケーションがモデムの着信信号を検出できるように、モデムの自動応答回数を設定してください。モデムの設定方法については、モデムのマニュアルをご覧ください。
- ・ 「使用する」に設定すると、サスペンド中でもモデムを動作させておくため、サスペンド中の電力消費が増加します。この場合には、ACアダプタを接続してください。

時刻によるレジューム（標準設定値：使用しない）

Windows98 で「タスクスケジュール」を設定しているときは、Windows98 と BIOS セットアップの両方とも有効になります。

レジューム時刻

「時刻によるレジューム」を「使用する」に設定したとき、レジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）時刻を時：分：秒（24 時間制）で設定します。

詳細設定

SUS/RES スイッチ（標準設定値：使用する）

カバークローズ サスペンド（標準設定値：使用する）

重要

カバークローズサスペンドについての注意

- ・ ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PCカード使用中は、それらの作業を完了または中断してから、液晶ディスプレイを閉じてください。
- ・ Windows98 の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

カバーオープン レジューム（標準設定値：使用する）

APM の CPU アイドル動作（標準設定値：低電力）

「低電力」に設定して動作が不安定になったときは「標準」に設定してください。

液晶ディスプレイ バックライト（標準設定値：標準）

「PMSet98」および **[Fn]** を押しながら **[F6]** または **[F7]** を押しでも設定できます。「液晶ディスプレイの明るさを設定する」(←P.57)

シリアルマウス（標準設定値：使用しない）

Clock Run (標準設定値：使用しない)

PCI BUS/CardBus の Clock Run 機能を使うかどうかを設定します。

PCMCIA のカードを使うときは「使用しない」を選択してください。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

クイック起動 (標準設定値：使用する)

起動時の自己診断画面 (標準設定値：表示しない)

起動デバイスの優先順位 (標準設定値：「フロッピーディスクドライブ」「ハードディスクドライブ」「ATAPI CD-ROM ドライブ」の順番)

アドバイス

優先順位を一時的に変更したいとき

起動時の自己診断テスト中に **[Esc]** を押すと、「起動時のメニュー」という画面が表示されます。起動用のデバイスを または で選択し、**[Enter]** を押してください。

「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。

「3.ATAPI CD-ROM ドライブ」の項目は、起動可能な ATAPI ドライブがセットされている場合にのみ表示されます。

情報メニュー

「情報」メニューでは、BIOS やパソコン本体についての情報を表示するためのメニューです。

BIOS 版数

BIOS 日付

BIOS 領域

CPU タイプ

CPU 速度

L1 キャッシュ

L2 キャッシュ

全メモリ容量

搭載しているメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。

標準メモリ

内蔵しているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

増設メモリ

拡張 RAM モジュールスロットに増設したメモリの容量が表示されます。
メモリを増設していないときは、「未使用」と表示されます。

資産番号

本パソコンでは「未定義」と表示されます。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

変更を保存せずに終了する

標準設定値を読み込む

変更前の値を読み込む

変更を保存する

BIOS のパスワード機能を使う

BIOS のパスワード機能を使うことによって、特定の人以外が本パソコンを使用できないように制限したり、ハードディスクのデータが盗用されないように保護したりできます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・パスワード機能について ←P.149
- ・パスワード機能を設定する ←P.150
- ・パスワードを入力する ←P.152
- ・パスワードを変更 / 削除する ←P.153

パスワード機能について

設定できるパスワードの種類

BIOS では、次の 2 つのパスワードが設定できます。パスワードによって制限できる機能が違います。

管理者用パスワード

本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。
パスワード機能を使うときは、必ず設定してください。

ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方(ご家族など)が使用するパスワードです。
「管理者用パスワード」を設定したときにのみ設定できます。

パスワードで制限 / 保護できる機能

BIOS セットアップの起動

「管理者用パスワード」を設定すると自動的に働きます。
設定してあるパスワードを入力しないと、BIOS セットアップが起動できないように制限されます。また、「ユーザー用パスワード」を入力して BIOS セットアップを起動したときは、設定できる項目が制限されます。

起動時のパスワード

設定してあるパスワードを入力しないと OS を起動できないように制限されます。また、下記の「フロッピーディスクアクセス」では、起動時に入力したパスワードによって制限機能が変わります。

 **アドバイス**

Windows98 のパスワード機能について

Windows98 のパスワード機能は、BIOS のパスワード機能とは異なります。

Windows98 のパスワード機能だけでは、ハードディスクデータの読み出しからデータを保護することはできません。

レジューム時のパスワード

本パソコンがサスペンドから復帰するとき、起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力しないと、キーボードとフラットポイント(マウス)が使えないように制限されます。

この機能は、「起動時のパスワード」を設定しているときにのみ利用できます。

重要

Logitech MouseWare (←P.191) をインストールしているとき

「レジューム時のパスワード」は、必ず「使用しない」に設定してください。

フロッピーディスクアクセス

「管理者のみ可能」に設定した場合に「起動時のパスワード」を「使用しない」に設定しているときは、フロッピーディスクが使えないようになります。

「起動時のパスワード」を「使用する」に設定しているときは、ユーザー用パスワードを入力して起動したときにフロッピーディスクが使えないように制限されます。

ただし、スーパーディスクドライブ(別売)へのアクセスは制限できません。

ハードディスクセキュリティ

接続してあるハードディスクを取り外して他のパソコンに取り付けたときに、データを読み出すことができないように保護されます。「起動時のパスワード」と併用することにより、パソコン本体を盗まれた場合でも、保存してあるデータの読み出しが困難になります。

本パソコンの内蔵ハードディスクドライブのように、パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブの場合にのみ利用できます。

パスワード機能を設定する

パスワードを設定する

管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを設定するときは、以下の操作を行ってください。

ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

1 BIOS セットアップを起動します。
「BIOS セットアップを起動する」(←P.133)

2 を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。

- 3** または でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、**[Enter]** を押します。

パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。	[<input type="password"/>]

または

ユーザー用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。	[<input type="password"/>]

- 4** 設定したいパスワード (半角英数字、7文字まで) を入力します。
英字の大文字、小文字の区別はありません。
入力した文字は、表示されません。

重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご相談ください。

- 5** **[Enter]** を押します。
カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。
- 6** 確認のため、設定したパスワードをもう一度入力します。
正しく入力してください。
- 7** **[Enter]** を押します。
「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。
- 8** **[Enter]** を押します。
これでパスワードが設定されました。

アドバイス
設定を中止するには
[Esc] を押してください。

アドバイス
確認のパスワードが
間違っていたとき
「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]** を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

各パスワード機能の設定

各パスワード機能の設定は、BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューで行います。操作のしかたは、通常の設定項目と同じです。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(←P.133)

以下に、各機能の設定項目を示します。

BIOS セットアップの起動

管理者用パスワードを設定すると、自動的に設定されます。

起動時のパスワード

「起動時のパスワード」(←P.143)を、「使用する」に設定します。

レジューム時のパスワード

「起動時のパスワード」(←P.143)と「レジューム時のパスワード」(←P.144)の両方を、「使用する」に設定します。

フロッピーディスクアクセス

「フロッピーディスクアクセス」(←P.143)を、「管理者のみ可能」に設定します。

ハードディスクセキュリティ

「プライマリマスター」(←P.139)を、「使用する」に設定します。

パスワードを入力する

パスワード機能を設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が要求されます。

- ・ BIOS セットアップを起動するとき
- ・ 本パソコンを起動するとき
- ・ サスペンドから復帰するとき

BIOSセットアップや本パソコンの起動時のパスワード入力

「パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。設定してあるパスワードを入力して、**[Enter]**を押してください。

アドバイス

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、キーボードやフラットポイント(マウス)が一切反応しなくなります。この場合は、いったんMAINスイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直してから、正しいパスワードを入力してください。

「ユーザー用パスワード」でBIOSセットアップを起動すると

設定できる項目が制限されます。

「ユーザー用パスワード設定」(←P.143)

アドバイス

Windows98 で設定するには

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の左を☑にしても、サスペンドから復帰するときのパスワードを設定できません。この場合は、BIOSで設定したパスワードではなく、Windows98 のパスワードを入力してください。

Logitech MouseWare (☞P.191)をインストールしているとき

レジューム後に、本パソコンが動かなくなったり、動作が不安定になることがあります。この場合には、本パソコンを再起動したあと、「レジューム時のパスワード」を「使用しない」に設定してください。

レジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示LCDに[A]と[I]が交互に点滅します。この状態では、フラットポイント(マウス)とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力して、[Enter]を押してください。正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイント(マウス)は使えません。

パスワードを変更 / 削除する

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、以下の操作を行ってください。

- 1** BIOS セットアップを起動します。
「BIOS セットアップを起動する」(☞P.133)
- 2** を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3** または でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、[Enter]を押します。
パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[■■■■■]
新しいパスワードを入力して下さい。	[■■■■■]
新しいパスワードを確認して下さい。	[■■■■■]

または

ユーザー用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[■■■■■]
新しいパスワードを入力して下さい。	[■■■■■]
新しいパスワードを確認して下さい。	[■■■■■]

アドバイス

入力したパスワードが間違っていたとき

「パスワードが正しくありません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、**[Esc]**を押してください。

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、キーボードやフラットポイント(マウス)が一切反応しなくなります。この場合は、いったんMAINスイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直してBIOSセットアップを起動し直してください。なお、BIOSセットアップの起動時にも、パスワードの入力が要求されます。

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して、もう一度手順5からやり直してください。設定を中止するときは、**[Esc]**を押してください。

4 設定してあるパスワードを入力し、**[Enter]**を押します。
カーソルが、「新しいパスワードを入力して下さい。」の欄に移動します。

5 新しく設定したいパスワード(半角英数字、7文字まで)を入力し、**[Enter]**を押します。

英字の大文字、小文字の区別はありません。

カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。

重要

設定したパスワードを忘れないようご注意ください

パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご相談ください。

6 確認のため、新しく設定したパスワードをもう一度入力し、**[Enter]**を押します。

「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

7 **[Enter]**を押します。

これで新しいパスワードが設定されました。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」(←P.153)の手順5と6で、何も入力せずに**[Enter]**を押してください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

本パソコンは、電源を入れたときや再起動したときなどに、ハードウェアに異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的にチェックし、その結果をメッセージとして黒い画面に表示します。

ここでは以下のことを説明します。

- ・メッセージ一覧 ←P.155
- ・メッセージが表示されたときは ←P.160

メッセージ一覧

メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

 **アドバイス**

正常時のメッセージを表示するには

「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、**[Esc]**を押します。

起動時に常に表示させたいときは、BIOS セットアップの「起動」メニューで、「起動時の自己診断画面」を「表示する」に設定します。

- ① <ESC> キーを押すと自己診断画面、<F2> キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に **[F2]** を押すと、BIOS セットアップが起動します。

また、**[Esc]** を押すと起動時の自己診断画面が表示され、さらに自己診断テストが完了すると「起動時のメニュー」という画面が表示されます。起動するドライブを または で選択して、**[Enter]** を押してください。「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。

起動時のメニュー

- | |
|--|
| 1 . フロッピーディスクドライブ
2 . ハードディスクドライブ
3 . ATAPI CD-ROMドライブ |
|--|

<BIOSセットアップを起動>

(「ATAPI CD-ROM ドライブ」の項目は、起動可能な ATAPI ドライブがセットされている場合にのみ表示されます。)

- ② <F2> キーを押すと、BIOS セットアップを起動します。
起動時の自己診断画面の下に表示され、このメッセージが表示されている間に **[F2]** を押すと、BIOS セットアップが起動します。
- ③ BIOS セットアップを起動しています...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- ④ 0640K システムメモリ テスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ⑤ nnnnM 拡張メモリ テスト完了。
拡張メモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ⑥ nnnnK メモリキャッシュ テスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- ⑦ システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示していません。
- ⑧ ビデオ BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
ビデオ BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示していません。
- ⑨ マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、フラットポイント(マウス)が使えるようになったことを示しています。

エラーメッセージ

- ⑩ Invalid system disk
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク(「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」など)以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、などを押してください。
- ⑪ Non-System disk or disk error
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク(「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」など)以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、などを押してください。
- ⑫ Operating system not found
OS が見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。
- ⑬ システムメモリエラー。オフセットアドレス: xxxx
誤りビット: zzzz zzzz
システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
「メモリを取り外す」(←P.97)
メモリを取り外しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

アドバイス

これ以外のメッセージが表示されたとき

電源を入れ直しても同じメッセージが表示される場合は、「メッセージが表示されたときは」(←P.160) をご覧になり、手順に従って確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

- ⑭ 拡張メモリエラー。オフセットアドレス: xxxx
誤りビット: zzzz zzzz
拡張メモリのテスト中に、アドレスxxxxでエラーが発見されたことを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。
「メモリを増やす」(P.93)
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑮ メモリキャッシュのエラーです。- キャッシュは使用できません。
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑯ キーボードコントローラのエラーです。
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑰ キーボードエラーです。
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑱ フロッピーディスク A のエラーです。
フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。
FDDユニットが正しく取り付けられているか確認し、もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑲ ディスクエラーです。: ハードディスク n
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
BIOSセットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑳ システムタイマーのエラーです。
システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

- ⑳ リアルタイムクロックのエラーです。
リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ㉑ システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。
CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ㉒ 前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。
前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
起動途中で電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は [F1] を押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は [F2] を押してください。
- ㉓ <F1> キーを押すと継続、<F2> キーを押すとセットアップを起動します。
起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。[F1] を押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、[F2] を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- ㉔ 日付と時刻の設定を確認してください。
日付と時刻の設定値が不正です。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- ㉕ パスワードで保護されています。: ハードディスク n
取り付けられたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。
そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」(←P.143) を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- ㉖ ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。
ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。
「Save To Disk 領域」(←P.171)

- 28 ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、Save To Disk 機能を使用できないことを示しています。
「Save To Disk 領域」(←P.171)
- 29 ハードディスクが検出されませんでした。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 30 不明な Save To Disk エラーが発生しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 31 ハードディスクからの読み取りに失敗しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 32 ハードディスクへの書き込みに失敗しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 33 ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
「Save To Disk 領域」(←P.171)
- 34 Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかったため、システム状態を復元できませんでした。
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
<F1> キーを押すと、このまま起動します。
- 35 Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
<F1> キーを押すと、このまま起動します。

メッセージが表示されたときは

メッセージが表示された場合は、「メッセージ一覧」(P.155)をご覧になって対処してください。表示されたメッセージが一覧にない場合や、対処方法が分からない場合には、次の手順に従って処置を行ってください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの該当する項目の設定値を確認してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して、起動し直してください。

「ご購入時の設定に戻す」(P.138)

2 オプション機器を取り外します。

オプション機器を取り付けている場合には、すべてのオプション機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

3 取り外したオプション機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外したオプション機器を1 つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号(IRQ)を使用するオプション機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処置を行っても、まだ同じメッセージが表示される場合には、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

第 6 章

技術情報

本パソコンの仕様について説明しています。

1. 仕様一覧	162
2. Save To Disk 領域	171
3. 赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意	174
4. モデムについて	177
5. ドライバのインストール	180
6. その他の注意事項	195

仕様一覧

- ・ 本体 ⇨ P.162
- ・ コネクタボックス ⇨ P.164
- ・ マルチベイヤダプタ ⇨ P.164
- ・ モデム ⇨ P.165
- ・ リソース一覧 ⇨ P.166
- ・ コネクタのピン配列と信号名 ⇨ P.167
- ・ CRT ディスプレイの走査周波数 ⇨ P.169

本体

製品名称	FMV-BIBLO MF/33	
CPU	モバイルIntel®Celeron™ プロセッサ 333MHz	
キャッシュメモリ	16KB (CPU 内蔵) 2次キャッシュ 128KB (CPU 内蔵)	
PCIチップセット	Intel 440DX	
BIOS ROM	512KB (Boot block type flash ROM)	
メインメモリ	標準 64MB/最大 192MB (SDRAM) (拡張 RAM モジュール 16/32/64/128MB、スロット×1)	
内蔵ハードディスクドライブ	2.5 インチ 6.4GB	
表示機能	画面制御	VGA (NeoMagic™ Corporation MagicMedia256AV™)
	VRAM	2.5MB (MagicMedia256AV™ に内蔵)
	液晶ディスプレイ 1	12.1 インチ TFTカラー 800 × 600 ドット (ドットピッチ 0.3075 mm)
	色数	256色 (仮想スクリーンモード) 1600万色 (仮想スクリーンモード) 6 1600万色 6 1600万色 6
	CRT 表示	256色 1677万色 1677万色 1677万色
	同時表示	256色 1600万色 (液晶: 仮想スクリーンモード) 6 / 1677万色 (CRT) 1600万色 (液晶) 6 / 1677万色 (CRT) 1600万色 (液晶) 6 / 1677万色 (CRT)
	音源機能	PCM (16ビットステレオ) 音源 内蔵スピーカー (ステレオ) 内蔵マイク (モノラル) ラインイン・ジャック (ステレオ) ヘッドホン・ジャック (ステレオ)
キーボード	一体型 OADG 配列準拠 92 キー Windows キー・アプリケーションキー付き キーピッチ:18mm キーストローク:2.2mm	
内蔵ポインティングデバイス	フラットポイント (静電誘導式)	
PC カード	JEIDA/PCMCIA 準拠 TYPE / × 1 (CardBus/ZV ポート対応)	

製品名称		FMV-BIBLO MF/33
外部 インター フェース	外部 CRT	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン
	USB	4 ピン × 1 ポート 2
	DATA/FAX モデム	モジュージャック (RJ-11)
	拡張キーボード / マウス	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
	外部 FDD	専用 26 ピン 添付のケーブル
	ラインイン・ジャック	3.5mm ステレオ・ミニジャック
	ヘッドホン・ジャック	3.5mm ステレオ・ミニジャック
	赤外線通信ポート	IrDA1.1 準拠 (最大通信速度 4Mbps)
	PDC	専用コネクタ 9 ピン
	コネクタボックス	コネクタボックス専用 150 ピン
電源供給方式		AC アダプタ、またはリチウムイオンバッテリー (内蔵 × 1)
バッテリーパック		リチウムイオン 10.8V(2600mAh)
バッテリー稼働時間		3 時間 (本体のみ) 3
バッテリー	サスペンド時または MAIN スイッチ OFF 時	約 4 時間
充電時間 パソコン動作時		約 10 時間
消費電力		約 38.4W 以下 (AC 電源時) 4
省エネ法に基づく表示		エネルギー消費効率 約 3.5W (AC 運用時の待機時消費電力) 5
重量		約 1.68Kg (本体のみ)
外形寸法		W283 × D222 × H22.5mm (本体のみ、突起部含まず)
状態表示 LCD		反射型
盗難防止機構		Kensington 社製マイクロセーパセキュリティシステムに対応
適用温度範囲		5 ~ 35
サポート OS		Windows98 および WindowsNT4.0 7

(本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

- ・TFT液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、144万個以上の画素(ドット)より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、予めご了承ください。
 - ・液晶ディスプレイは、その特性上、温度変化などで多少むらが発生することがあります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- すべてのUSB規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
- 省電力制御あり、バッテリー満充電の場合(稼働時間は使用条件により異なる)
- 最大値(充電有り、AC電源時)
- サスペンドモード(充電無し)
- ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、1600万色で表示されます。
- ・WindowsNTをお使いになるときは、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
<http://www.fmworld.ne.jp/support/hikken/index.html>
をご覧ください。
 - ・WindowsNT4.0にした場合、PDCコネクタおよび音楽CD再生ボタンは使えません。また、搭載アプリケーションの動作は保証できません。

コネクタボックス

製品名称		コネクタボックス
外部 インター フェイス	接続コネクタ	パソコン本体との接続専用
	マルチベイヤダブタ	専用 68 ピン
	外部 CRT	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン
	拡張キーボード / マウス	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
	シリアル	RS-232C (16550A)、D-SUB 9 ピン
	パラレル	ECP 対応 D-SUB 25 ピン
	外部 FDD	専用 26 ピン 添付のケーブル
	USB 2	4 ピン × 1 ポート
重量		約 0.19Kg
外形寸法		W283 × D44 × H25 mm (突起部含まず)

(本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

- 1 マルチベイヤダブタにて接続
- 2 すべてのUSB規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。

マルチベイヤダブタ

製品名称		コネクタボックス
外部 インター フェイス	拡張ベイ	FDD ユニット、 CD-ROM ドライブユニット、 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット、 内蔵スーパーディスクユニット のうちいずれか 1 つを装着可
	使用電源	本体側から供給
本体	外形寸法	W146.2 × D187.6 × H27.5mm
	重量	約 0.33Kg (ユニット挿入なし)
		FDD ユニット挿入時 (+0.2Kg) CD-ROM ドライブユニット挿入時 (+0.3Kg)
ユニ ット	CD-ROM ドライブユニット	ATAPI 規格準拠、12/8cmCD 対応、最大 24 倍速、 マルチセッション、CD エクストラ
	FDD ユニット	3.5 インチ (2HD:1.44MB/1.2MB、2DD:720KB)

モデム

品名	Fujitsu LB RWModem V.90 56K J		
通信方式	2線式 全二重 (FAXモードでは2線式 半二重)		
通信規格	データモード	K56flex ITU T V.90, V.34, V.32bis, V.32, V.22bis	
	FAXモード	ITU T V.17, V.29, V.27ter, V.21ch2	
通信速度	V.90モード	受信	56000, 54667, 53333, 52000, 50667, 49333, 48000, 46667, 45333, 44000, 42667, 41333, 40000, 38667, 37333, 36000, 34667, 33333, 32000, 30667, 29333, 28000bps
		送信	33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400bps
	K56flexモード	受信	56000, 54000, 52000, 50000, 48000, 46000, 44000, 42000, 40000, 38000, 36000, 34000, 32000bps
		送信	31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400bps
	データモード	33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 1200bps	
	FAXモード	14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 300bps	
同期方式	調歩同期		
データ転送プロトコル	MNP class 4 / 5 ITU T (CCITT) V.42 / V.42bis		
FAXインターフェース	TIA / EIA578 (class1)		
最大端末速度	115200bps		
バスインターフェース	PCI		
使用環境条件	パソコン本体による (温度: 5 ~ 35 (結露がないこと))		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・自動速度検出 ・発信音、呼出し音、話中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状態を示す応答音の検出 ・トーン式/パルス式ダイヤルの自動選択 ・ナンバーディスプレイ対応 Windows95およびWindows98のみサポート) 		

- ・本モデムはWindows98、WindowsNT4.0以外のOSでの動作はサポートしていません。
- ・K56flexはRockwell International社、Lucent Technologies社が提唱している通信規格です。
- ・V.90およびK56flexでの接続においては、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- ・56000bpsはV.90およびK56flexの理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90による33600bps (K56flexは31200bps) を超える通信速度は受信時のみで、V.90送信時は33600bps (K56flexは31200bps) が最高速度になります。
日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては、同規格での通信が行えない場合があります。
- ・MS-DOSモードではお使いになれません。

リソース一覧

本パソコンの割り込み番号 (IRQ)、DMA チャンネルをどのハードウェアが使っているかの一覧です。

本パソコンご購入時の割り込み番号 (IRQ)、DMA チャンネルは、次のように設定されています。ご使用の状態によっては、異なることがあります。

割り込み番号 (IRQ)

IRQ	使用状況
0	システムタイマー
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	赤外線シリアルポート (COM4)
4	通信ポート (COM1)
5	空き
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート
8	システム CMOS / リアルタイムクロック
9	CardBus Controller / 内蔵モデム (COM2) / USB ホストコントローラ / サウンド / ディスプレイ
10	空き
11	空き
12	PS/2 互換マウスポート
13	数値データプロセッサ
14	IDE コントローラ
15	IDE コントローラ


DMA チャンネル

DMA	使用状況
0	空き
1	空き
2	フロッピーディスクコントローラ
3	赤外線シリアルポート
4	DMA コントローラ
5	空き

アドバイス

現在のリソースを確認するには

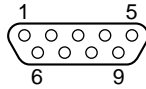
オプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。リソースの値の一覧が表示されます。

コネクタのピン配列と信号名

シリアルコネクタ

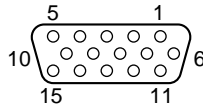
(D-SUB9 ピン、オス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端未レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケータ

CRT コネクタ

(ミニ D-SUB15 ピン、メス)

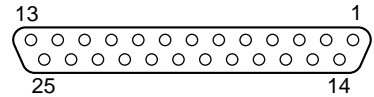


ピン信号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5	GND	-	グラウンド
6	GND	-	グラウンド
7	GND	-	グラウンド
8	GND	-	グラウンド
9	+ 5V	-	電源 1
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

1 : MAX 300mA

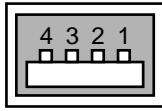
パラレルコネクタ

(D-SUB25 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	選択
18	GND	-	グラウンド
19	GND	-	グラウンド
20	GND	-	グラウンド
21	GND	-	グラウンド
22	GND	-	グラウンド
23	GND	-	グラウンド
24	GND	-	グラウンド
25	GND	-	グラウンド

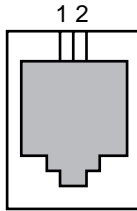
USB コネクタ



ピン信号	信号名	方向	説明
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

モジュラーコネクタ (モデム)

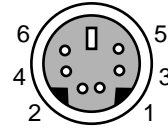
(RJ-11)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	LINE 1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE 2	入出力	公衆回線に接続

拡張キーボード / マウスコネクタ

(ミニ DIN6 ピン)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	KDATA	入出力	データ
2	MDATA	入出力	データ
3	GND	-	グラウンド
4	+ 5V	-	電源
5	KCLK	入出力	クロック
6	MCLK	入出力	クロック

CRT ディスプレイの走査周波数

CRT 表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数を選ぶことができます。
ただし、CRTディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示に切り替えて、選び直してください。

切り替えかた「ディスプレイの表示を切り替える」(P.117)

解像度 (ドット)	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	31.5	60
	37.5	75
	43.3	85
800 × 600	37.8	60
	46.9	75
	53.7	85
1024 × 768	48.3	60
	59.9	75
	68.5	85
1280 × 1024	64.0	60

同時表示の場合

「Advanced Settings」ウィンドウで、「独立ディスプレイ・タイミング」をにした場合

CRTディスプレイの走査周波数は以下のように設定できます。

解像度	色数	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	256	31.5	60
	High Color	37.5	75
		43.3	85
	True Color	31.5	60
800 × 600	256	37.5	60
	High Color	46.9	75
		53.7	85
	True Color	37.5	60
1024 × 768	256	48.3	60
	High Color	59.9	75
		68.5	85
	True Color	48.3	60
1280 × 1024	256	64.0	60

「Advanced Settings」ウィンドウで、「独立ディスプレイ・タイミング」を□にした場合

CRT ディスプレイの走査周波数は解像度や色数に関係なく一定です。

水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
37.8	60

 **重要**

CRT ディスプレイ表示に切り替えて正常に表示されないとき

CRT ディスプレイによってサポートする走査周波数が異なるため、正常に表示されない場合があります。

正常に表示するには、CRTディスプレイのマニュアルでCRTディスプレイがサポートする走査周波数を確認し、リフレッシュレートを変更してください。

「リフレッシュレートを変更する」(←P.123)

Save To Disk 領域

ここでは以下のことを説明します。

- ・ Save To Disk 領域について ←P.171
- ・ Save To Disk 領域の容量 ←P.171
- ・ Save To Disk 領域を変更する ←P.172

Save To Disk 領域について

Save To Disk 機能では、作業状態（メモリの内容）をそのままハードディスクに保存します。本パソコンご購入時のハードディスクの中には、あらかじめ Save To Disk 機能用の保存場所が確保されています。この Save To Disk 機能用の保存場所を「Save To Disk 領域」といいます。

Save To Disk 領域は PHDISK ユーティリティで変更することができますが、通常は変更する必要はありません。Save To Disk 領域を削除、または変更するときにお読みください。

Save To Disk 領域を削除、または変更して Save To Disk 領域が足りなくなったときは、Save To Disk 機能が使えなくなります。

Save To Disk 領域の容量

Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量 = メインメモリ容量 + 4MB (ビデオメモリ容量 / その他)

本パソコンでは、メモリ容量を最大に拡張したときを想定して、ご購入時は、次の容量の Save To Disk 領域が設定されています。

Save To Disk 領域の容量	最大メインメモリの容量 (増設時)	ビデオメモリ容量・その他
約 196MB	基本 64MB + 増設 128MB = 192MB	約 4MB

128MB の拡張 RAM モジュールを取り付けた場合

 **アドバイス**

「ファイル形式」と「区画設定」

Save To Disk 領域には「ファイル形式」と「区画設定」があります。本パソコンご購入時は、あらかじめ、Save To Disk 領域が「区画設定」で設定されています。

ファイル形式で使うときの注意

「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮プログラムで圧縮されたドライブ上では、Save To Disk 領域をファイル形式で使うことはできません。Save To Disk 領域をファイル形式で作成しているときは、「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮機能は使用しないでください。

 **アドバイス**

Save To Disk 領域に必要な容量

Save To Disk 領域には、メインメモリ容量とビデオメモリ容量以外に若干の作業容量が必要です。そのため、Save To Disk 領域の容量は、メインメモリ容量とビデオメモリ容量の合計よりも多くなっています。

Save To Disk 領域を変更する

アドバイス

Save To Disk 領域を作成するとき

Save To Disk 領域は、「ファイル形式」または「区画設定」のどちらか一方で作成できます。

区画として Save To Disk 領域を作成するとき

- ・区画として Save To Disk 領域を作成するときは、FDISKユーティリティで MS-DOS 領域を作成する前に行ってください。
- ・「区画設定」で Save To Disk 領域を作成する場合は、「ファイル形式」で作成する場合よりも、大きな容量が必要になります。

Save To Disk 領域を作成したあとは再起動してください

Save To Disk 領域を作成した場合は、作成後に必ず再起動してください。再起動せずに Save To Disk 機能を使うと、正しく動作しない場合があります。

アドバイス

区画として作成した Save To Disk 領域を増やすとき

区画として作成した Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量を FDISK ユーティリティを使って減らす必要があります。ただし、FDISK によって MS-DOS 領域の容量を変更すると、それまでの MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。作業の前には、必要なデータのバックアップを行ってください。

Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行うには、PHDISK ユーティリティを使用します。PHDISK ユーティリティ (PHDISK.EXE) は「リカバリ CD-ROM セットアップ起動ディスク」に入っています。

また、Windows98 の場合、PHDISK ユーティリティは、Windows モードが起動されていると正しく動作しません。フロッピーディスクドライブに「リカバリ CD-ROM セットアップ起動ディスク」を入れて本パソコンを起動し、起動後に表示される「Windows 98 リカバリメニュー」で、**[3]** を押してお使いください。

「A:¥>」のあとに、実行するコマンドとオプションを入力します。

コマンド

```
PHDISK { オプション }  
      |  
      | /CREATE /PARTITION  
      | (または /CREATE /FILE)  
      | /INFO  
      | /DELETE /PARTITION  
      | (または /DELETE /FILE)  
      | /REFORMAT /PARTITION
```

PHDISK をオプションなしで起動すると、簡単な使いかた、現在作成されている領域などが表示されます。

なお、Save To Disk 領域の変更を行ったあとは、メッセージに従って操作をしてください。本パソコンが再起動します。

オプション

それぞれのオプションは、先頭の1文字だけでも有効です。たとえば、「/CREATE」と「/C」は同じことです。また、「/PARTITION」と「/P」も同じです。

/の前は、 を1回押してください。

それぞれのオプションの詳細は次のとおりです。

作成 : /CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)
Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使います。/CREATE /FILE と指定すると、Save To Disk 領域をファイル形式で作成します。/CREATE /PARTITION と指定すると、Save To Disk 領域を区画設定で作成します。Save To Disk 領域の容量は、現在のシステム構成に最適な容量の領域を作成します。

区画設定で Save To Disk 領域を作成したときは、作成が終わると、その領域のフォーマットを開始します。フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。


- 削除** : /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)
すでに作成している Save To Disk 領域を削除する場合に使用します。
/DELETE /FILE と指定すると、ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。
/DELETE /PARTITION と指定すると、区画設定で作成された Save To Disk 領域を削除します。
Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、/DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、/CREATE によって現在搭載されているメモリ容量の Save To Disk 領域を作成します。
- 再フォーマット** : /REFORMAT /PARTITION
区画として作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。
このオプションは、Save To Disk 機能を使っていて、読み出しエラーや書き込みエラーが起こった場合に使ってください。
すでに作成している Save To Disk 領域を再フォーマットします。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。
- 詳細情報** : /INFO
すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。
- 表示例 :
- ・区画設定で作成した場合
Save To Disk 領域詳細情報:
開始セクタ:XXXXXX (ヘッド X、シリンダ XXX、セクタ X)
全容量:XXXXXX バイト
 - 現在の状態:
現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。
 - ・ファイル形式で作成した場合
Save To Disk 領域詳細情報:
現在の Save To Disk 領域は、ファイル名が C: ¥SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、及び読取専用です。
 - 現在の状態:
現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意

- ・制限事項 ←P.174
- ・赤外線通信をするときの注意 ←P.174
- ・転送速度について ←P.175
- ・Windows98の赤外線機能を使用しているとき ←P.175
- ・Intellisyncの設定を確認する ←P.176

本パソコンの赤外線通信ポートを使うと、赤外線通信機器を持った他のコンピュータと、ケーブルを接続することなく通信することができます。

本パソコンには、赤外線通信のアプリケーションとして、「Intellisync」が用意されています。赤外線通信をお使いになる前に以下の注意事項をご覧ください。設定を行ってください。なお、「Intellisync」を使った通信について詳しくは、「Intellisync」のマニュアルをご覧ください。

←  『Intellisync for Notebooks クイック・リファレンス・ガイド』

制限事項

- ・Windows98を終了させるときは、必ず「Intellisync」を先に終了させてください。
- ・データの通信中に、赤外線通信ポートをふさいだりして、通信エラーが発生した場合は、「Intellisync」をいったん終了させてから、再度行ってください。そのままお使いになると、正常に通信できないことがあります。
- ・「Intellisync」のシンク機能では、ファイル名に全角文字が含まれたファイルを指定すると、正しく動作しない場合があります。
- ・通信相手のパソコンが4Mbpsモードでの通信をサポートしていない場合、Intellisyncは自動的に通信モードを切り換えます。それでも正常に通信できない場合は、本パソコンの通信モードを115Kbps以下に変更してください。

赤外線通信をするときの注意

- ・赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートにACアダプタやCRTディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。
- ・互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能な状態にし、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。
- ・距離は、20～50cmの範囲内でのご使用をお勧めします。特にバッテリー運用時は、互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。
- ・データの転送中にお互いのパソコンを動かすと、データ転送が失敗することがあります。
- ・次のようなときは、うまく通信ができない場合があります。
 - 互いの赤外線通信ポートが、真正面に向き合っていないとき
 - 互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎたり、間に遮断物があるとき
 - テレビ、ラジオなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作しているとき
 - 直射日光や蛍光灯・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートにあたっているとき

転送速度について


本パソコンは、「Intellisync」を搭載しており、最大 4Mbps の速度で通信できます。

転送速度は、通信相手のパソコンにより異なります。

- ・ 115Kbps のパソコンと通信する場合
自動的に 115Kbps モードで接続されます。
- ・ 4Mbps のパソコンと通信する場合
自動的に 4Mbps モードで接続されます。

Windows 98 の赤外線機能を使用しているとき

Windows 98 に標準添付されている赤外線デバイスを実行していると、「Intellisync」が正常に動作しないことがあります。その場合、次の操作を行ってください。

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2**  (赤外線モニタ) をクリックします。
「赤外線モニタ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「オプション」タブをクリックします。
- 4** 「赤外線通信を使用可能にする」をクリックして を にします。
- 5** 「OK」をクリックします。



アドバイス

コンピュータ名について

あらかじめインストールされている「Intellisync」は、「コンピュータ名」に「OEMCOMPUTER」が登録されています。通信相手の「コンピュータ名」が同じ名前になっていると通信できません。その場合は異なる名前になるように設定を変更してください。変更は「Intellisync」の「接続設定マネージャ」の「識別」タブの「コンピュータ名」で行います。

ZAURUS との通信について

「Intellisync」では、ZAURUS との通信はサポートされていません。

Intellisync の設定を確認する

BIOS セットアップでの設定

本パソコンご購入時は、BIOS セットアップは以下のように設定されています。うまく通信できない場合は、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「周辺機器設定」で、「シリアルポート B」の各項目が以下の設定になっているか確認してください。

- ・シリアルポート B : 使用する
- ・モード : FIR
- ・I/O ベースアドレス : 2E8
- ・割り込み番号 : IRQ 3
- ・I/O ベースアドレス : 118
- ・DMA チャンネル : DMA 3

「BIOS セットアップの操作のしかた」(←P.133)

内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意



近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。



モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。

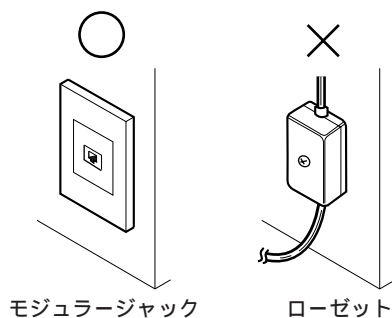
- ・モデムが使用可能な回線
本モデムは、接続する電話回線がNTTの一般公衆電話回線の電気的な仕様と同じでないと正常に動作しません。
- ・ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません
本モデムが接続できる回線は、一般のNTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTTの電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカーや保守業者にお問い合わせください。
- ・デジタル回線に接続する場合
本モデムはデジタル網（ISDN等）やデジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続することはできません。モデムカードが故障する恐れがありますので、ターミナルアダプタ等を経由して、アナログポートに接続してご使用ください。
- ・PBXに接続する場合
PBXに接続される通信回線の仕様がNTTの電話回線と電気的な仕様が異なる場合、本モデムが使用できない場合があります。例えば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについてはNTT回線の仕様に準拠しています。接続する前に、使用されているPBXの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。
ただし、“0”発信によって外線に接続するPBX内線電話の場合、ご使用のアプリケーションの設定で初期化コマンドにATX3を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できることがあります。
- ・キャッチホン1契約をしている場合
キャッチホン1契約をしている場合は、パソコン通信やFAX送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その際、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン2に変更するか、または同一の回線ではご使用にならないでください。
- ・通信アプリケーションご使用時の注意
通信アプリケーションでデータのアップロード・ダウンロードを行う際には、パソコンをサスペンド状態にならないように設定してください。アップロード・ダウンロードの途中でサスペンド状態になると、データ転送が中断することがあります。

- ・電源ケーブル等は離してご使用ください
電源ケーブル等は、ノイズを発生して電話回線に影響をおよぼす場合があります。モデムをご使用になる際は、これらのノイズ源と回線を影響のない程度に離してご使用ください。
- ・他のモデムを接続しないでください
他の外付けモデム、または電話機付きのモデムなどが、本モデムの「TEL」端子に接続されている場合は取り外してください。
- ・ナンバーディスプレイ対応の電話番号で接続する場合
「184」「186」の電話番号をつけてダイヤルする場合、正常に接続できないことがあります。その場合は「184」「186」の電話番号と接続先の電話番号の間に「,」（半角のカンマ）を入れてダイヤルしてください。

電話回線の接続口の形状

一般的に電話回線の接続口には、「モジュラージャック」と「ローゼット」と呼ばれる2種類があります。モジュラーケーブルは、接続口がモジュラージャックの場合のみ接続できます。

ローゼットなどモジュラージャック以外の形状の場合は、NTTに工事を依頼する必要があります。



電話回線に電話機を取り付けているとき

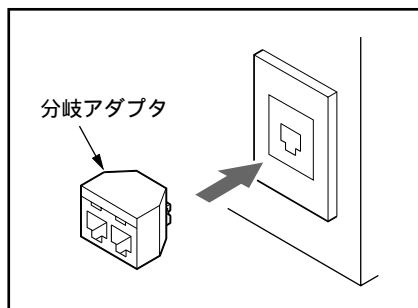
電話回線と本パソコンを接続するときは、電話機のモジュラーケーブルは取り外してください。

アドバイス

電話機のモジュラーケーブルを取り外したくないとき

市販の分岐アダプタを利用すると、本パソコンと電話機の両方をモジュラージャックに接続できます。分岐アダプタを利用するときは、以下のことに注意してください。

- ・パソコンと電話機で同時に電話回線を使うことはできません。
- ・インターネットやパソコン通信をしているときは、電話機の受話器をはずさないようにしてください。受話器がはずれると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。
- ・分岐アダプタの2つのモジュラージャックに、接続区別はありません。電話機、または本パソコンをどちらのモジュラージャックに接続してもかまいません。
- ・分岐アダプタを使用するときは、なるべく2分岐以内にお使いください。



モジュラーケーブルの長さが足りないとき

添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をお買い求めください。

携帯電話で通信する場合

「携帯電話やPHSを接続する」(P.105)

認証番号の表示

本モデムの技術基準適合認証番号は、パソコン本体下面に表記されています。



ドライバのインストール

ドライバのインストール方法について説明します。

- ・ インストールのときに気をつけること ←P.180
- ・ ディスプレイドライバをインストールする ←P.181
- ・ サウンドドライバをインストールする ←P.186
- ・ Logitech MouseWare をインストールする ←P.191
- ・ CD ボタンハンドラの削除 / インストール ←P.193

インストールのときに気をつけること

アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何も無いところで、マウスの右ボタンを1回押し、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows 98 の標準画面に切り替わります。

インストール終了後、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

アプリケーションやウィンドウの終了

「Windows 98 へようこそ」画面など、開いているウィンドウや、実行中のアプリケーションをすべて終了させてください。タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。タスクバーに常駐している「FM便利ツール」はスタートメニューから終了、「VirusScan」や「PMSet98」などは右クリックで終了してください。

また、何度もパソコンが再起動するので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

スクリーンセーバーの解除

スクリーンセーバーを設定している場合は（お買い求めのときは設定されています）、「なし」に設定してください。

「バージョンの競合」ウィンドウ

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず「アプリケーションCD」または「ドライバディスク」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。



アドバイス

「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されないとき

[Ctrl]を押すタイミングが合わなかったことが考えられます。本パソコンを再起動して、手順3からやり直してください。

画面に何も表示されていない場合は、一度本パソコンの電源を切り、手順2から操作し直してください。それでも「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されるときは、本パソコンをSafeモードで起動できません。弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。



アドバイス

Safeモードとは

Windows98を必要最低限の状態での起動する方法です。ディスプレイなどの設定に問題が起きた場合、一時的に使用します。

Windows98が起動してしまっ

たとき
手順4の操作を行わないまま30秒経過すると、自動的にWindows98が起動してしまふことがあります。その場合は、本パソコンを再起動して、手順3からやり直してください。

エラーメッセージについて

Windows98が起動してから、いろいろなエラーメッセージが表示される場合があります。すべて「OK」をクリックしてください。

ディスプレイドライバをインストールする

ゲームなどをインストールすると、本パソコンに合わないディスプレイドライバが自動的にインストールされてしまうことがあります。Windows98が起動しなくなることがあります。そのような場合は、本パソコンを一度Safeモードで起動してから、正しいディスプレイドライバをインストールします。ここでは、本パソコンをSafeモードで起動する方法を説明します。



SafeモードでWindows98が起動したら、ディスプレイドライバをインストールしてください。

SafeモードでWindows98を起動する

インストールする前に以下のことを行ってください。

- ・ CD-ROM ドライブユニットを取り付けます。
「マルチベイアダプタを取り付ける」(←P.28)
「ユニットを交換する」(←P.32)
- ・ CD ボタンハンドラを削除します。
「CD ボタンハンドラを削除する」(←P.193)
- ・ アクティブデスクトップの解除を行います。
「アクティブデスクトップの解除」(←P.180)

- 1** キーボードの [Ctrl] の位置を確認します。
- 2** パソコン本体の電源を入れます。
「電源を入れてパソコンを使おう」(←P.62)
- 3** 「FUJITSU」のロゴマークが表示されたら、[Ctrl] を押し続けます。
「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。
- 4** または を押して、「3. Safe mode」を反転表示させ、[Enter] を押します。
しばらくすると、Windows98がSafeモードで起動し、「ハードウェア設定の選択」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「ハードウェア設定の選択」ウィンドウで「Dock 1」をクリックして反転表示させ、「OK」をクリックします。
「デスクトップ」ウィンドウに、Safeモードの説明が表示されます。
- 6** 「OK」をクリックします。
- 7** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 8**  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 9** 「設定」タブをクリックします。
- 10** 「詳細」をクリックします。
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「アダプタ」タブが表示されていないときは、「OK」をクリックし、もう一度「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしてください。「アダプタ」タブが表示されます。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 12** 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 13** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックし、 にします。
- 14** 「次へ」をクリックします。
- 15** 一覧から「ディスプレイアダプタ」を選び、「次へ」をクリックします。
- 16** 製造元とモデルを以下のように選びます。
製造元：「(標準ディスプレイ)」
モデル：「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」
- 17** 「次へ」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 19 へ進んでください。
- 18** 「はい」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 19** 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。

- 20** 「完了」をクリックします。
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 21** 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 22** 「閉じる」をクリックします。
「続行しますか?」というウィンドウが表示されます。
- 23** 「はい」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 24** 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

このあとは、次の「ディスプレイドライバのインストール」をご覧ください。正しいディスプレイドライバをインストールしてください。

重要

メッセージが表示されたとき


再起動後に「ディスプレイ設定に問題があります。」というメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックし、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「色」を「16色」に設定します。そのあと「OK」をクリックして「画面のプロパティ」ウィンドウを閉じ、本パソコンを再起動してください。

ハードウェアウィザードが始まるメッセージが表示されたとき

ドライバを削除したり、間違ったドライバをインストールしたりすると、「OKをクリックするとハードウェアウィザードが始まります。」というメッセージが表示されることがあります。その場合は、必ず「キャンセル」をクリックしてください。

ディスプレイドライバのインストール



 けが CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

- 1**  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブにセットします。
「セットする」(←P.46)

アドバイス



「コントロールパネル」ウィンドウに説明を表示させるには再起動後に「コントロールパネル」ウィンドウを表示すると、左端に説明が表示されることがあります。このときは、「コントロールパネル」ウィンドウで「表示」メニューの「Webページ」をクリックして▼(チェックマーク)を付けてください。説明が表示されるようになります。



アドバイス

「アダプタ」タブが表示されていないときは

「OK」をクリックして、一度「画面のプロパティ」ウィンドウに戻り、もう一度手順5からやり直してください。

- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「設定」タブをクリックします。
- 5 「詳細」をクリックします。
- 6 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 8 「特定の場所にあるすべての……」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
- 9 「ディスク使用」をクリックします。
- 10 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に e:¥Neo256d と入力し、「OK」をクリックします。
- 11 「NeoMagic MagicMedia 256 AV」が選ばれていることを確認し、「OK」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。
- 12 「はい」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 13 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされます。
コピーが終わると、「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 14 「完了」をクリックします。
「NeoMagic MagicMedia 256 AVのプロパティ」ウィンドウに戻ります。



アドバイス

「続行しますか?」というメッセージが表示されたとき

「はい」をクリックしてください。

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき

1 「OK」をクリックします。

「この設定を保存しますか?」というメッセージが表示されます。

2 「はい」をクリックします。


「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。


3 手順 16 に進みます。

15 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

16 「閉じる」をクリックします。
「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されます。

17 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

18  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。
「取り出す」(←P.48)

19 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。

20 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

21 「ディスプレイアダプタ」の「標準ディスプレイアダプタ(VGA)」に「!」が表示されているときは、「標準ディスプレイアダプタ(VGA)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「!」が表示されていないときは、手順 22 へ進んでください。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。

22 「OK」をクリックします。

23 「閉じる」または「OK」をクリックします。

24 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。

25 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

お使いの状況に合わせて、画面の解像度と発色数を変更してください。


「画面の解像度や発色数を変える」(←P.54)

ご購入時は、解像度が 800 × 600 ドット、発色数は High Color(16 ビット)です。

このあと「CD ボタンハンドラのインストール」(←P.194) をご覧になり、CD ボタンハンドラを再インストールしてください。

サウンドドライバをインストールする

ゲームなどをインストールして音が正しく出なくなったときは、サウンドドライバをインストールします。

サウンドドライバのインストールは、「アプリケーションCD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

「インストールのときに気をつけること」(←P.180)






けが CD-ROMをセットおよび取り出すときには、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。


けがの原因となることがあります。

サウンドドライバのインストール

インストールする前に以下のことを行ってください。

- ・ CD-ROM ドライブユニットを取り付けます。
「マルチベイアダプタを取り付ける」(←P.28)
「ユニットを交換する」(←P.32)
- ・ CD ボタンハンドラを削除します。
「CD ボタンハンドラを削除する」(←P.193)
- ・ アクティブデスクトップの解除を行います。
「アクティブデスクトップの解除」(←P.180)

- 1** 「アプリケーションCD」をCD-ROM ドライブにセットします。
「セットする」(←P.46)
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3**  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 5** 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の左の をクリックします。
一覧が表示されます。すでに表示されている場合は、クリックする必要はありません。

- 6** 「NeoMagic MagicMedia 256AV + AC97 Driver(WDM)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
「NeoMagic MagicMedia 256AV + AC97 Driver (WDM) のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 8** 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 9** 「特定の場所にあるすべての……」をクリックし、にします。
- 10** 「次へ」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 12** 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、`e:¥neo256s` と入力し、「OK」をクリックします。
(e:にはお客様がお使いのCD-ROM ドライブ名を入力してください)
「デバイスの選択」ウィンドウが表示されます。
- 13** 「NeoMagic MagicMedia 256AV + AC97 Driver(WDM)」をクリックし、「OK」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 14** 「NeoMagic MagicMedia 256AV + AC97 Driver(WDM)」が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされます。コピーが終わると「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
- 15** 「完了」をクリックします。
「NeoMagic MagicMedia 256AV + AC97 Driver (WDM) のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 16** 「閉じる」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。



 **アドバイス**

「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されたときは

「はい」をクリックします。



「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されたときは

「e:¥neo256s」と入力し、「OK」をクリックします。

- 17** 「閉じる」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。
- 18** CD-ROMドライブから「アプリケーションCD」を取り出します。
- 19** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 20** 「再起動する」をクリックしてにし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動されます。

続けて「ボリュームコントロール」の設定を行います。

ボリュームコントロールの設定

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテインメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「オプション」メニューをクリックし、「プロパティ」をクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「音量の調整」の「再生」をクリックして  にします。
- 4** 「表示するコントロール」の以下の項目をクリックして にし、それ以外はすべて にして「OK」をクリックします。
 - ・ Line Out (表示されない場合があります。)
 - ・ マイク
 - ・ Phone
 - ・ PC Beep (表示されない場合があります。)
 - ・ ZV Audio (表示されない場合があります。)
- 5** 「ボリュームコントロール」ウィンドウですべての項目の「ミュート」をクリックして にします。
- 6** すべてのつまみを真ん中にします。
- 7** 「オプション」メニューをクリックし、「プロパティ」をクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 8** 「音量の調整」の「再生」が  になっていることを確認します。

6

技術情報 (ドライバのインストール)

9 「表示するコントロール」の以下の項目をクリックしてにし、それ以外はすべてにして「OK」をクリックします。

- ・ ボリューム コントロール
- ・ WAVE
- ・ SW Synth
- ・ CD オーディオ
- ・ ライン入力

10 「ボリュームコントロール」ウィンドウですべての項目の「ミュート」をクリックしてにします。

11 すべてのつまみを真ん中にします。

続いて「録音コントロール」の設定を行います。

録音コントロールの設定

1 「オプション」メニューをクリックし、「プロパティ」をクリックします。

「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「音量の調整」の「録音」をクリックしてにします。

3 「表示するコントロール」の「Sum」以外のすべての項目をにして「OK」をクリックします。

4 「CD オーディオ」の項目の「選択」をクリックしてにします。

5 「オプション」メニューをクリックし、「トーン調整」をクリックしてチェックマークを付けます。


6 「マイク」の項目の「トーン」をクリックします。

「マイクの詳細設定」ウィンドウが表示されます。

7 「そのほかの調整」の項目の「1 AGC(1)」をクリックしてにし、「閉じる」をクリックします。

8 「オプション」メニューの「トーン調整」をクリックして、チェックマークを外します。


9 すべてのつまみを真ん中にします。

10 「ボリュームコントロール」ウィンドウ右上の  (閉じるボタン) をクリックします。

このあと「CD ボタンハンドラのインストール」(←P.194) をご覧になり、CD ボタンハンドラを再インストールしてください。


Logitech MouseWare をインストールする

「Logitech MouseWare」をインストールすると、スクロールマウス機能を使用したり、フラットポイントの機能を拡張することができます。

「Logitech MouseWare」のインストールは、 「アプリケーション CD」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

「インストールのときに気をつけること」(←P.180)




 けが CD-ROM をセットおよび取り出すときには、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



制限事項

「Logitech MouseWare」をインストールすると、以下の場合に正しく動作しないことがあります。

- ・ BIOS セットアップの「詳細」メニューの「キーボード / マウス設定」で、「内蔵ポイントティングデバイス」(←P.142) を「自動」に設定しているとき (ご購入時は「自動」)
- ・ BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューで、「レジューム時のパスワード」(←P.144) を「使用する」に設定しているとき (必ず「使用しない」に設定してください)
- ・ PS/2 規格以外のマウスを接続しているとき

1  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
「CD-ROM をセットする / 取り出す」(←P.46)

2 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。

アドバイス

スクロールマウス機能とは

フラットポイントの右端を上下になぞると、アクティブウィンドウの中が上下にスクロールする機能です。

CD-ROM ドライブユニットを取り付けておいてください

「マルチベイアダプタを取り付ける」(←P.28)


「ユニットを交換する」(←P.32)

3 「名前」の右の欄に e:¥Pointlog¥setup.exe と入力し、「OK」をクリックします。

(e:には、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

4 「高速セットアップ」をクリックします。

インストールが始まります。
インストールが終了すると、「インストールが完了しました」というウィンドウが表示されます。

5 「すぐにWindowsを再起動する。」がになっていることを確認し、「完了」をクリックします。

本パソコンが再起動し、「新規デバイス」ウィンドウが表示されます。

6 「はい」をクリックします。

「デバイス設定ウィザード」ウィンドウが表示されます。

7 「次へ」をクリックします。

8 「クリックおよび選択に使用するボタン」というウィンドウで「次へ」をクリックします。

9 「中央ボタンの機能を選択」というウィンドウで「次へ」をクリックします。

中央ボタンとは、本パソコンではフラットポイントの左ボタンと右ボタンをいっしょに押すことです。

10 「簡単なダブルクリック」というウィンドウで「次へ」をクリックします。

11 「以下のようにデバイスが設定されます。」というウィンドウで「完了」をクリックします。

「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

12 「OK」をクリックします。

13  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。
「取り出す」(P.48)

アドバイス


設定を変更するには
フラットポイントのボタンの機能を変更するときは、「マウスのプロパティ」ウィンドウで行ってください。

マウスポインタの動きがおかしいときは

次の手順で「マウスウェア」を削除してください。
「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」を選択し、「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウの「インストールと削除」タブで「マウスウェア」をクリックし「追加と削除」をクリックしてください。メッセージが表示されたら「はい」をクリックし、「完了」をクリックしてください。本パソコンが再起動し「マウスウェア」が削除されます。

CD ボタンハンドラの削除 / インストール



CD ボタンハンドラを削除する

- 1** 「スタートボタン」をクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2**  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。
- 3** 「CD ボタンハンドラ」をクリックし、「追加と削除」をクリックします。
「ファイル削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「はい」をクリックします。
ファイルが削除されます。
- 5** 「OK」をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 6** 「OK」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。

6

技術情報 (ドライバのインストール)

CD ボタンハンドラをインストールする

- 1**  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3** 「名前」の右の欄に e:¥CDbutton¥setup.exe と入力し「OK」をクリックします。
(e:にはお客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。)
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「次へ」をクリックします。
「ファイルのコピー開始」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「次へ」をクリックします。
「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」が  になっていることを確認し、「終了」をクリックします。

ACPI について

本パソコンご購入時は、省電力機能として APM (Advanced Power Management) 機能が設定されています。本パソコンには Windows 98 がインストールされているので、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能に変更することもできます。

重要

必要のない方は設定を変更しないでください

本パソコンを ACPI 機能でお使いになるには、注意事項がたくさんあります。特に必要のない方は、APM 機能の設定のままお使いになることを、強くお勧めします。

注意事項をご確認ください

ACPI 機能をお使いになるときは、注意していただきたいことがあります。ここに記載している注意事項を十分確認してから、設定を変更してください。

操作手順を間違えないでください

設定を変更するときは、必ず手順どおりに行ってください。操作を間違えると、Windows 98 が起動できなくなる場合があります。

ACPI 機能使用時の注意事項

作成されたデータに関する注意

ACPI 機能を有効にする前に、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻します。

☞ 『トラブル解決 Q&A』の「第 4 章 ふりだしにもどす」

ご購入時の状態に戻すと、本パソコンご購入後に作成されたファイルは、すべて消えてしまいます。大切なファイルは、必ずバックアップをとっておいてください。また、本パソコンご購入後にインストールしたアプリケーションは、ACPI 機能が有効になったあとに、インストールし直す必要があります。

オプション機器に関する注意

本パソコンで使用する PC カードなどのオプション機器が、ACPI 機能に対応している必要があります。

ACPI 機能を有効にしたあとで、ACPI 機能に対応していない PC カードなどのオプション機器を接続すると、オプション機器が使えなかったり、サスペンド(一時停止)などの省電力モードから復帰できなくなる場合があります。事前にお使いになる PC カードなどのオプション機器が、ACPI 機能に対応しているかどうかをご確認ください。

なお、ご使用になる PC カードなどのオプション機器によっては、ドライバで ACPI 機能に対応できるものもあります。

APM 機能に戻すときの注意

ACPI 機能に設定を変更後に、再び APM 機能へ戻すときにも、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻す必要があります。

ネットワーク環境の使用時の注意

ネットワーク環境をご使用の場合、省電力モードへ移行すると通信先との接続が切れてしまい、レジューム(サスペンドする前の状態に戻す)時に、正常に通信を継続できなかったり、Windows98 が正常に動作しなくなる場合があります。

お使いになれない機能

BIOS セットアップの省電力メニュー

ACPI 機能では、Windows98 がすべての省電力機能を制御します。そのため、BIOS セットアップの省電力メニューの設定は、すべて無効になります。

休止状態 (Save to Disk 機能) について

ACPI モードでは休止状態をサポートしていません。

「コントロールパネル」の「電源の管理」で「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」を にしないでください。

モデム着信によるレジューム

スタンバイ状態 (サスペンド) のときにモデム着信をすると、常にレジュームします。

レジュームさせたくない場合は、モジュラーコネクタからモジュラーケーブルを抜いておいてください。

最新情報

ACPI 機能に関する最新の注意事項については、インターネットにてご案内する予定です。

あわせてご確認ください。

- ・インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp/>)

ACPI 機能を設定する

必要なものを用意する

- ・『トラブル解決 Q&A』
- ・「リカバリ CD-ROM セットアップ起動ディスク」
- ・「リカバリ CD-ROM」
- ・「アプリケーション CD」

ACPI 機能を設定する



重要

もう一度注意事項を確認してください

- ・ Windows98 の ACPI 機能を有効にしたあとに再び APM 機能に戻すときは、ハードディスク(Cドライブ)の内容をご購入時の状態に戻す必要があります。注意事項を再度ご確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、以下の操作を行ってください。
「ACPI 機能使用時の注意事項」(←P.195)
- ・ 操作手順は間違えないように十分注意してください。手順を間違えると、Windows98 が起動できなくなる場合があります。

ACPI 機能の設定を始める前に

PC カードなどのオプション機器を接続していたり、アプリケーションをインストールされている場合には、本パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。

オプション機器を取り外す

オプション機器を接続されている場合は、すべて取り外してください。また、すべての作業が完了するまでは、取り付けないでください。

BIOS セットアップの設定を戻す

BIOS セットアップの設定を変更している場合は、ご購入時の設定に戻してください。

「ご購入時の設定に戻す」(←P.138)

バックアップをとる

ご購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションは、すべて削除されます。必要なデータはあらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。また、インストールしたアプリケーションは、すべての作業が完了してからインストールし直してください。

ACPI 機能を設定する

アドバイス

CD-ROM ドライブ
ユニットを取り付け
ておいてください

「マルチベイアダプタを取
り付ける」(←P.28)

「ユニットを交換する」
(←P.32)

アクティブデスクトッ
プの解除を行います


「アクティブデスクトッ
プの解除」(←P.180)

- 1** ハードディスクの内容を、ご購入時の状態に戻します。
☞ 『トラブル解決 Q&A』の「第 4 章 ふりだしにもどす」
- 2** パソコンの電源を入れ、スタートアップのアプリケーション登録をすべて削除します。

重要

スタートアップには何も登録しないでください

スタートアップにアプリケーションが登録されていると、ACPI機能が正しく設定されない場合があります。スタートアップへの登録は、ACPI機能を有効にしてから行ってください。

- 3** 「CD ボタンハンドラ」を削除します。
「CD ボタンハンドラを削除する」(←P.193)
- 4** 本パソコンを再起動します。
「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されたら、「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
- 5** CD-ROM ドライブに  「アプリケーション CD」をセットします。
- 6** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイルを指定して実行」をクリックします。
- 7** 「名前」の右の欄に `e:¥chgacpi¥chgacpi.exe` と入力し、「OK」をクリックします。
(e:にはお客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください)
「FUJITSU ChgACPI」ウィンドウが表示されます。表示される内容をよくお読みください。
- 8** 「次へ」をクリックします。
- 9** 「ACPI モードに設定する」をクリックして を にし、「次へ」をクリックします。

アドバイス

メッセージが表示されたとき

新しいハードウェアを検出している途中で、メッセージやウィンドウが表示されたときは、次の操作を行ってください。

- ・「Windows 98 の CD-ROM を挿入してください」というメッセージが表示されたとき
「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで「c:\¥windows ¥options¥cabs」と入力して「OK」をクリックしてください。
- ・「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合
「はい」をクリックしてください。
- ・「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合
「OK」をクリックし、次に表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。
- ・「不明なデバイス」ウィンドウが表示された場合
「キャンセル」をクリックして、次に進んでください。

すべてのハードウェアの検出と設定が完了すると、再起動を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って本パソコンを再起動してください。

メッセージが表示されない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」ウィンドウで「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

10 「完了」をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。



画面の表示に従って、ハードウェアの検索を行ってください。検索には数分かかります。

検索が完了したら、画面の表示に従って Windows 98 を再起動してください。

Windows 98 を再起動すると、新しいハードウェアの検出が行われます。

重要


「セカンダリ IDE コントローラ」が検出されたときは

「新しいハードウェアの追加のウィザード」で「セカンダリ IDE コントローラ」が検出された場合は、「デバイスは一覧にない」の  クリックし  にし「次へ」をクリックしてください。

アドバイス

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに不明なデバイスが表示されたとき

Windows 98 の再起動中に「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに不明なデバイスが表示されたときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「キャンセル」をクリックします。
しばらくすると、もう一度「不明なデバイス」が表示されます。
- 2 「キャンセル」をクリックし、再起動します。
- 3 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 4 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
- 5 デバイスの種類の一覧で「システムデバイス」をクリックして反転表示させ、「次へ」をクリックします。
- 6 「ディスク使用」をクリックします。
- 7 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、e:\¥pmset と入力し、「OK」をクリックします。
(e:にはお客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください)
- 8 「モデル」欄に「Fujitsu FUJ02B1 Device Driver [3-18-1999]」と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します」というウィンドウが表示されます。
- 9 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーがはじまります。
- 10 「完了」をクリックします。

11 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

12 「名前」の右の欄に `e:¥fixacpi¥fixacpi.exe` と入力し、「OK」をクリックします。

(e:にはお客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください)



「FixACPI」ウィンドウが表示されます。表示される内容をよくお読みください。

13 「OK」をクリックします。
再起動を確認するメッセージが表示されます。

14 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動されます。

15  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。


16 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。



17  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブで「接続別に表示」をクリックして  にします。
「Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) BIOS」と表示されていることを確認します。
ACPI機能が有効になりました。

18 「OK」をクリックします。

続いて、3モードフロッピードライブを再インストールしてください。



3モードフロッピードライブを再インストールする

1 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

2 「種類別に表示」をクリックして  にし、「フロッピーディスクコントローラ」の左の  をクリックします。

3 「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。

4 「OK」をクリックします。

- 5 「閉じる」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの（ハードウェアの追加）をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というウィンドウが表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 9 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というウィンドウで「いいえ」をクリックしてにし、「次へ」をクリックします。
「インストールするハードウェアの種類を選んでください。」というウィンドウが表示されます。
- 10 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 11 「製造元」に「FUJITSU」を、「モデル」に「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)(FUJITSU)[11-18-1998]」を選び、「次へ」をクリックします。
- 12 「完了」をクリックします。

重要

「再起動しますか？」というメッセージが表示されたときは
「いいえ」を選んでください。


- 13 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」ウィンドウで、「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

このあと「CD ボタンハンドラのインストール」(←P.194)をご覧ください、CD ボタンハンドラを再インストールしてください。


Windows98 の再設定を行う

ACPI機能を有効にすると、Windows98 の設定の一部が変更されます。次の手順で再設定を行ってください。


SUS/RES スイッチを押したときの動作設定

ACPI機能を有効にすると、SUS/RES スイッチを押したときの動作設定が、「シャットダウン（電源断）」になります。「コントロールパネル」ウィンドウの （電源の管理）の「詳細」タブの「電源ボタン」で、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を設定して、サスペンドするように設定を変更してください。

液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定

ACPI機能を有効にすると、液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定が、「何もしない」になります。サスペンド機能を有効にするときは、「コントロールパネル」ウィンドウの （電源の管理）の「詳細」タブの「電源ボタン」で、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を設定してください。

オーディオの設定


ACPI機能を有効にすると、再生時のオーディオの詳細設定が「デスクトップステレオスピーカー」になります。「コントロールパネル」ウィンドウの （マルチメディア）の「オーディオ」タブの「再生」の一覧で「詳細プロパティ」をクリックし、「スピーカーの種類」を「ラップトップステレオスピーカー」に設定してください。

ACPI 機能を使う際のヒント

Windows98 で ACPI 機能を使うときには、APM 機能を使うときとは違った現象が発生します。ここではそのことについて説明します。

レジューム時の画面表示

「モデム着信によるレジューム」機能でレジューム（サスペンドする前の状態に戻す）時に画面が表示されません。

キーボードかフラットポイント（マウス）を操作すると画面が表示されます。表示されない場合には、状態表示 LCD の  が点滅していないか確認してください。点滅している場合にはサスペンドになっています。SUS/RES スイッチを押して、レジュームさせてください。

索引

記号

2DD フロッピーディスク	41
2HD フロッピーディスク	41

A

ACPI	195
AC アダプタ	65
- を取り付ける	65
- を取り外す	66
AC アダプタ表示	12
Alt キー	16
Application キー	16

B

Back Space キー	15
BIOS セットアップ	132
- が表示するメッセージ一覧	155
- ご購入時の設定に戻す	138
- 終了する	137
- 設定時に使用するキー一覧	135
- 設定を変更する	134
- 操作のしかた	133
- パスワード機能	149
- 変更内容を取り消す	136
- を起動する	133
- メニュー詳細	139

C

Caps Lock 英数キー	15
Caps Lock 表示	14
CD (音楽用)	
- を聞く	50
CD-ROM	45
- が取り出せなくなったとき	49
- 注意事項	45
- をセットする	46
- を取り出す	48
CD-ROM ドライブアクセス表示	12
- 点滅を止めるには	13
CD-ROM ドライブユニット	
- を取り付ける	32
- を取り外す	32
CD 再生 On/Off ボタン	18

CD ボタンハンドラ

- をインストールする	194
- を削除する	193

CRT コネクタ

8, 11, 167	
CRT ディスプレイ	86, 114
- 解像度と発色数	122
- 解像度と発色数を変更する	123
- 走査周波数	169
- 表示を切り替える	117
- リフレッシュレートを変更する	123
- を接続する	115
Ctrl キー	16

D

DC-IN コネクタ	5
Delete キー	15
DMA チャンネル	166
DOS/V	87
DVD	125
DVD-ROM ドライブ	125

E

End キー	16
Enter キー	16
Esc キー	14

F

FDD 接続コネクタ	19
FDD ユニット	17
- 外付けで接続する	35
- マルチベイアダプタで接続する	36
- を取り付ける	32, 35
- を取り外す	32, 38
FDD ユニットコネクタ	8, 11
Fn キー	16

G

GB (ギガバイト)	41
------------------	----

H

High Color	54, 122
Home キー	15

索引

203

I	
Insert キー	15
Intellisync	176

J	
JEIDA	100

K	
KB (キロバイト)	41

L	
LAN カード	99
Logitech MouseWare	191
LOW バッテリ状態	71

M	
MAIN スイッチ	5
MB (メガバイト)	41
MO ドライブ	130

N	
NeoMagic タブ	120
NEXT ボタン	20
Num Lk キー	15
Num Lock 表示	14

P	
PC/AT 互換機	87
PCMCIA	100
PC カード	87, 99, 107
- 注意事項	100
- をセットする	101
- を取り出す	103
PC カードアクセス表示	13
PC カードスロット	5
PC カード取り出し/ロックボタン	5
PDC コネクタ	7, 105
Pg Dn キー	16
Pg Up キー	15
PHS	105
- を接続する	108
PHS 接続カード	99

PIAFS	107
PLAY/PAUSE ボタン	20
PMS98	82
POST	132
PREV ボタン	20
Prt Sc キー	15

R	
RAM	93

S	
Safe モード	181
Save To Disk 機能	74, 78
Save To Disk 領域	171
- の容量	171
- を変更する	172
Scroll Lock 表示	14
SCSI	129, 130
SCSI カード	99
Shift キー	15
STOP/EJECT ボタン	20
SUS/RES スイッチ	3
SUS/RES 表示	12

T	
True Color	54, 122
TYPE	100

U	
USB	8
USB コネクタ	8, 10, 168

W	
Windows キー	16

ア	
アクセスポイントを変更する	110

イ	
インストール	88
- Logitech MouseWare	191
- サウンドドライバ	186
- ディスプレイドライバ	181

エ	
液晶ディスプレイ	2
- 明るさを設定する	57
- 明るさを変更する	57
- 解像度と発色数を変える	54
- 注意事項	22
- 廃棄	22
- 表示できる解像度と発色数	54
液晶パネル	20
エラーメッセージ	156

オ	
お手入れ	58
オプション機器	86
オプションユニットスロット	19
オプションユニットロックボタン	19
音楽 CD 再生ボタン	18, 20
音量	
- を調節する	52
音量つまみ	52
音量ボリューム	6, 52

カ	
カーソルキー	16
解除ボタン	9
解像度	
- CRT ディスプレイ	122
- 液晶ディスプレイ	54
拡張 RAM モジュール	93
拡張 RAM モジュールスロット	9
拡張キーボード	11
拡張キーボード / マウスコネクタ	8, 168
拡張コネクタカバー	8
各部の名称と働き	2
- コネクタボックス	10
- パソコン本体	2
- マルチベイヤダプタ	18
稼動時間	68
カバークローズスイッチ	4
画面	114
- 解像度と発色数	54

キ	
キーボード	4, 14
- のお手入れ	58
起動時の自己診断テスト	132
起動メニュー	147

ク	
クリーニングフロッピー	58

ケ	
携帯電話	87, 105
- 通信する	109
- を接続する	106
携帯電話接続カード	99
携帯電話接続ケーブル	105

コ	
コネクタのピン配列と信号名	167
コネクタボックス	10, 24
- 仕様	164
- を取り付け	24
- を取り外す	25
コネクタボックス接続コネクタ	8

サ	
サウンドドライバ	186
サスペンド / レジュームスイッチ	3
サスペンド機能	74, 75

シ	
充電	67
充電時間	68
終了	63
終了メニュー	63
終了メニュー (BIOS)	148
仕様一覧	162
詳細メニュー	140
状態表示 LCD	2, 12
省電力	74, 81
省電力メニュー	145
情報メニュー	147
所在地情報	109

シリアルコネクタ 11, 167

ス

スーパーディスクドライブ 127
スクロールマウス機能 191
スピーカー 2
- ON/OFFの確認 52

セ

赤外線通信ポート 7, 174
- 転送速度 175

セキュリティメニュー 143

接続・セット

- ACアダプタ 65
- CD-ROM 46
- CD-ROMドライブユニット 32
- CRTディスプレイ 115
- FDDユニット 32, 35
- PCカード 101
- PHS 108
- 携帯電話 106
- コネクタボックス 24
- テンキーボード 98
- 内蔵DVD-ROMドライブユニット 32
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット 32
- 内蔵バッテリーパック 72
- プリンタ 90
- フロッピーディスク 42
- マウス 98
- マルチベイヤダプタ 28
- メモリ 94
- ユニット 32

接続コネクタ 10, 17

接続ネジ 10

節電 74

- ご購入時の設定 81
- の設定を変更する 81

節電機能 80

ソ

走査周波数 169

タ

ダイヤルアップ接続 110

チ

調節

- 音量 52

ツ

通信

- 携帯電話 109

テ

ディスプレイ

- CRT 114
- 液晶 2
- のお手入れ 58
- 表示を切り替える 117

ディスプレイドライバ 181

テンキーボード 86

- を接続する 98

テンキーモード 17

電源 62

- 注意事項 62, 63

- を入れる 62

- を切る 63

電源の管理 81

電源の状態 83

電話回線 177

ト

同時表示 122, 169

盗難防止用ロック 6

ドライバ 88

ドライバのインストール 180

- サウンド 186

- ディスプレイ 181

- フラットポイントのドライバ 191

取り付け

- ACアダプタ 65

- CD-ROMドライブユニット 32

- CRTディスプレイ 115

- FDDユニット 32, 35

- PCカード	101
- PHS	108
- 携帯電話	106
- コネクタボックス	24
- テンキーボード	98
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット	32
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット	32
- 内蔵バッテリーパック	72
- プリンタ	90
- マウス	98
- マルチベイヤダプタ	28
- メモリ	94
- ユニット	32
取り外し・取り出し	
- AC アダプタ	66
- CD-ROM	48
- CD-ROM ドライブユニット	32
- FDD ユニット	32, 38
- PCカード	103
- コネクタボックス	25
- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット	32
- 内蔵スーパーディスクドライブユニット	32
- 内蔵バッテリーパック	72
- プリンタ	91
- フロッピーディスク	43
- マルチベイヤダプタ	29
- メモリ	97
- ユニット	32
取り外し許可ランプ	18
取り外しボタン	18

ナ

内蔵 DVD-ROM ドライブユニット	86, 125
- を取り付ける	32
- を取り外す	32
内蔵スーパーディスクドライブユニット	86, 127
- を取り付ける	32
- を取り外す	32
内蔵バッテリーパック	87
- を交換する	72
内蔵バッテリーパックスロット	9
内蔵バッテリーパックロック	9
内蔵マイク	2
- 注意事項	22

内蔵モデム	
- 仕様	165
- 注意事項	177

ニ

認証番号	179
------	-----

ハ

ハードディスク	129
ハードディスクアクセス表示	13
廃棄	22
パスワード	149
- 設定する	150
- 入力する	152
- 変更 / 削除する	153
パソコン本体	
- 注意事項	21
- のお手入れ	58

発色数

- CRT ディスプレイ	122
- 液晶ディスプレイ	54

バッテリー	67
- 異常表示	70
- 稼働時間	68
- 残量を確認する	69
- 充電時間	68
- 注意事項	72
- を交換する	72
- を充電する	67

バッテリー残量表示	12
-----------	----

バッテリー充電表示	12
-----------	----

バッテリーチャージャ	87, 130
------------	---------

バッテリーパック装着表示	12
--------------	----

パラレルコネクタ	11, 167
----------	---------

半角 / 全角キー	15
-----------	----

ヒ

光磁気ディスクドライブ	130
-------------	-----

フ

ファンクションキー	14
-----------	----

フラットポイント	4	メッセージ一覧	155
- 機能を拡張する	191	メモリ	87, 93
- 注意事項	21	- 容量の確認	96
プリンタ	86, 89	- を取り付ける	94
- を接続する	90	- を取り外す	97
- を取り外す	91		
プリンタドライバ	91	モ	
フロッピーディスク	35	モジュラーケーブル	179
- お使いになれる種類	41	モジュラーコネクタ	7, 168
- 注意事項	42	モジュラージャック	178
- のお手入れ	58	モデム	168, 177
- のデータを守る	44	- 仕様	165
- をセットする	42		
- を取り出す	43	ユ	
フロッピーディスクアクセス表示	13	ユニット	
フロッピーディスク取り出しボタン	17	- を交換する	32
へ		ラ	
ヘッドホン・ジャック	6	ラインイン・ジャック	7
		ラッチ	3
ホ			
放電	72	リ	
ボリューム	6, 52	リソース一覧	166
本体仕様	162	リフレッシュレート	123
マ		レ	
マイク	2	レジューム	77, 79
マウス	87		
- を接続する	98	ロ	
マウスコネクタ	8, 11	ローゼット	178
マルチベイヤダブタ	18, 27		
- 仕様	164	ワ	
- に取り付けられるユニット	31	割り込み番号 (IRQ)	166
- を取り付ける	28		
- を取り外す	29		
マルチベイヤダブタコネクタ	11		
マルチベイヤダブタ接続ケーブル	18		
メ			
メインメニュー	139		
メッセージ			
- が表示されたときは	160		

Microsoft および Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

NeoMagic MagicMedia 256AV および NeoMagic MagicMedia 256AV + AC97 Driver (WDM) は、NeoMagic™ Corporation の商標です。

K56flex は、Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。

MNP は、Microcom 社の登録商標です。

ZAURUS は、シャープ株式会社の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

FMV-BIBLO MF/33

使いこなす本 ハード編

B3FH-5291-01-01

発行日 1999年5月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

㊦ 9906-4



箱を開いたら...

箱の中身を確認してください。
ご購入後、できるだけ早く添付品を確認
しましょう。

はじめに読む本

まず最初に...

1 取扱説明書



パソコンが初めてなら...

2 かるがるパソコン入門



CD-ROMが
付いています。

FMVを知ろう!

3 FMV総合案内



使いこなす本



インターネット編

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



ソフト編

- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る
- ・写真でカレンダーを作る

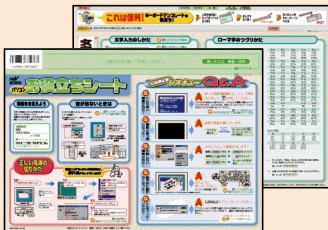
この本は次の機種には
添付されません。
FMV-DESKPOWER
ME/355
FMV-BIBLO
NE/33, MF/33



ハード編

- ・各部の名称を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす

困ったときの本



お役立ちシート

お手元に置いてお使いください。
・ありがちなトラブルの解決
・文字入力早わかり



トラブル解決Q&A

- ・困ったときの画面集
- ・トラブル解決の道のり
- ・サポート情報
- ・パソコンをふりだしにもどす
- ・アプリケーションのインストール



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。



T4988618873222